

5-4-2 職業訓練実施機関の評価

カウンターパートからの事情聴取の結果を以下表13に示す。

表13 カウンターパートからの訓練進捗状況等調査結果および評価

電気機器科

聞き取り調査対象者（カウンターパート氏名）		マルコス・ゴンザレス、フェリッペ・モルガン、セサル・バルガス、エンリケ・コレア
調査項目	調査結果	評価
<p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 専門家帰国後、訓練目標・時間等の設定、機材の操作、教材の作成等をどのように実行しているか？ 問題点はあるか？</p> <p>(2) 技術移転方法、協力期間等に問題点はなかったか？</p>	<p>(1) 訓練目標・時間の設定、機材の操作については、以前と変わっていない。ただ時間を有効に使えるよう配慮した。</p> <p>(2) 特に問題なかった。 ・カウンターパートにとって大変進展があった ・技術移転する際大きな問題となったのは、専門家とカウンターパートとの言葉の壁であり、多くの時間を費やした</p>	<p>(1) 技術協力中に設定された計画が現在も続けられている</p> <p>(2) 専門家赴任後数カ月間は言葉の面で苦労したが、その後は順調に技術移転がなされた</p>
<p>訓練内容</p> <p>(3) 協力期間中および協力期間後において訓練内容に変化が生じたか？</p> <p>(4) 現在の訓練内容は社会ニーズに合致していると思うか？ 改善点があるとすれば、どのような内容か？</p>	<p>(3) 特に変化なし</p> <p>(4) コース期間拡大の必要がある</p>	<p>(3) 協力終了後においては、インストラクターの努力により毎年訓練内容を検討し、改良していくのが望ましい</p> <p>(4) パナマ国のニーズに合う電気技術者を育てるためには、電気機器科1年コースでは無理がある。コース期間の拡大という意見も、より専門的な訓練までやるには時間が足りないという現実の問題を解決させたいがためのものである。 期間を延長するか、向上訓練的なコースを開くか検討すべき時期ではある</p>
<p>(5) 機材面で訓練内容に支障はないか？</p>	<p>(5) 支障なし ・供与機材の中で使用頻度が低いものもある</p>	

調査項目	調査結果	評価
<p>実施体制</p> <p>(6) 協力期間終了後、訓練実施体制上（組織・予算・募集活動・工場実習先の選定・卒業生の就職活動等）に変化または問題点が生じたか？</p> <p>(7) 訓練教材等の予算・調達に問題が生じたか？ 現在はどうしているか？</p>	<p>(6) パナマ経済危機により、卒業生の就職先がない</p> <p>(7) 経済危機で資機材購入が難しいが、日本側が協力してくれた。現在ある部品・材料では、今年度においては十分訓練に間に合うが、来年度以降が心配である</p>	<p>(6) 確かに1986年度卒業生より就職率が非常に悪くなっている。これはパナマ政情不安による経済危機に原因があるものと思われる</p> <p>(7) 1987年度よりパナマ側に教材購入の予算がついていない。これはパナマ経済が緊迫したためであるが、同国の職業訓練システムにおいても教材費予算が明確化されていない現状では、今後においても問題がある。 教材購入費は日本が全面的に援助</p>
<p>機材の使用状況・故障</p> <p>(8) 日本が協力した機材の使用状況はどうか？ 特に役立つ機材名は？ あまり役立たない機材名は？</p> <p>(9) 機材の故障状況は？ 修理はどうに行っているか？</p>	<p>(8) 良好な状況である ・機材の活用状況は普通である ・すべての機材を有効使用している</p> <p>(9) (故障機材) テスター（サンワ）2台 ……1台は修理可能、1台はメーカーの破損 電力計（YEW）2台 ……落下によりメーター部破損 電動巻線機1台 ……機械部品の故障 ・修理可能なものは、部品を購入し担当者が修理。パナマで手に入らない部品については日本に要望したい</p>	<p>(8) 機材活用については特に問題なし</p> <p>(9) アナログ型メーターの心臓部である指針部の故障であり、修理するには購入金額の60～80%近くの費用が必要である。取り扱いには特に注意したい。 他コースとも併せ機材修理チームの派遣も検討する必要がある</p>
<p>研修</p> <p>(10) 日本における研修は現在役立っているか？</p> <p>(11) 研修期間・内容はどうであったか？</p> <p>(12) 協力終了後、日本語の知識はなにかに活用しているか？</p> <p>(13) 新しい知識の習得のためどのような方法をとっているか？</p>	<p>(10) 役立っている</p> <p>(11) 良かった ・期間が非常に短い</p> <p>(12) 活用していない</p> <p>(13) 自己研修によって取得 ・本を利用 ・JICA供与の本で勉強している</p>	<p>(10), (11), (12) 日本研修は全般的に非常に役立っている。 ただ受け入れ側でのいろいろな問題もあるが、短い期間での研修なので、研修項目をしばらく確実に成果があるものとしたい。 日本研修の期間および日本語研修にも再検討が必要</p> <p>(13) 消極的方法しか行っていない</p>

調査項目	調査結果	評価
<u>教科書等の活用</u> (14) 専門家が作成した教科書等は現在役立っているか？活用状況は？	(14) 役立っている ・われわれに多大の協力をしてくれている ・現在ある教科書は基本的なものが多く、もっと応用的な教科書がほしい	(14) 専門技術書のないパナマ国においては非常に貴重なものである。 インストラクターの努力により、次々と新しい教材が網集されることを望む
<u>その他</u> (15) 日本側に対する要望は？	(15) 短期専門家を派遣してほしい (分野) ・電力素子の使用法 ・空気圧制御 ・日本に再度専門技術向上のため研修に行きたい	(15) 電気分野においても技術革新がめざましく、インストラクター技術向上のためには研修が必要である。 左記2分野においては、現在確実に指導できるインストラクターはいない

電子機器科

聞き取り調査対象者（カウンターパート氏名）	ダニエル・ロドリゲス、イグナシオ・ヒメネス、サウル・カバジェーロ、ボリス・サンチェス、ラモン・エスピノサ、マキシモ・モルガン	
調査項目	調査結果	評価
<p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 専門家帰国後、訓練目標・時間等の設定、機材の操作、教材の作成等をどのように実行しているか？問題点はあるか？</p> <p>(2) 技術移転方法、協力期間等に問題点はなかったか？</p>	<p>(1) 全員の指導員が話し合いの上それぞれのコースにおいて異なる教材を担当している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい科目については、他のコースの指導員に担当してもらった ・指導員が当初目標にそって訓練を実施し機材を最大限に利用、またコース向上のため教材の作成に努力中である ・政治危機でいろいろな点において下降、センターにとっても影響は大きかった <p>(2) 特に問題はなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の考えでは、まだ5年は援助を続けてほしい ・技術援助期間中、日本より専門家の派遣をしてほしかった。特にビデオ、デジタル式ラジオ等の分野を補強するために必要である ・もっと期間が長くほしかった。電子の技術はどんどん進歩する。われわれの受けた日本での研修ではもう古くなってきている 	<p>(1) 1988年中に訓練を担当していたインストラクターが4名退職しており、コース運営上かなり困難があったものと想像される。それでもインストラクターを補充しコースを予定どおり継続した努力は認めたい。現在においては問題なく進行中である</p> <p>(2) パナマ国のように電子部品、製品の生産工場がなく輸入のみに頼っている国においては、電子に関する技術力の向上は、自国においてはありえない。今後とも他国に頼るか、研修に行く必要がある。またこれだけ技術革新の早い電子分野においては、継続的な技術協力が必要であろう。</p> <p>ラジオ、テレビ、ビデオ等修理調整分野においては、担当していた指導員がすべて退職してしまい、現在、確実に指導できる指導員はいない</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>訓練内容</p> <p>(3) 協力期間中および協力期間後において訓練内容に変化が生じたか？</p> <p>(4) 現在の訓練内容は社会ニーズに合致していると思うか？ 改善点があるとすれば、どのような内容か？</p>	<p>(3) 訓練内容については以前と変化していない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次においては変化があった <p>(4) 現在では社会ニーズに合致していると思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標はしっかりしているが、パナマ国使用機器およびデジタル通信関係も訓練する必要がある ・社会ニーズに対して50%の内容しかプログラムでは応えることができなかった。特に改善しなければならないのは電子機器の修理分野である ・次の分野の訓練が必要である 16ビットマイクロプロセッサの使用法 医療機器の修理 	<p>(4) 新しい電子機器製品が次々と輸入され使われている現状を見れば、だれでも現在の訓練内容はこれでいいのかと考えるはずである。電子1年においては基礎訓練であり特に問題ないが、電子2年においては常に訓練内容を変更していく必要がある。現在使用されている機材は7年前のものであり、特にマイクロコンピューター、パーソナルコンピューター関連機材においては古くなった感じがする</p>
<p>(5) 機材面で訓練内容に支障はないか？</p>	<p>マイクロ波・光通信に関する知識 リモコン・マイコン使用の電子機器修理法 (新しい技能の習得に対し訓練生は十分対応できると思う)</p> <p>(5) 現在まで特に支障はない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン等のOSとしてMS-DOSが多く使用されているが、現在センターに対応機種がない 	<p>(5) パナマ側の努力により、新しい機材が整備されることを望む</p>
<p>実施体制</p> <p>(6) 協力期間終了後、訓練実施体制上(組織・予算・募集活動・工場実習先の選定・卒業生の就職活動等)に変化または問題点が生じたか？</p> <p>(7) 訓練教材等の予算・調達に問題が生じたか？ 現在はどうのようにしているか？</p>	<p>(6) この問題については、当初より確実に実施された</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パナマ経済危機により、コースの予算がなく、また多くの企業が工場実習の受け入れを希望しなかったが、どうにか実施できた ・INAFORP側に問題がある ・協力終了後、部品補給の面で問題がある ・特に経済危機以来、就職の点で問題がある <p>(7) 教材購入のための予算がなく困っている。現在のところ日本側が購入してくれる</p>	<p>(6) 1987年パナマ国の政情不安による経済危機以来、コース運営のための予算がつかず問題が発生している。また訓練生の工場実習受け入れ企業も少なくなるとともに卒業生の就職率も悪くなっている</p> <p>(7) 日本側が援助して、かろうじてコース実施のための教材が確保されているが、まだ不十分である。</p> <p>パナマ国職業訓練システムにおいて、教材予算が明確化されておらず、今後も厳しいコース運営が予想される</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>機材の使用状況・故障</p> <p>(8) 日本が協力した機材の活用状況はどうか？ 特に役立つ機材名は？ あまり役立つ機材名は？</p> <p>(9) 機材の故障状況は？ 修理はどのように行っているか？</p>	<p>(8) ・今日まで供与を受けた時と同じ状態で管理している。電子コースにおいてはどの機材も非常によく使用している</p> <p>・測定および機器調整用機材をよく使用する</p> <p>(9) (故障機材) オシロスコープ2台 安定化電源1台 テスター3台 標準信号発生器1台 mΩメーター1台</p> <p>・以上の機器は、交換部品がパナマでは手に入らない</p> <p>・はんだゴテ、工具等の損耗が多い</p> <p>・機材保守は定期的に行っている</p> <p>・修理可能な機材については、そのつど修理しているが、特殊機材・部品が手に入らないものについてはそのままである</p>	<p>(8) 機材活用については特に問題なし。</p> <p>基礎的実習をするための機材については問題ないが、応用実習用の機材について少々不足している感がある</p> <p>(9) 計測器類の修理は、日本においても各メーカーが担当し、修理マニュアルおよび回路図等の公開はしていないため、これら故障機材の修理は現地において非常に困難である。</p> <p>他コースとも併せ、機材修理チームの派遣を検討する必要がある。</p> <p>簡易テスター、はんだゴテ、工具等は消耗品であり、使用すればするほど壊れる物である。金額的にも安価なものであるから、パナマ側の努力により補充すべきである</p>
<p>研修</p> <p>(10) 日本における研修は現在役立っているか？</p> <p>(11) 研修期間・内容はどうか？</p> <p>(12) 協力終了後、日本語の知識はなにかに活用しているか？</p> <p>(13) 新しい知識の習得のためどのような方法をとっているか？</p>	<p>(10) ・研修は30%程度有効であった</p> <p>・日本で行った研修機材と同じものがセンターになく、学んだ技能が生かされていない。その他については非常に役立っている</p> <p>(11) ・6か月間の技術研修では少ない。それぞれの分野において十分時間がとれなかった</p> <p>(12) ・センター内においては特に必要ない</p> <p>・日本語の技術書を読めるまでには至らないので残念である</p> <p>・専門家と日本語でいくらか会話に利用した</p> <p>(13) ・パナマでは技術書は売っていないので、メキシコ、アメリカへ旅行する者に頼んで買ってきてもらい勉強する</p> <p>・特に新しい技術書は、ほとんど売ってなく困っている</p> <p>・専門書等で知識面の吸収をはかっている</p>	<p>(10), (11), (12) 日本研修は全般的に非常に役立っている。</p> <p>ただ受け入れ側のいろいろな問題もあるが、短い期間での研修なので、研修項目をしぼり確実に成果があるものとしたい。</p> <p>日本研修の期間および日本語研修にも再検討が必要</p> <p>(13) パナマ国内においては、本人がいくら努力しても新しい技術の習得はなかなか困難である</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>教科書等の活用</p> <p>04 専門家が作成した教科書等は現在役立っているか？活用状況は？</p>	<p>04 教科書は毎日使用しており、役立っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく使用しているが、内容によっては古くなった部分もあるので改訂したい ・実習書を多くしたい。特にラジオ・テレビ・VTR関係について ・生徒に貸し出し使用しているが、退校する者もあり、もどらない本があり困っている 	<p>04 基礎的分野における教科書については特に問題ない。</p> <p>ラジオ・テレビ・VTRに関する実技指導書の作成が確実に行われていない</p>
<p>その他</p> <p>05 日本側に対する要望は？</p>	<p>05 わが国に経済・技術援助を続けてほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい技術の習得のため専門家の派遣を望む ・ビデオ・テレビの新しい技術に関する日本専門家との短期セミナーを開催してほしい 	<p>05 電子・電気関係に関する技術研修は、一定期間やればよいというものでなく、常に必要なものである。</p> <p>特にパナマ国においては、新しい技術を習得するためには他国に頼らなければならず、苦勞している現状である。</p> <p>長期的な技術協力が必要であろう</p>

冷凍空調科

聞き取り調査対象者(カウンターパート氏名)	アルバロ・ロベス、ヘルマン・リース、アキリーノ・ロドリゲス、ルイス・A・ポベダ	
調査項目	調査結果	評価
<p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 専門家帰国後、訓練目標・時間等の設定、機材の操作、教材の作成等をどのように実行しているか？ 問題点はあるか？</p> <p>(2) 技術移転方法、協力期間等に問題点はなかったか？</p>	<p>(1) 各訓練科目について、ある科目では時間を増やし、また減らすということを必要性に応じて行った。機材活用については、スペイン語訳のマニュアルがなく、100%生かされていることがなく、この点を考える必要がある。科目時間は、訓練目的にそって非常によく振り分けられている。供与機材は定期検査を行っており、教材も含めよく管理されている。</p> <p>科目時間、目的は専門家が滞在している時と同様に行われているが、ただいくつかの科目については内容の変更がある。</p> <p>供与機材は利用されているが、唯一将来の不安として交換部品の不足がある。これがコースの進度に影響を与える</p> <p>(2) 語学面で、お互いに理解する上で問題があった</p> <p>冷凍空調においては、専門家の語学力の点で技術移転上少し苦労した</p> <p>技術移転に関して問題はない</p> <p>数々の協力の間、INAFORPは日本政府供与機材および高い技術により大きくなった</p>	<p>(1) 担当指導員が協力・努力して訓練時間、訓練内容を検討しつつ、毎年変化を持たせつつ訓練を実施している。</p> <p>機材操作における細かい点についてはマニュアルが必要であり、スペイン語マニュアルがないのは残念である。最低でも英語マニュアルがある機材を選ぶべきである。</p> <p>補修部品の確保は重要である</p> <p>(2) スペイン語圏における技術協力においては、専門家の語学力の問題がいつも上げられるが、冷凍空調という特殊分野においてスペイン語がたんのうな専門家をさがすのは難しい。海外技術専門家の養成が必要である。</p> <p>言葉の面で苦労はあったが、専門家、カウンターパートがお互い力を出し合って技術移転が確実に行われた跡がうかがえる</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>訓練内容</p> <p>(3) 協力期間中および協力期間後において訓練内容に変化が生じたか？</p> <p>(4) 現在の訓練内容は社会ニーズに合致していると思うか？ 改善点があるとすれば、どのような内容か？</p> <p>(5) 機材面で訓練内容に支障はないか？</p>	<p>(3) 訓練内容の展望については、何時も変化があるだろう。またそれがインストラクター側の不安材料でもある。特に時間がたつにつれ応用分野での研修が必要であり、現在持っていないような機材も必要になる。 ・実技面においてははいくらか変更した</p> <p>(4) われわれの分野においては社会ニーズにあわせて訓練計画を作成している。 ・社会の冷凍空調ニーズに内容が一致しているが、技術は日々進んでいるので、その点も考慮する必要がある ・コース内容はパナマにおいて最も進んだものであり、技術については企業主の要望を満たすものである。もしできれば時間がもっとあり期間が長ければ良いと思う</p> <p>(5) 特に支障はない ・各実習場にある機材は、コース内容に合わせて利用されている</p>	<p>(3) インストラクター自身、パナマ国の将来を見て訓練内容が今のままで良いとは決して考えていない。これからはインストラクターの努力により訓練内容が改良されていくことを望みたい</p> <p>(4) 企業等を回ったり、連絡を取り合い確実に社会ニーズをとらえている。 より専門的な訓練内容を実施するため、期間を延長するか、向上訓練的なコースを開講するか検討すべき時期にきている。いずれにせよインストラクターの技術向上のため必要である</p> <p>(5) 特に問題なし</p>
<p>実施体制</p> <p>(6) 協力期間終了後、訓練実施体制上（組織・予算・募集活動・工場実習先の選定・卒業生の就職活動等）に変化または問題点が生じたか？</p> <p>(7) 訓練教材等の予算・調達に問題が生じたか？ 現在はどのようにしているか？</p>	<p>(6) 政治危機の時に支障あり。資材購入に不足がある ・すべて現在まで同様な形で実施している ・現在まで日本政府の援助が続いており、経済危機およびINA・FORPの財政不足にもかかわらず、ほとんど100%コースが開講されている</p> <p>(7) これはわれわれの基本的な問題である。なぜならば良い職業訓練実施のためには、多量の訓練用教材が必要である ・現在は技術協力下にあるので問題はない (教材購入のための予算)</p>	<p>(6) 1987年パナマ国の政情不安による経済危機以来、いろんな面で支障が生じているが、INA・FORP職員の努力によりコースが実施されている。 工場実習・就職については、電子・電気コースほど打撃を受けていない</p> <p>(7) 日本側の援助にて、かろうじてコース実施のための教材が確保されている。 パナマ国の職業訓練システムにおいて、教材予算が明確化されておらず、今後も厳しいコース運営が予想される。 インストラクターはその点を指摘している</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>機材の使用状況・故障</p> <p>(8) 日本が協力した機材の活用状況はどうか？ 特に役立つ機材名は？ あまり役立つ機材名は？</p> <p>(9) 機材の故障状況は？ 修理はどのように行っているか？</p>	<p>(8) ・全機材がコースで利用されている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど理論を理解するために使用されている。またほとんどが訓練生の実習のために使用されていると思う ・現在よく使用されているのは実験用機材であり、またドリル、グラインダー、溶接機等もよく使用する <p>(9) (故障機材) 製氷機 (ナショナル) ……220V用リレーの焼損</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修理および購入ができない ・供与機材のほとんどが非常に良い状態であるが、あるものは故障しており、修理したものもある ・故障の問題点は、日本製でありパナマに交換部品がないことにある ・他の機器は故障していないが、故障した場合、交換部品がないので困る 	<p>(8) 特に問題なし。 工作用機材の重要性がうかがえる</p> <p>(9) パナマ国には220V用リレーがなく購入できない。 補修部品確保の重要性。 他コースとも併せ機材修理チームの派遣を検討する必要がある</p>
<p>研修</p> <p>(10) 日本における研修は現在役立っているか？</p> <p>(11) 研修期間・内容はどうかあったか？</p> <p>(12) 協力終了後、日本語の知識はなにかに活用しているか？</p> <p>(13) 新しい知識の習得のためにどのような方法をとっているか？</p>	<p>(10) ・非常に役立っている</p> <p>(11) ・私にとって研修は有益であったが、できればもう少し広い範囲であってくれればと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容については、予定計画のすべてをカバーするに至っていないが、それは滞在日数の不足によるものと思う ・コース内容は非常に基礎的であり、期間が短い <p>(12) ・現在まではほとんどない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語は専門家等と直接話をするなど有益に使っている <p>(13) ・大学へ通っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい知識習得のために本を読み、新しい機材の分解修理をしている ・現在マイコンを組み込んだ新しい機器がパナマに入っている。電子関係の技術が必要である 	<p>(10), (11) 日本研修は全般的に非常に役立っている。 ただ受け入れ側のいろいろな問題もあるが、短い期間での研修なので、研修項目をしっかりと確実に成果があるものとしてほしい。 日本研修の期間および日本語研修にも再検討が必要</p> <p>(12) 現在まだ他コースの専門家が残り、日本語が時々使用されている</p> <p>(13) このコースのインストラクターにとっても新しい技術の習得は大きな課題である。 電子分野の技術なので、電子機器科と協力する方法もある</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>教科書等の活用</p> <p>④ 専門家が作成した教科書等は現在役立っているか？活用状況は？</p>	<p>④ ・有効であり、新しい考えを導入中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その1つ1つがインストラクターには非常に良い援助となっている ・教科書は役に立つ。しかし毎年技術は進歩し改訂する必要がある ・編集された本は、インストラクター、生徒ともに有益に使用している 	<p>④ 専門技術書が手に入らないパナマ国において、ここで作成された教科書は非常に役に立っている</p> <p>基本的な内容は除いて、インストラクターが述べているように、技術の進歩に合わせて教科書の内容を改訂していかなくてはならない。</p> <p>パナマ側の努力を期待したい</p>
<p>その他</p> <p>⑤ 日本側に対する要望は？</p>	<p>⑤ ・日・パ協定の継続および知識向上のための研修を考慮してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術・経済援助を終わらせないでほしい ・冷凍空調の研修に対して非常に興味があるので実施してほしい 	<p>⑤ 技術協力終了後、定期的なフォローアップが必要である。</p> <p>現在コースを担当しているインストラクター4名のうち1名は、まだ日本研修を行っていない</p>

溶接科

調査項目	調査結果	評価
<p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 専門家帰国後、訓練目標・時間等の設定、機材の操作、教材の作成等をどのように実行しているか？問題点はあるか？</p> <p>(2) 技術移転方法、協力期間等に問題点はなかったか？</p>	<p>(1) 訓練計画はほとんど変更していない。また供与機材は特に大きな問題を生じていない。教材についてはすでに製本を終わり、まだ修正をするところは生じていない</p> <p>・機材の操作については厳重に注意を払って行っている</p> <p>(2) もっと応用作業をするための機材が欲しかった</p> <p>・専門家の語学力に問題があり技術移転の上で障害となった</p>	<p>(1) 供与機材保守管理の重要性についてカウンターパートの認識が不足している</p> <p>(2) 現状では、訓練上は特に新たな機材の必要性はない。しかし機材保守管理の面で技術移転が多少不満足な面があった</p>
<p>訓練内容</p> <p>(3) 協力期間中および協力期間後において訓練内容に変化が生じたか？</p> <p>(4) 現在の訓練内容は社会ニーズに合致していると思うか？改善点があるとすれば、どのような内容か？</p> <p>(5) 機材面で訓練内容に支障はないか？</p>	<p>(3) 基本的な内容については変更しなかったが、資格取得のために応用実習は多少の変更を行った</p> <p>(4) 国のニーズに適応していると思う。また海事協会の資格を与えて訓練のレベルアップができた</p> <p>・溶接の専門工として、実習の知識が役立っている</p> <p>(5) 十分な説明がなかった機材について、多少の不便が残った。そのためメーカーのマニュアルに頼らなければならなかった</p>	<p>(3), (4) カウンターパートからも評価は高い</p> <p>(5) パナマ側の混乱により移転計画に狂いが生じた</p>
<p>実施体制</p> <p>(6) 協力期間終了後、訓練実施体制上（組織・予算・募集活動・工場実習先の選定・卒業生の就職活動等）に変化または問題点が生じたか？</p> <p>(7) 訓練教材等の予算・調達に問題が生じたか？現在はどうしているか？</p>	<p>(6) 日本・パナマ職業訓練センターが訓練に必要な物資を買う予算が獲得できなかったため問題を生じた。また工場実習は社会情勢の混乱で実施上多くの問題を生じたが、訓練生は実習先で高く評価された</p> <p>(7) この問題に関しては、JICAからの援助と企業からの材料提供により解決した</p> <p>・政府の財政状況が悪化しており、今後も問題として残るだろう</p> <p>・国からの予算だけでは訓練の継続は不可能である。訓練はJICAから供与された教材で実施している</p>	<p>(6) 訓練生に対する工場実習先の評価は非常に高いものがある</p> <p>(7) 今後ローカルコスト負担をどのようにするか検討する必要がある</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>機材の使用状況・故障</p> <p>(8) 日本が協力した機材の活用状況はどうか？ 特に役立つ機材名は？ あまり役立つ機材名は？</p> <p>(9) 機材の故障状況は？ 修理はどのように行っているか？</p>	<p>(8) 全部の機材を有効に使用している ・一応すべての機材を使用しているが、あまり使われない物もある。それは、あまり知識を持っていないので操作に自信を持っていないからである</p> <p>(9) 故障した機材は、マニュアルに従って修理している ・今のところ特に問題となる故障はない</p>	<p>(8), (9) 機材の保守管理の重要性についてカウンターパートの認識が不足している</p>
<p>研修</p> <p>(10) 日本における研修は現在役立っているか？</p> <p>(11) 研修期間・内容はどうかあったか？</p> <p>(12) 協力終了後、日本語の知識はなにかに活用しているか？</p> <p>(13) 新しい知識の習得のためどのような方法をとっているか？</p>	<p>(10) 大いに役立っている ・私にとって機材の操作、訓練計画の実施、そして教材作成方法が有益であった</p> <p>(11) 非常に良い内容だった ・研修内容は大変良かったが、もっと学びたいことが多く、期間が短いと思う</p> <p>(12) 日本語は、カウンターパートの間で練習している</p> <p>(13) アメリカ溶接協会の会員となって、そこからスペイン語に翻訳された最新の情報を得ている ・専門書に頼っている。そこで得た知識を実際に応用している</p>	<p>(10), (11), (12) カウンターパートからの評価は高い</p> <p>(13) スペイン語の文献の入手に苦勞をしている。場合によっては日本語研修の他に英語研修も検討する必要がある</p>
<p>教科書等の活用</p> <p>(14) 専門家が作成した教科書等は現在役立っているか？ 活用状況は？</p>	<p>(14) 専門家と一緒に作った教科書を訓練生に貸し出して利用している</p>	<p>(14) 教科書等の活用状況は良好である</p>

自動車整備科

調査項目	調査結果	評価
<p>聞き取り調査対象者（カウンターパート氏名）</p>	<p>ダゴベルト・バルバ, アルヌルフオ・サンチェス, カルロス・モリナレス</p>	
<p>技術移転進捗状況</p>		
<p>(1) 技術移転目標達成度（理論面、実習面、機材操作、教材作成、etc.）</p>	<p>(1)・目標の達成度は非常に良好であり、理論については新しい事柄を理解できるし、疑問を明らかにすることができる。かわって、今まで使用法や進め方、作り方を知らなかった実習、機械操作、同様に教材作成等について、近代的で新しいシステムを理解することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術移転は両分野において申し分なく実施されていると考える。機械、器具の取り扱いを含めた知識の習得はうまくいっているし、また教材作成の実施状況についても同様である ・私にとって技術移転（学科、実技）獲得度、到達度というものについては非常に興味深いものであるので、R/Dの期間が終了するまでに技術移転が終わらなければいけないし、延長が必要である 	<p>(1), (2) 全体としてR/D終了までに技術移転可能</p>
<p>(2) 技術移転方法、期間等に問題点はないか？</p>	<p>(2)・カウンターパートのうちのひとりが十分な時間がとれず知りたいと思うすべてを理解しようとする時、いつも問題があった。ひとつの問題としては思わないけれども、意見として、工学的な技術知識の技術移転については、もっと期間を延長しなければいけないと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術移転のために、1日の中の早い時間に実施するとかあるいは一度訓練が終了した時に実施した方がもっと容易にできるし、またすべてのカウンターパートが一堂にいて実施できると思う 	

調査項目	調査結果	評価
<p>(3) 協力期間延長の要否について？ 延長必要の場合、期間および具体的技術移転対象項目は？</p>	<p>(3) 期間延長についてはおおむね1年程度必要であり、対象項目については自動車用のコンピュータ化された電子回路関係である。おおむね1年半から2年の延長が必要である。というのもこの期間にすべての機械、機器の取り扱いの勉強をすることができるし、自動車整備料の内容そのものを強化することができる。しかしながら、そのためには両方の当事者の協力が不可欠である。</p>	<p>(3) カウンターパートより期間延長の要望はあるものの、当初計画の技術移転はほぼ完了しており、期間延長の必要性はない。</p>
<p>訓練内容</p> <p>(4) 現在の訓練内容は、社会ニーズに合致していると思うか？ 改善点があるとすればどのような内容か？</p>	<p>(4) 社会ニーズに合致している。しかしながら、シャシ装置についての前輪駆動式の自動車（サスペンションを含む）の内容の改善と電子制御装置についての知識を拡大させる必要があると思われる。</p> <p>・現在訓練生に実施しているところの訓練は、自動車整備分野についての職業訓練の社会ニーズにびったり合致している。しかしながら、すでにパナマに存在する多種類の異なる自動車に対応するために、実技の内容をもっと深め、充実させなければいけないと考える。</p> <p>・コースの訓練内容については社会のニーズを十分に網羅していると考えられる。しかしながら、改善しなければいけない箇所もある。例えば年間訓練計画の中で実施中の実技の内容に対応した学科の実施といった計画の立て方を改善しなければいけないと思われる。</p>	<p>(4) 現在の訓練内容に対するカウンターパートの評価は高い。 電子制御装置等についての技術援助は、装置のパナマでの普及状況から見て当面必要ないと思われる。</p>

調査項目	調査結果	評 価
<p>実施体制</p> <p>(5) 訓練実施体制上(組織・予算・募集活動・工場実習先の選定・訓練資材の調達・卒業生のための就職活動側面的 etc.) の問題はないか?</p>	<p>(5) 組織、予算、資材調達、卒業生の就職については問題があると思われる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常にコースの開始時にコースについてのインフォメーションに従って訓練生の選考がシステムとして今日採用されている ・現在のところ、政治的な問題や経済危機により左記に示されたすべての問題がある 	<p>(5) 現在のパナマの経済情勢ではやむをえないことである</p>
<p>日本側投入実績</p> <p>(6) 供与機材の内容およびレベル等について問題点はないか? (メンテナンス管理状況)</p> <p>(7) ローカルコスト負担について 日本側に対して要望はないか? (例えば教科書作成費 etc.)</p>	<p>(6) 大きな問題はない。ただ最新車種に対応する多種類、多数の機械、器具、工具を充実させなければならない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の整備、メンテナンスに対して良いサービスをするために必要とされる機械、器具の供与は現在そのレベルにあると言える ・今現在のところ、機械、機器の取り扱い、メンテナンスに対しては問題はない。しかしあいまになっているいくつかの機械については使用法の説明を受けなければいけない <p>(7) もし日本政府側が教科書作成費を与えてくれば、ローカルコストでは印刷作成することはできないと考えている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技部門であれ学科部門であれ、どのようなタイプの日本側の中し出も喜んで受ける ・現在のところ、パナマ政府はいかなる種類の予算も承認できるだけの能力を持ち合わせていないので、パナマ側のローカルコスト負担は非常に難しいと認識している 	<p>(6) 現状では特に問題はない</p> <p>(7) パナマ側としては、訓練の有料化あるいは実習収益を上げる方法を検討する必要がある</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>日本における研修</p> <p>(8) 研修期間および内容についてどのように評価しているか？</p>	<p>(8) ・日本研修は非常に良かった。しかしながらその期間が非常に短かった。それで、いくつかのテーマの確信を獲得できるようにするために、もっと長い期間が必要である</p> <p>・私にとって研修はとても良い機会であったし、いろいろなことについての疑問を解くことができた。しかしながら、自動車整備の分野での専門用語については、通訳、コーディネーターを含めて問題があった</p> <p>・一度日本語をある限られた短い期間に勉強するという意味で少し短いと思うし、それがまた、ひとつの科の専門知識を短い期間で勉強するにはあまりにも短すぎる。そして語学研修の中では専門的な機械用語が含まれていない</p>	<p>(8) 研修期間の長短については、個人差があり評価できない。</p> <p>専門用語については、かなりの長期の研修を実施しなければ不可能であり、むしろ共通語として英語で学ぶ必要がある</p>
<p>(9) 研修成果は？ その成果をどのように活用しているか？</p>	<p>(9) ・多くの経験を得たし、帰国後には実際に役に立てることができたので非常に良い機会であった</p> <p>・以前には知らなかった知識を理解し、自分自身の確立のためには非常に有効であったし現在ここで疑問を解決することに大変役に立っているし、研修した知識を生徒に教えることができる</p> <p>・毎日が勉強であるけれども、それぞれの科において、一人一人の指導員が担当科目にそったところの教材を準備するための時間がなければいけないし、このようにすれば良いコースと良い指導員が育つしよく準備ができる</p>	<p>(9) 研修の成果は大きい</p>

調査項目	調査結果	評価
(10) 日本語研修についてどのように評価しているか？	<p>(10) ・私の場合、非常に短い期間で実施されたことにより、日本語の研修は普通であったと評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本に行く者は、日本語でなにか質問したり、話したり、少なくともあいさつを知らなければいけないので、その意味では非常に良いと思う。とはいえ、専門用語を勉強しようとする時には、通訳、コーディネーターがどの程度専門用語を知っているのか面接をしなければいけないと考える ・非常に良かったし、また重要であった。そして自由時間を持っているときには、語学の勉強を続けなければいけない 	(10) カウンターパートからの評価は高い。専門用語については(8)で述べたとおりである
<p>一般的評価</p> <p>(11) 第三国実施プロジェクトとの比較において当プロジェクトの特徴(長所および短所)は？</p>	<p>(11) ・このプロジェクトに対しての日本の豊富な援助により、自動車整備に関して、一般的に言って幅の広い知識を訓練生に提供することができる。他国と比較した時に、同じことが言えるのだけれども、訓練期間が少し短いのではないかと考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度日本で研修した者が再度新技術を勉強するために日本に行こうと思ってもできない 	(11) 訓練内容については十分な評価を得ている。またドイツ・センターの訓練期間は3カ月単位で4コースである

板金塗装科

調査項目	調査結果	評価
<p>開き取り調査対象者(カウンターパート氏名)</p> <p>プリモ・エスクロピス、デ・セイダ、シルヴェストレ・ルフェルマン</p> <p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 技術移転目標達成度(理論面、実習面、機材操作、教材作成、etc.)</p> <p>(2) 技術移転方法、期間等に問題点はないか?</p> <p>(3) 協力期間延長の要否について? 延長必要の場合、期間および具体的技術移転対象項目は?</p>	<p>(1) 理論、実技の技術移転は満足できない。事務処理、材料の買い出し、車の修理等で忙しく、また研修等でカウンターパートが3人揃わなかったのが問題である</p> <p>・車の修理等で忙しく、また教科の担当も替わったこともあり、フィチャ等の翻訳が30%ぐらいしかできていない</p> <p>・学科、実技の目標達成度は低い。それは制度上の仕事忙しいため</p> <p>(2) 技術移転の方法は問題ない。しかしカウンターパートが日本への研修、車の研修等で3人揃わなかったところに問題があった</p> <p>・実技については良いが、学科についてはあと3カ月程度時間が欲しい</p> <p>・塗装の短期専門家の講義について、業務が忙しく(車の修理)出席できなかったがなかなか出席できなかった</p> <p>(3) 協力期間の延長が必要である(フィチャ等が未完成のため)</p> <p>・約1年間の期間延長が必要である(板金工作法および塗装についてもっと教えてほしい)</p> <p>・板金塗装には多くの要素がある。パナマでは、全部の要素の仕事が必要なので、多くの要素の個々の専門家を要求する。あと2年ぐらいあればと考える</p>	<p>(1), (2), (3) パナマ側の事情および日本研修等で技術移転時になかなか3人のカウンターパートが揃わず、カウンターパートの1人ずつを見ると必ずしもすべての科目の技術移転を受けていない。しかし、3人のカウンターパート全体を見ると、全科目の技術移転はR/D 終了までに完了の見込みである。またフィチャ等の翻訳についてもR/D 終了までに完了の見込みであり特に問題はない。</p> <p>今後は、3人のカウンターパートの相互間の部内研修による技術移転が必要である</p>
<p>訓練の内容</p> <p>(4) 現在の訓練内容は、社会ニーズに合致していると思うか? 改善点があるとすればどういう内容か?</p>	<p>(4) 日本・パナマセンターの技術は、パナマの工場に比べて高すぎると思う。学科の割合を少なくして手作業を多くする必要があると考える</p> <p>・社会ニーズと合っていると思う</p> <p>・パナマには十分すぎるくらいの訓練内容と思う</p>	<p>(4) 日本・パナマ職業訓練センターの訓練内容について、就職先企業の評価は高く、現状では問題ない。</p> <p>今後は、社会ニーズの変化に伴って訓練職種の細分化を検討する必要がある</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>実施体制</p> <p>(5) 訓練実施体制上(組織・予算・募集活動・工場実習先の選定・訓練資材の調達・卒業生のための就職活動側面的etc.)の問題はないか?</p>	<p>(5) 現在のパナマの財政では人件費だけで手一杯である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働者のストライキ等で社会情勢が落ち着かず、訓練上支障がある ・現在のパナマ情勢では、就職が大変に難しい ・第3期生は応募者が多くよかったが、第1期生、第2期生は応募者が少なくレベルも低かった ・ロータリークラブ等の奨学金の援助があるとよいのだが 	<p>(5) 現在のパナマ経済情勢ではいたしかたないことである。経済情勢が好転すれば解決することと思われる</p>
<p>日本側投入実績</p> <p>(6) 供与機材の内容およびレベル等について問題点はないか?(メンテナンス管理状況)</p> <p>(7) ローカルコスト負担について 日本側に対して要望はないか?(例えば教科書作成費etc.)</p>	<p>(6) 機材の内容には問題がないが日本製のためパナマでは部品が入りにくく、またパナマ側には部品を買うお金がないためメンテナンスに問題がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語のマニュアルをそろえてほしい <p>(7) 現在の材料のストックは、長くて1年分しかない。消耗機材も2年ぐらいであると思う。教材費予算に問題がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パナマには自動車関係の良いテキストがない。メキシコ等の国にはあるので日本側の方で買ってほしい ・より多くの教材費等の援助が必要である。また奨学金なども必要と考える 	<p>(6) 今後、故障部品の供与などを検討する必要がある</p> <p>(7) 訓練の有料化および実習収益を上げること等を検討する必要がある</p>

調査項目	調査結果	評価
<p>日本における研修</p> <p>(8) 研修期間および内容についてどのように評価しているか？</p> <p>(9) 研修成果は？ その成果をどのように活用しているか？</p> <p>(10) 日本語研修についてどのように評価しているか？</p>	<p>(8) ・期間はそれほど長くなかったが、内容は大変良かった</p> <p>・内容は良いのだが、もっと期間を増やしてほしい。学科、実技の課題について、工場のシステム、工具、機械などをもっと詳しく知りたい</p> <p>・もう一度日本で研修を受けたい。日本での研修は専門家の要求と一部内容が違った。塗装の研修は良かった。日本での専門家は自動車板金の専門家でないため不満が残った</p> <p>(9) ・現在大いに活用している</p> <p>・研修で用いた機械がパナマに来ていないが、研修内容は仕事に大いに役立っている</p> <p>(10) ・時間が大変短い</p> <p>・日本語は大変難しいのに時間が短い。しかし生活していく中からある程度身につけた</p> <p>・大変良いが、もっと時間が必要である。テキストが英語、日本語のためもっと語学研修を受けたい</p>	<p>(8), (9) カウンターパートの評価はおおむね良好である</p> <p>(10) 研修期間の長短は個人差があり評価できない。 共通語としての英語研修をパナマ側で検討する必要がある</p>
<p>一般的評価</p> <p>(11) 第三国実施プロジェクトとの比較において当プロジェクトの特徴（長所および短所）は？</p>	<p>(11) ・大変良い。よりレベルの高い技術を教えている</p> <p>・他国のプロジェクトのことは一緒に仕事をしていないのでわからない</p>	<p>(11) 供与機材の内容および技術移転協力方法について十分な評価を受けている</p>
<p>(12) その他</p>	<p>(12) ・プロジェクト終了後、日本・パナマセンターに散らばる可能性があり、また機材の維持管理体制に不安を感じるので常時2、3人の日本人スタッフを置いてほしい</p> <p>・万能折り曲げ機が要求した仕様と異なった仕様のもが入ってきた</p> <p>・油圧リフトを供与してほしい</p>	<p>(12) 訓練施設の管理運営アドバイザーの派遣を検討する必要がある</p>

5-4-3 訓練生からの評価

今回の調査を通じて、現在開講し訓練受講中の訓練生から、本センターの訓練内容、期間、技能レベル、施設、機材等についてアンケート調査を実施したところ、下記のような結果が得られた。

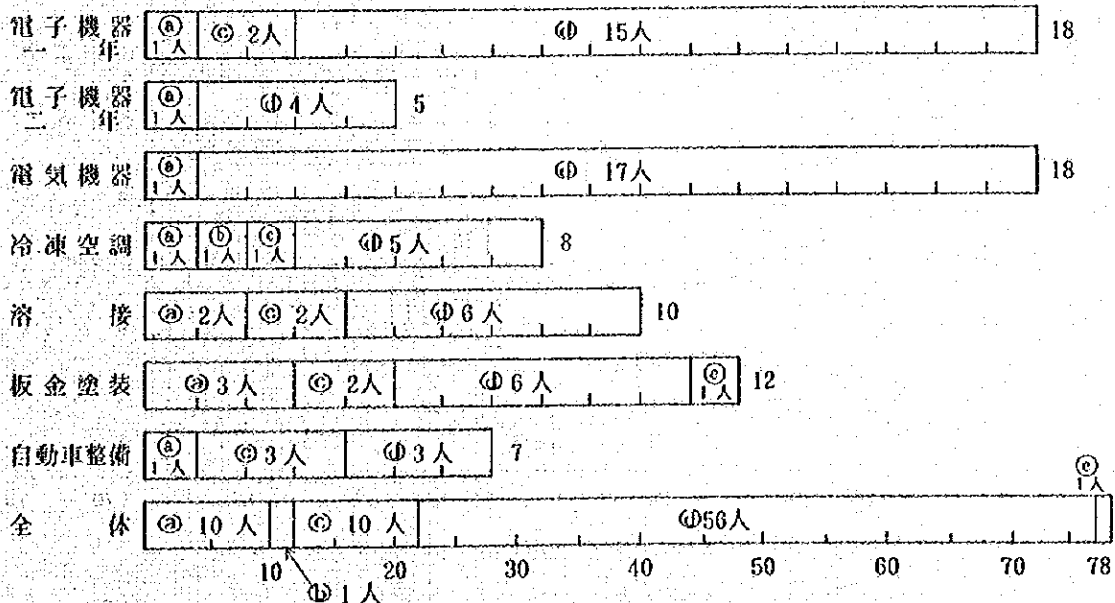
全体的には、訓練生からは極めて評価が良いことが判明した。しかし1987年より始まった政情不安による経済危機により当センター卒業生の就職が厳しくなったため、訓練受講中の訓練生も、就職に対する不安を持っているのがわかる。

訓練生へのアンケート実施対象者は次のとおりである。

電子機器科（1年）	18名中	18名（100 %）
電子機器科（2年）	10名中	5名（50 %）
電気機器科	18名中	18名（100 %）
冷凍空調科	16名中	8名（50 %）
溶接科	16名中	10名（62.5 %）
板金塗装科	16名中	12名（75 %）
自動車整備科	16名中	7名（43.7 %）
合計	110名中	78名（70 %）

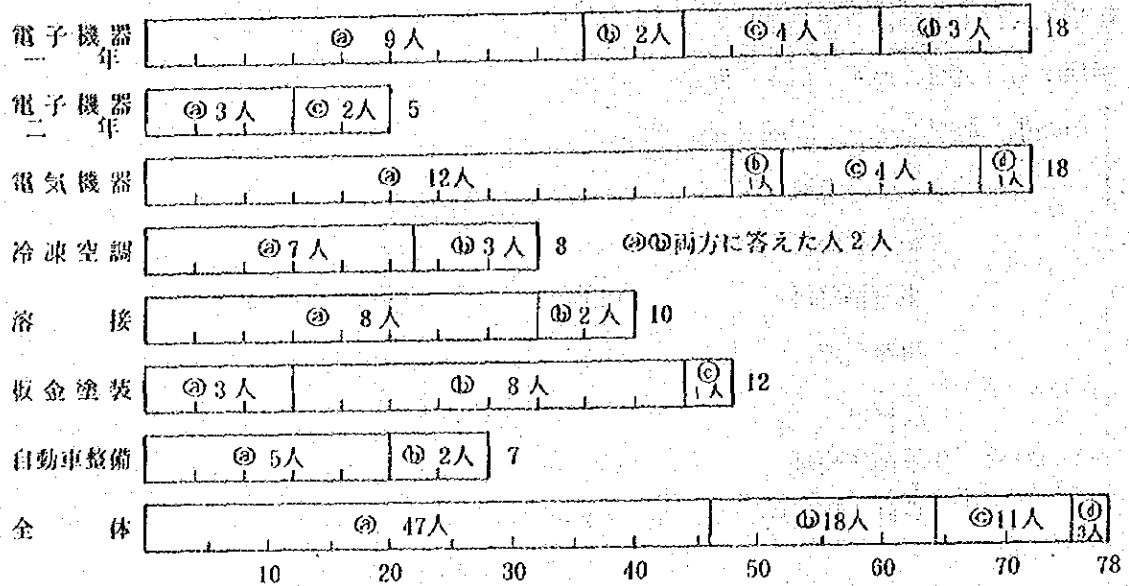
（質問1） INAFORP に入校する前どのようにして、日本・パナマ職業訓練センターを知りましたか？

- ① 新聞にて
 ② ラジオにて
 ③ 学校・先生の紹介
 ④ 知人・家族の紹介
 ⑤ その他



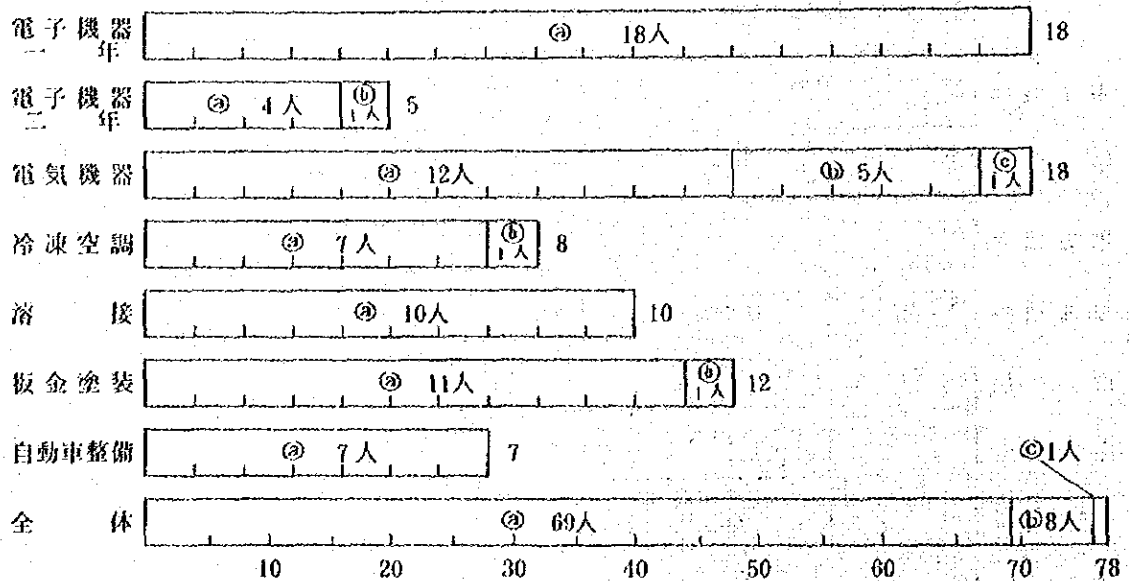
(質問2) 何のために日本・パナマセンターへ入校しましたか？

- Ⓐ 日・パセンターにて技能を学んだあと、就職するため
- Ⓑ より高度な技能を身に付けるため
- Ⓒ 勉強の一過程として
- Ⓓ その他



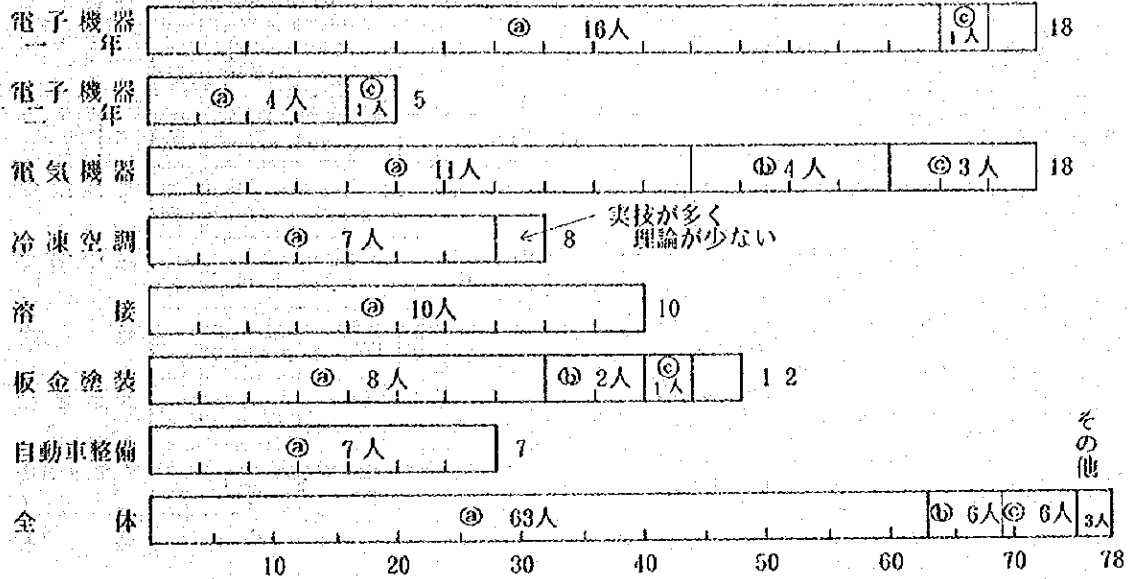
(質問3) あなたのコースの訓練内容(学科・実技)をどう思いますか？

- Ⓐ 良い
- Ⓑ 普通
- Ⓒ 悪い
- Ⓓ その他



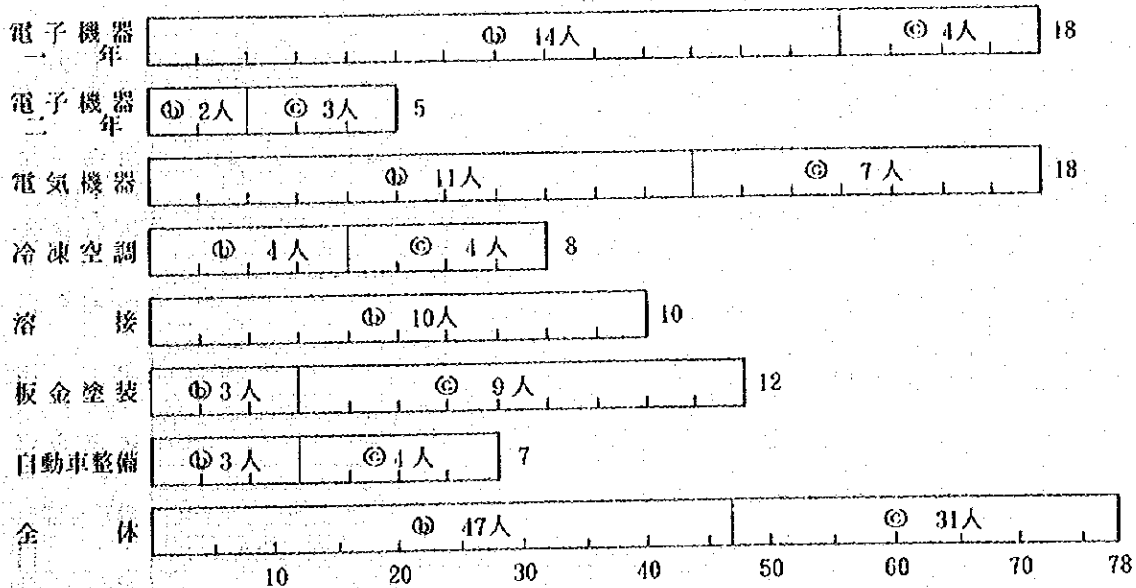
(質問4) 日・パセンダーで受けている訓練内容を他の学校(例えばパナマ工科大学)のそれと比べてどう思いますか?

- Ⓐ もっと高度である Ⓑ 同じくらい Ⓒ 程度が低い



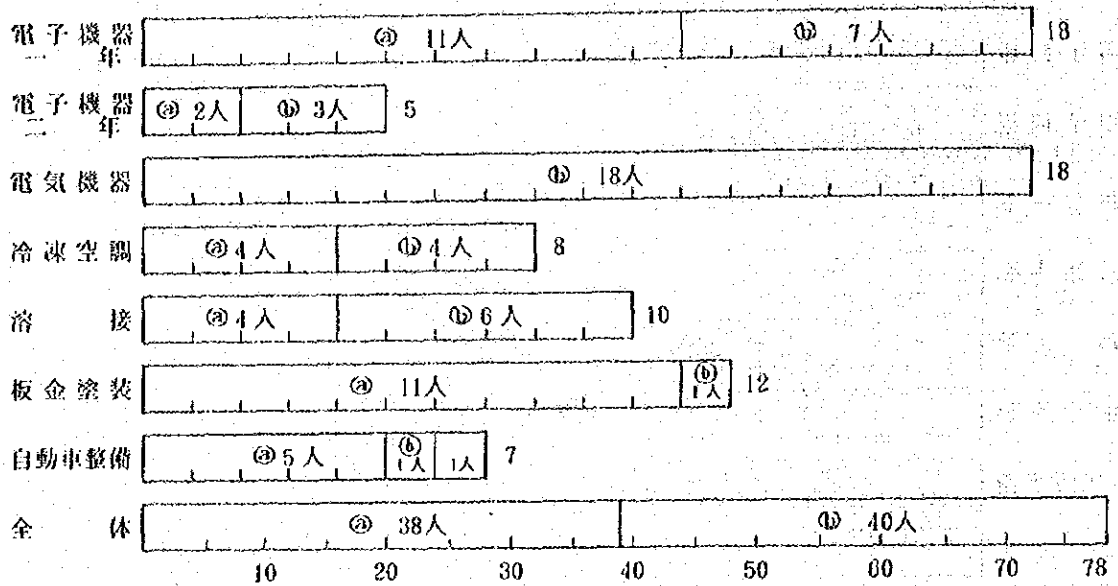
(質問5) あなたのコースの訓練期間についてどう思いますか?

- Ⓐ 長過ぎる Ⓑ ちょうど良い Ⓒ もっと必要



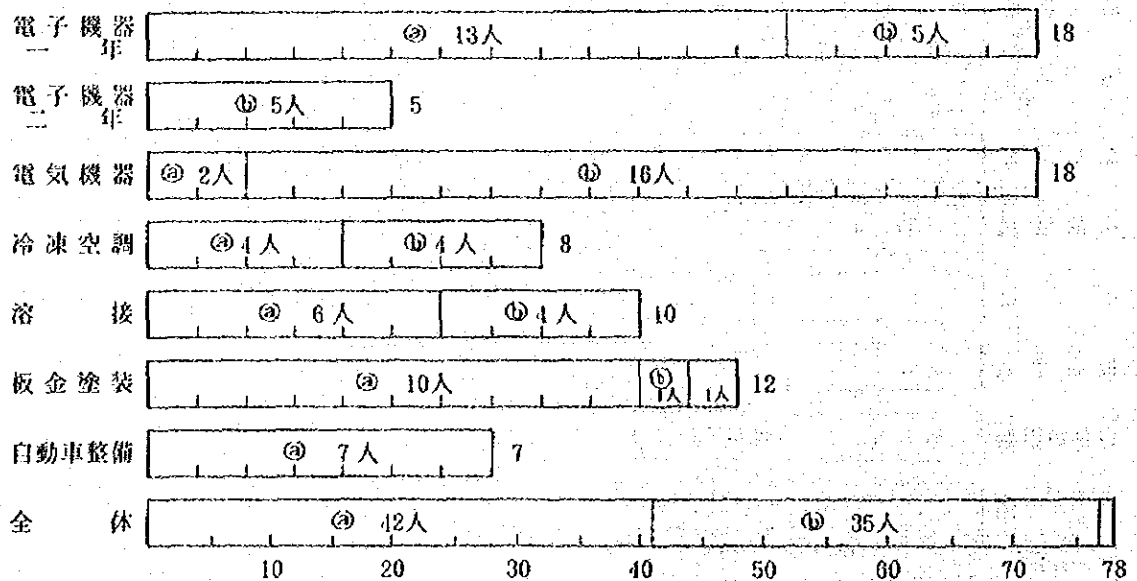
(質問6) あなたのコースで実技に使用している機器類、工具についてどう思いますか？

- ① 十分である ② もっと必要である



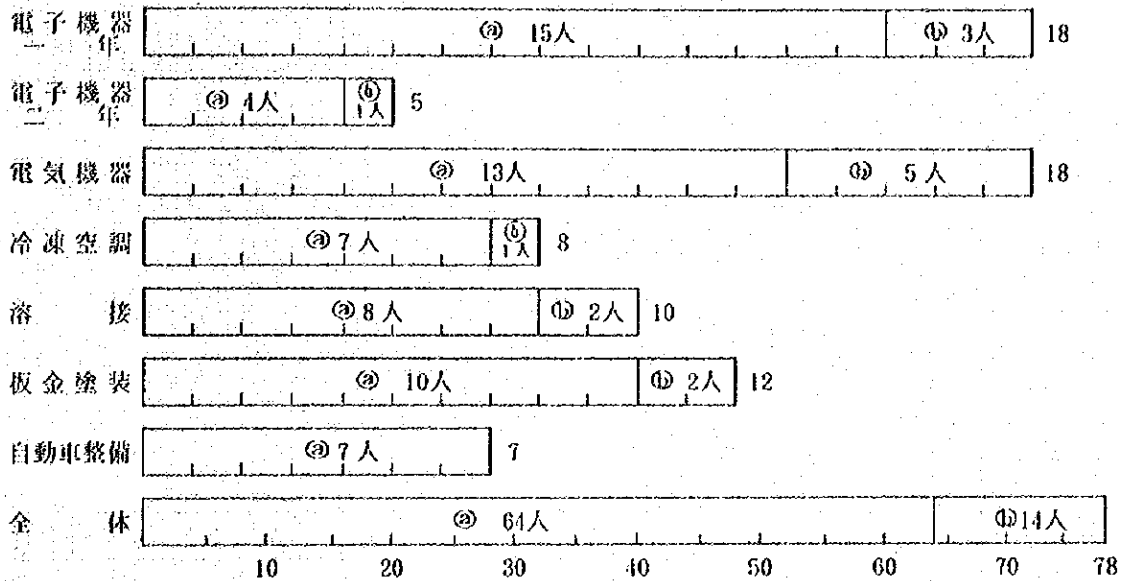
(質問7) あなたのコースで実技に使用する材料(教材)についてどう思いますか？

- ① 十分である ② もっと必要である



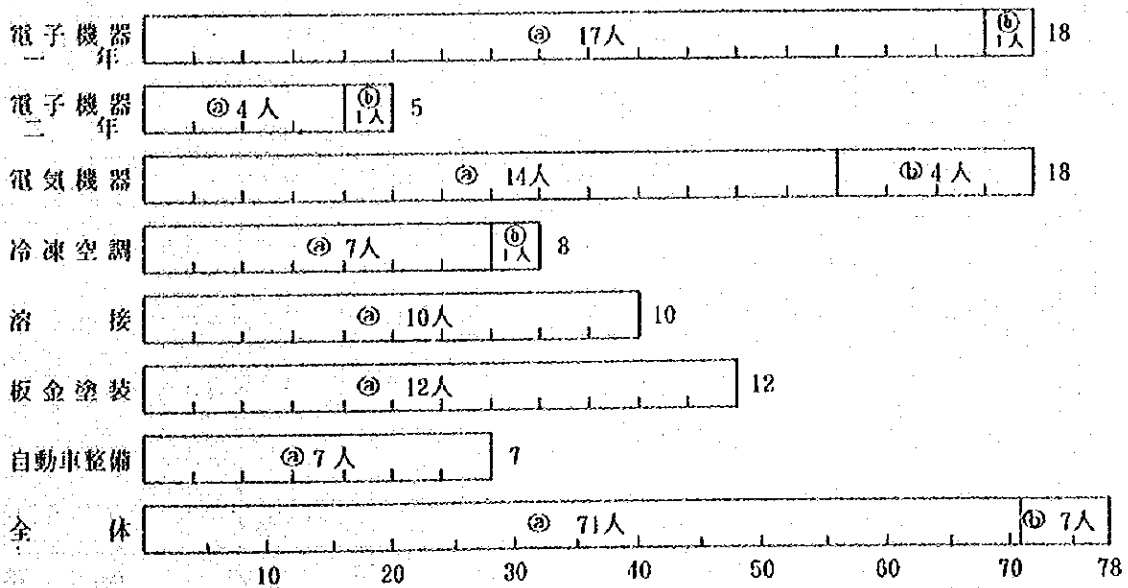
(質問8) あなたが訓練を受けている施設(実習場・教室・倉庫)は、訓練するのに十分な広さですか?

- ① はい ② いいえ



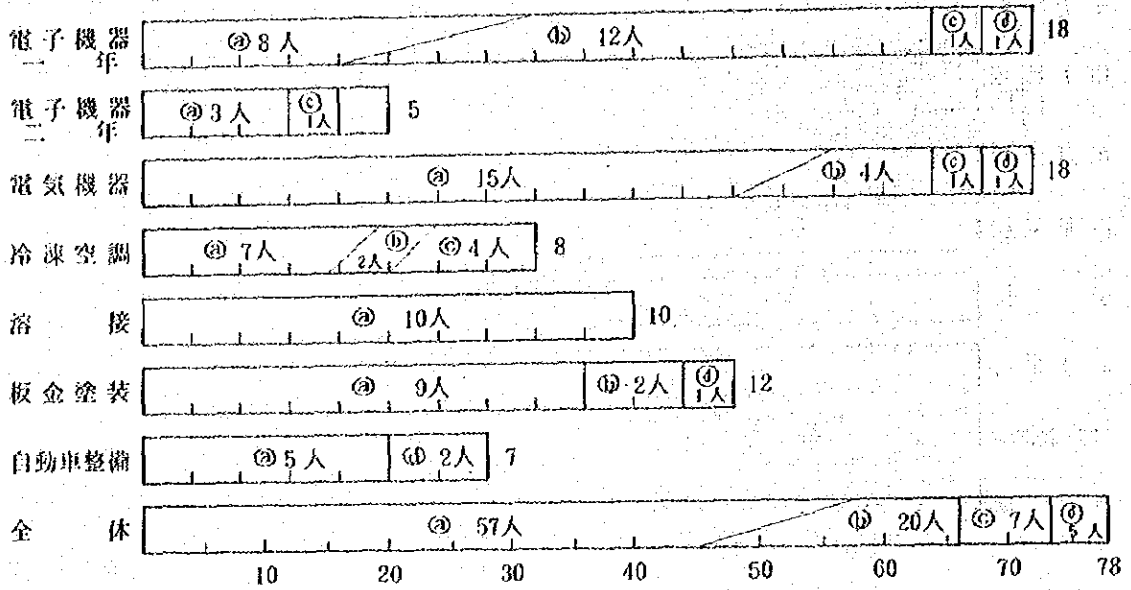
(質問9) 日・パセーターにて現在受けている訓練内容は、パナマが必要としている技術と同じだと思いますか?

- ① はい ② いいえ



(質問10) 日・パセーターを修了したらどうしますか？

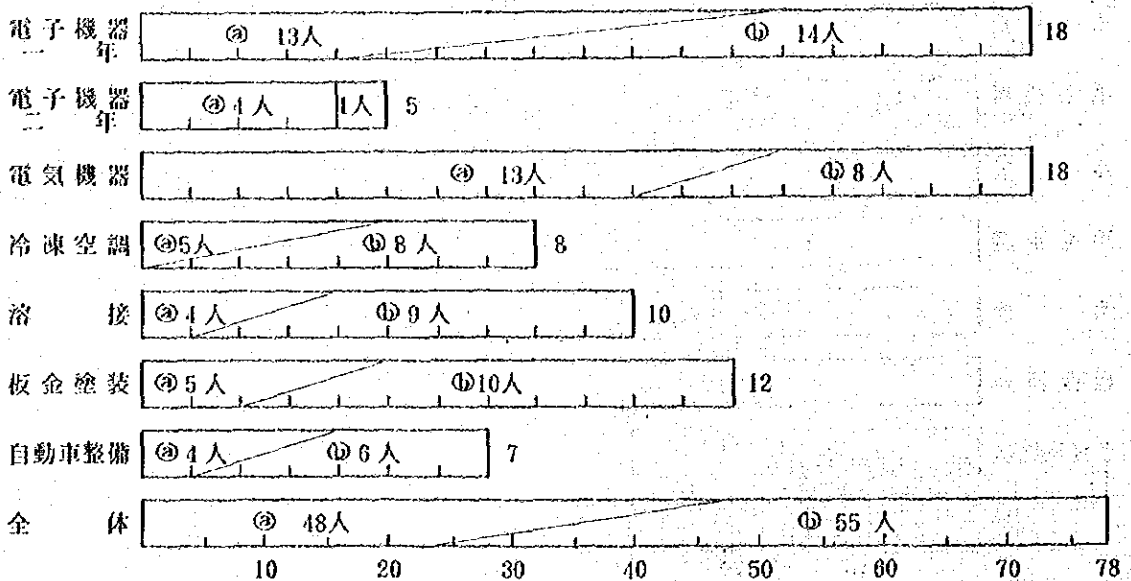
- ㊶ 就職する
- ㊷ 大学入学もしくは大学の勉強を続ける
- ㊸ 自分で仕事を始める
- ㊹ その他



(質問11) 日・パセーター修了後あなたは、就職に対してどう思いますか？

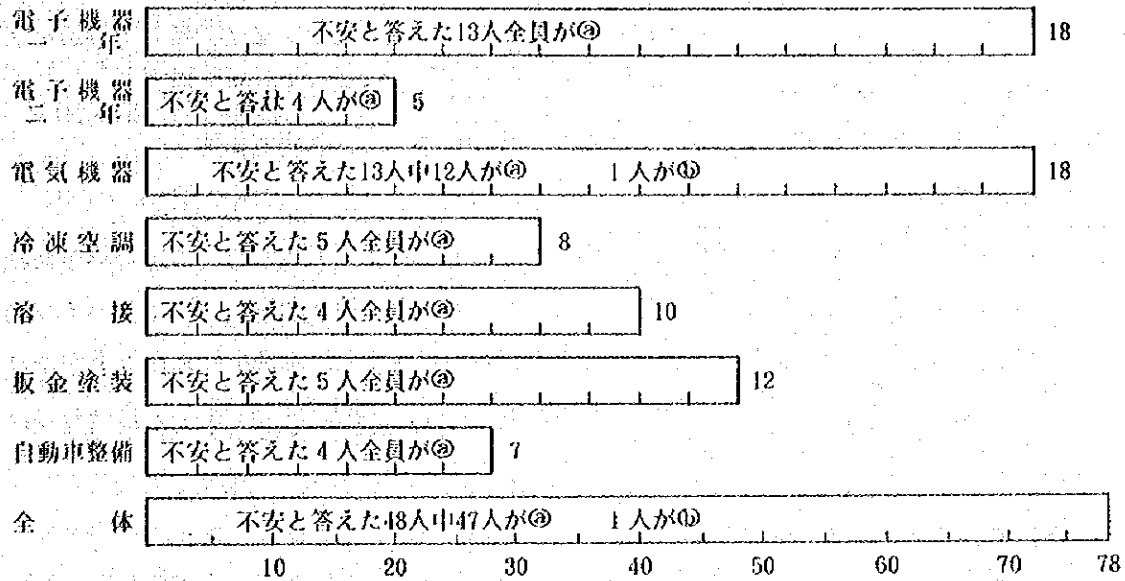
- ㊶ 不安である
- ㊷ 安心している

㊶㊷両方に答えた人あり



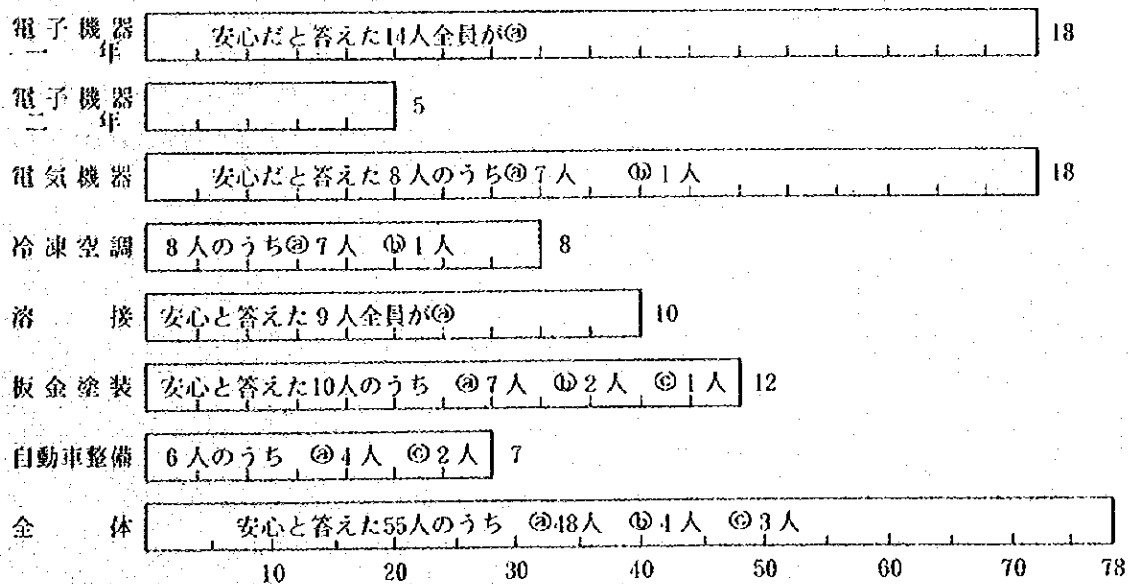
(質問12) 就職に対して不安なのはどうしてですか？

- ㊶ 十分目・パセーターにて技能を身につけられるが、パナマには仕事がない
- ㊷ 仕事をするのに十分な技能が身につかない
- ㊸ その他



(質問13) 就職に対して安心なのはどうしてですか？

- ㊶ 仕事ができるだけの十分な技能が身につく
- ㊷ 会社と就職の契約がある
- ㊸ その他



5-4-4 工場訓練実習先における評価

これまでに、各科において工場訓練実習を行い、卒業生を出している。

○ 溶接科

第1期生については1987年6月13日より7月8日まで実施し、訓練生12名中10名が4社で工場訓練実習を行い、2名については日本・パナマセンターに残って補講を受けた。また第2期生については、社会情勢およびINAFORP内部の混乱により、工場訓練実習の調査ができなかったために、実態については不明である。

○ 自動車整備科

第1期生については、工場訓練実習を行うより日本・パナマセンターで補講を実施した方が良いとの判断で工場訓練実習を行わなかった。第2期生についてはパナマ側の強い希望により1989年4月30日より5月26日まで実施し、訓練生13名中8名が7社で工場訓練実習を行い、5名については日本・パナマセンターに残って補講を受けた。

○ 板金塗装科

第1期生については、1988年1月16日より2月12日まで実施し、訓練生11名中8名が5社で工場訓練実習を行い、3名については日本・パナマセンターに残って補講を受けた。第2期生については1989年4月18日より5月12日まで実施し、訓練生12名全員が5社で工場訓練実習を行った。

これら工場訓練実習先等での訓練生に対する評価を聴取したところ、全体的にみて各実習先の訓練生への評価は良好であった。概ね、次の様な評価である。

訓練生の工場実習状況

溶接科

1986年度 期間：1987年6月13日～7月8日 訓練生数：12名

実習先工場名	従業員数(約)	実習内容	実習生数	引き続き雇用の有無
CONSAMADO S.A		作業助手	4	4
パナマ運河委員会	3,000	作業助手	4	
CLIMATISADORASA		作業助手	1	
MUEBLES METALICOS S.A		作業助手	1	
日本・パナマ職業訓練センター		補講	2	

工場実習に対するコメント

専門家

3カ所の委託先を訪ねてみたが、各社ともに技能レベル、作業態度等に良い評価を得た。

1987年度の第2期生については、訓練途中にノリエガ將軍追放運動が起こり社会情勢が安定せず、訓練不十分なまま、工場実習へ行った。また、工場実習の調査は社会情勢が安定しないため実施できなかった。そのためどのような実施状態であったかは不明。

カウンターパート

日本・パナマ職業訓練センターの訓練と異なり、実務経験を積むことは大切と思う。就職活動の面からもたいへん有効と思う。

実習生

- 大変に良い経験となった。実務の中で、訓練とのギャップを修正することができた。
- 実習先の実習内容が下働きばかりで不満である。

会社

- 工場実習の結果は、大変良好で訓練生のレベルに満足している。
- 技能レベル、作業態度等とても良好であり、是非雇用したい。

(なお工場実習先のパナマ運河委員会の訓練生に対する評価のコピーを参考に添付する)

溶接科・工場実習評価報告書

UNITED STATES GOVERNMENT

memorandum

DATE: 26 June, 1987
REPLY TO: Equipment General Foreman, Pedro Miguel Locks
ATTENTION:
SUBJECT: Job Performance
TO: Ms Elida Arias

Fernando Romero worked at Pedro Miguel Locks for two weeks. During this time he showed an excellent understanding of the welding field. Always came in on time and ready for work. He always volunteered for the hard or dirty jobs. He never complained and cheerfully performed all tasks assigned to him in a outstanding matter.

We at Pedro Miguel Locks will miss his services.

Waldo B. Gilley

Waldo B. Gilley

Equip. Maint. General Foreman
Pedro Miguel



Buy U.S. Savings Bonds Regularly on the Payroll Savings Plan

OPTIONAL FORM NO. 10
(REV. 3-76)
GSA FPMR (41 CFR) 101-11.6
5010-102

自動車整備科

1988年度 期間：1989年4月30日～5月26日 訓練生数：13名

実習先工場名	従業員数(約)	実習内容	実習生数	引き続き雇用の有無
BMW	65	整備助手	1	1
アウト・クレジット	40	整備助手	1	
モトレ・スコルパン	150	整備助手	1	
トチリ	100	整備助手	1	
スモータィ・パレーデス	150	整備助手	1	
エレクトロ・ディーゼル	10	整備助手	2	1
アリネアミエント・カステイジョ	5	整備助手	1	1
日本・パナマ職業訓練センター		補講	5	

工場実習に対するコメント

専門家

工場実習よりは、基本実習の補講を行いたかった。

カウンターパート

工場と親密になることと、実務を知ることが就職に良い影響を与えると思う。

実習生

企業を知る良い機会と思う。

与えられた仕事は狭い範囲に限られ残念であった。

実習先では、忙しく、また質問しても答えがもらえなかった。

会社

工場実習は、非常によい仕組みと思う。

実習生は、知識、技能ともに満足のいくものであった。

パナマの経済情勢が好転すれば、実習生を是非雇用したい。

実習先工場名	従業員数(約)	実 習 内 容	実習生数	引き続き雇用の有無
CHAPICAR S.A	20	自動車板金・塗装修理	3	
SMOTHY PAREDES		自動車板金・塗装修理	2	
IQUEL S.A	15	自動車板金・塗装修理	1	
METES S.A		自動車板金・塗装修理	1	
TALLER 11 DE OCTUBRE		自動車板金・塗装修理	1	
日本・パナマ職業訓練センター		補 講	3	

工場実習に対するコメント

専門家

当初、補講を行った方が良いと思い、工場実習は計画に上げていなかったが、パナマでは習慣であるし、就職にも良いということでこれを認めた。

カウンターパート

- ◇ 就職するのに有利である。
- ◇ 工場の実務が良くわかる。
- ◇ 日本・パナマ職業訓練センターと工場の現場では、設備、作業方法など大きく異なり、かえって混乱をまねくので必要がないのではないか。

実習生

- ◇ 日本・パナマ職業訓練センターより工場の方が設備、工具等が少ない。
 - ◇ 工場で質問をしても従業員は答えてくれない。
- (カウンターパートから聞く)

会社

- ◇ 大変評判が良く、パナマ情勢がこのようなのであれば是非採用したい。
- ◇ 来年度も実習生を受け入れたい。

板金塗装科

1988年度 期間：1989年4月18日～5月12日 訓練生数：12名

実習先工場名	従業員数(約)	実習内容	実習生数	引き続き雇用の有無
AUTO BODY SHOP DE PANAMA S.A	25	自動車板金・塗装修理	3	
FORSA S.A	30	自動車板金・塗装修理	3	
PROCAR S.A	25	自動車板金・塗装修理	2	2
IQUEL S.A	15	自動車板金・塗装修理	2	2
CHAOICAR S.A	20	自動車板金・塗装修理	2	1

工場実習に対するコメント

専門家

実際に行ってみて訓練生がその会社なり他の会社に就職するということを考えると悪くはないと思う。

施設、設備は各工場によって違うが基本的には手作業が多く、訓練生は塗装の水研ぎ作業を多く行っていた。

就職状況を調べてみたところ、1人のみ分ならず日人中1人がパナマ運河で後は給料が安い10人すべてが板金・塗装関係で働いていたのは驚いた。

カウンターパート

- 工場実習は必要である。実際に働くことによりよくわかる。作業場が便利になって使いやすくなっているのが分かる。
- 就職するのにも良くなる。
- 訓練と実際の違いを知ることが就職した時のとまどいを少なくする。

実習生

日・パセーターよりも工場の方が工具、機械、設備が少ない。他の工員が専門的な知識が少ない。工員は大変親切であった。

(カウンターパートから聞く)

会社

工場の担当者は皆一様に非常に良い、是非使ってみたいという評価である。

5-4-5 卒業生に対する企業の評価

パナマの産業界の特色としては、第3次産業の金融、サービス産業が主流を占め、職業訓練生の就職先の工業関係は少ない。

調査団滞在中、卒業生の就職している企業10社について訪問し、責任者から日・パセセンターについて聞き取り調査を行った。

各企業において卒業生は、訓練中に得た知識と技能を十分発揮し高い評価を得ている。特にパナマ運河を管理する運河委員会では、いままでに多数の卒業生が就職し活躍している。この企業は独自に訓練校をもち、入社4年間はそこで技術教育をさらに行い各部門に技術者を送りだしている。

パナマでも上位クラスの企業で給与も他の企業の2倍程度あり優遇されている。入社資格には、パナマ工科大学、ドイツ・パナマセンター、それに日・パセセンター卒業生だけが認められている。

多くの企業の責任者は日・パセセンターの行っている工場実習に対して、非常に協力的で、毎週土曜日に実習を実施して、多くの企業の様子を体験し現場の技術を習得し、そしてそれらの経験を基に将来の職業を選択すればよい、という意見も聞くことができた。

聞き取り調査の結果を次に示す。

表14 卒業生に対する企業の評価

企業名	ビドゥリオス・パナメーニョス
会社概要	ガラス再生業 市販されているパナマ製ビール、コーラ等のビンを再生し製造している。 ガラス溶融炉を運転しているため、従業員は3交代制で働いている
卒業生	(電気工事科)
上司の卒業生に対する評価	日・パセセンターの卒業生は、理論知識、および実務に対する知識は確かに持っている。しかし人間性に欠けるところがある。 彼等が仕事に従事するのは、将来独立して自営することを考えているのではないだろうか。もっと大きな目で自分の将来を考える必要がある。 確かに工場はプラントを運転するため、一般的に従業員の定着率は悪い
日・パセセンターに対する要望	日・パセセンターにおいては、能力開発、特に仕事に対するモラルを指導してほしい
日本の技術移転に対する意見	パナマの工業化に非常に大切である
その他	工場実習は、週に一度でも実施すればよい。多くの企業で経験を積み自分の仕事を決めればよい

企業名	BMW
会社概要	ドイツ製高級乗用車の販売、整備、修理
卒業生	S・メンドーサ 1989年5月 整備助手 自動車修理科
上司の卒業生に対する評価	自動車整備に関する基本的知識がよく理解されている。他の工業高校卒業生と比較しても基本がしっかりしていてよく訓練され、仕事に早く慣れる
日・パセンターに対する要望	他の工科大学に比べて設備等が恵まれている。 向上訓練の様な在職労働者も研修等利用できるコースも考えてほしい
日本の技術移転に対する意見	パナマにおいて自動車整備は重要である。 整備士については、全体的に理論が欠けている。従ってパナマ側ではよい整備士の訓練はできない。日本の協力をさらに望む
その他	工場実習について 訓練生はよく訓練されていて、上司の指示に従ってよく仕事をしていた

企業名	プラザセンターBSD
会社概要	各種電気部品販売
卒業生	2名ともすでに退職していた
上司の卒業生に対する評価	1人は3カ月程度しか働いていなかった。応用力に欠けるところがあった。 他の1人は、性格的に電子部品修理部門には向かない性格であった
日・パセンターに対する要望	日・パセンターについてはよく知らないが、他のセンター等と比べると技術力は良い。 日々、技術が変わっていくので、向上訓練を望む

企業名	エレクトロ・ディーゼル
会社概要	ガソリンエンジン・ディーゼルエンジンの分解整備
卒業生	G・パディスタ 1989年5月 自動車整備科卒
上司の卒業生に対する評価	他の者と比較すると非常に優れている。仕事もよくこなしている。 日・パセンターとサンディアゴセンター以外はレベルが低い
日・パセンターに対する要望	パナマにおいてはディーゼルエンジンの整備をする教育機関がなかったのが大変うれしい。新しい内容をどんどん取り入れて訓練することは、大変良いことであるが、使わないとすぐ忘れてしまう。現在はアメリカ、メキシコで研修を受けさせているがコストがかかりすぎる。向上訓練を実施してもらえればありがたい
日本の技術移転に対する意見	大変良いことと思う。ぜひ今後も協力を続けていってもらいたい

企業名	オートボディショップ
会社概要	パナマとしては規模の大きな自動車修理業 ブレーク修理、板金、塗装
卒業生	ブッチャー 自動車板金・塗装
上司の卒業生に対する評価	一般的に言って学科の知識力は高い。実務面においてはこの業種はいろいろな状況があるので幅広い経験が必要である。日・パセーター修了生にはこの実技面が欠けている。しかし、日・パセーター修了生は優秀であるので指導すれば、仕事を任せられる
日・パセーターに対する要望	1年間の訓練時間は短い。2年でも良い。広く知識は取得しているようだが、もっと専門的に訓練しても良い
日本の技術移転に対する意見	工業高校にも同様の科があるが、指導員がいなく、機械設備、材料が満足でないで、この日本の協力は大変良いことだ

企業名	COPANAC
会社概要	1970年設立、従業員数110～115人 各施設（ビル・工場等）に取り付けられている空調機器の保守・修理調整等が主な仕事 38人の技術者が5グループに分かれて各施設への出張サービスをおこなっている
卒業生	TEODORO GONZALEZ（正社員） 1986年 冷凍空調科卒 CARLOS CHAVARRIA（契約中） 1986年 冷凍空調科卒 CASTREJO INOCENTE（契約中） 1987年 冷凍空調科卒
上司の卒業生に対する評価	3人中1人はすばらしい技能を身に付けていた。一般的には、入社してしばらくの間修理に関する訓練をしてから現場へ出るのであるが、彼は知識、技能面ともすぐれていたのですぐ現場へ出てもらった。 一般的に、理論面、実技面ともよく知っているので、この会社における特殊な技能面を身に付けてもらえば問題ない
日・パセーターに対する要望	工場実習の期間が3週間であるが、この会社のいろんな分野での実習を確実にやってもらうには期間が短い。 長期間の実習で、実技面をもっと勉強してもらいたい。 日・パセーター冷凍空調科の3名の指導員は、元この会社の従業員である。日本へ行って研修してきた新しい技術をいろいろ教えてくれるのでありがたい
日本の技術協力に対する意見	センターへの技術協力を止めないで続けてほしい。 現在の機械は、電子回路が多く含まれている。この電子制御回路について、よくわからないので技術協力がほしい

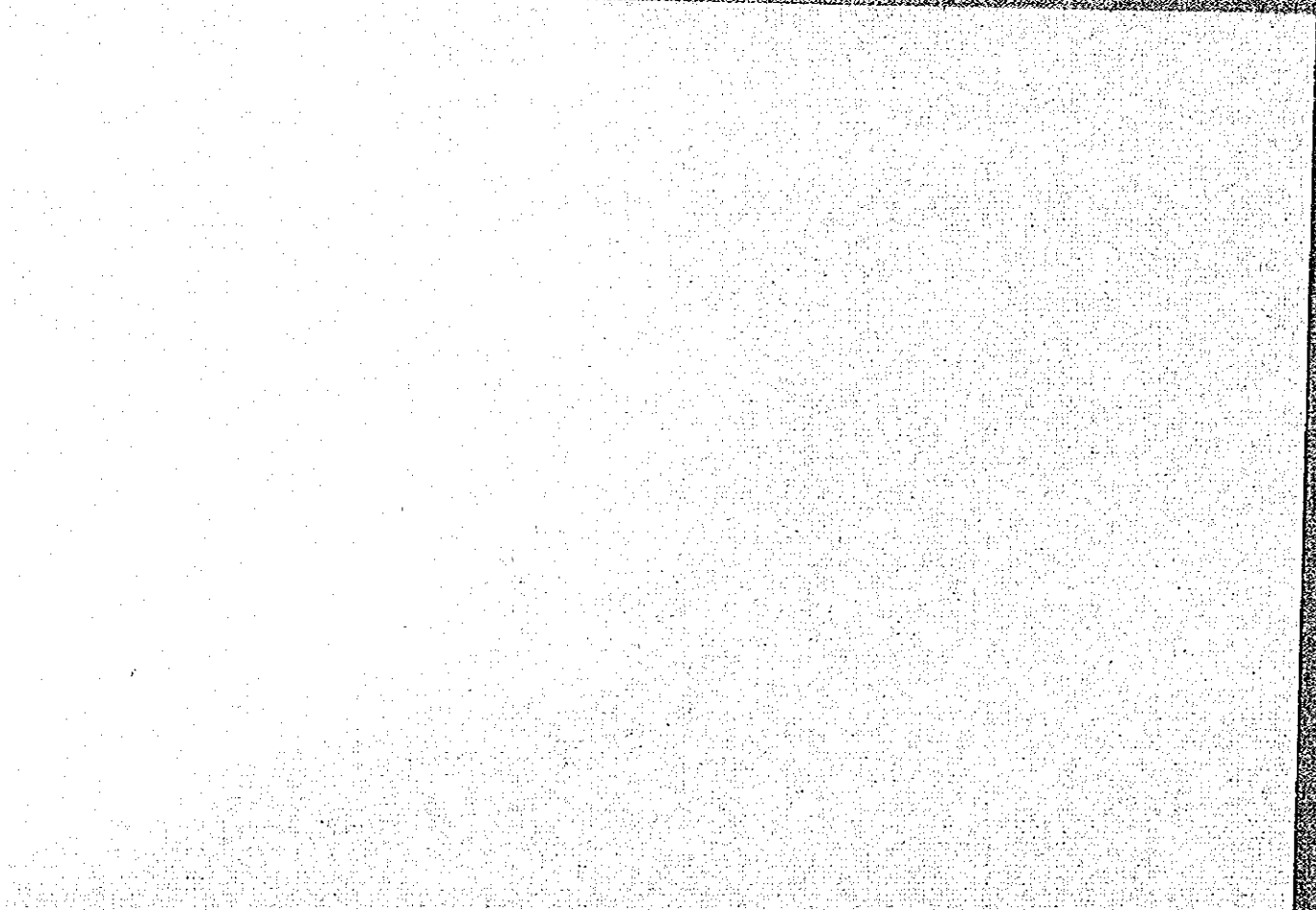
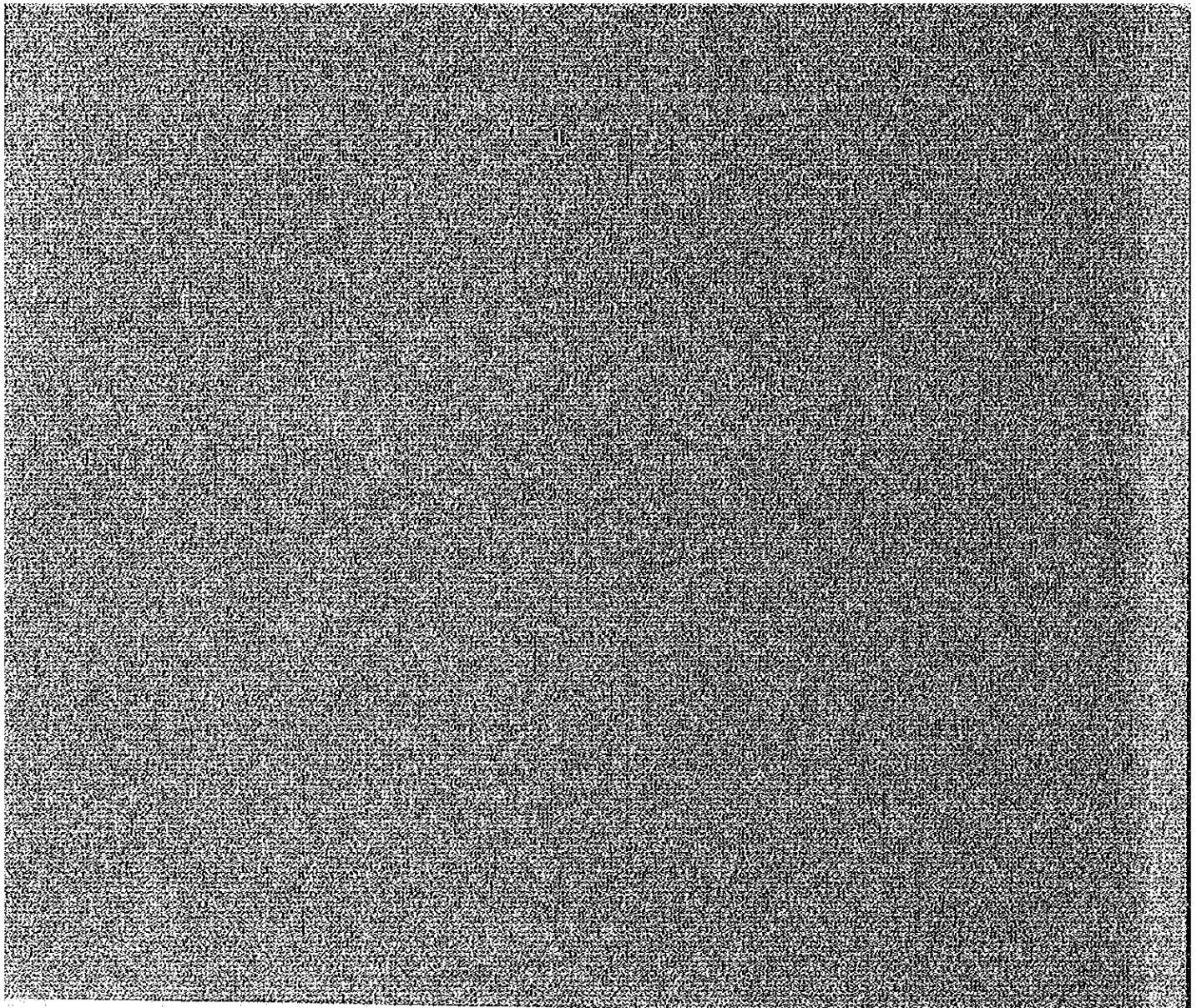
なお、卒業生は、外へ仕事に出ており意見を聞くことができなかった

企業名	ASTILLEROS BALBOAS (バルボア造船所)
会社概要	船の補修が主な仕事 全従業員350人程度、そのうち正社員が160人 (仕事の状況によって臨時工員を雇うシステム)
卒業生	ESPINOSA ISMAEL 溶接科卒 DEVILLE JAIME 溶接科卒 上記2名は正社員なのか臨時工なのか確認できなかった
技術管理長の話	溶接に関して 現在パナマには高級技術者は4名しかいない。 資格がないとできない作業があるので、パナマにいる技術者で足りない場合は、他国より来てもらい作業している(資格が必要な作業とは、例えばボイラー等の溶接)。 資格試験については、現在2年に一度外国の試験官に来てもらい実施している。 このようにパナマにおいては、高級溶接技術者が不足しているので、ぜひ日本の技術協力をお願いしたい

日・パセセンター卒業生2名については、現在正社員であるか臨時工なのか、またどの部署でどのような仕事をしているか、技術管理長は把握しておらず、会うことができなかった

企業名	COMISION DEL CANAL (パナマ運河委員会) ESCUELA APRENDIZ (見習い学校)																																							
会社概要	<p>パナマ運河を管理運営するための委員会。</p> <p>このパナマ運河地域で働く労働者は一般労働者に比べ賃金面で非常に優遇されている。</p> <p>パナマ運河委員会で働く技術者は、最初見習い学校(4年間)へ入校し、給料をもらいながら技術教育を受けることができる。学校での勉強+実習(実際に現場での仕事を含む)が主体であるが、給料は月額700~800ドル程支給され、他の卒業生と比べると2倍以上もらえる。</p> <p>現在この学校への入校資格として、パナマ工科大学卒、日・パセセンター卒、ドイツ・パナマセンター卒以上が認められていると聞いた。</p> <p>職種は機械、電気、電子、通信、プログラマー、空調、溶接等多くある</p>																																							
卒業生	<table border="0"> <tr> <td>SOCRATES ANDREWS LUQUE</td> <td>1985年</td> <td>電気科卒</td> </tr> <tr> <td>RIGOBELT BERNAL MENDOZA</td> <td>1985年</td> <td>電気科卒</td> </tr> <tr> <td>JAVIEL ACOSTA</td> <td>1986年</td> <td>電気科卒</td> </tr> <tr> <td>ROLANDO HURTADO</td> <td>1986年</td> <td>冷凍空調科卒</td> </tr> <tr> <td>EDWARS VINCE</td> <td>1987年</td> <td>冷凍空調科卒</td> </tr> <tr> <td>PEDRO H. DE GRACIA</td> <td>1988年</td> <td>冷凍空調科卒</td> </tr> <tr> <td>EDUARDO ANTONIO LALASTRA</td> <td>1986年</td> <td>電子科卒</td> </tr> <tr> <td>RONALDO ENRIQUE GOZALEZ</td> <td>1986年</td> <td>電子科卒</td> </tr> <tr> <td>GUILLERMO RODOLFO RILEY</td> <td>1986年</td> <td>電子科卒</td> </tr> <tr> <td>ANTONIO ARIEL SANDVAL</td> <td>1986年</td> <td>電子科卒</td> </tr> <tr> <td>JUAN DIEGO LUQUE</td> <td>1986年</td> <td>電子科卒</td> </tr> <tr> <td>PERALTA SEVASTIAN</td> <td>1987年</td> <td>電子科卒</td> </tr> <tr> <td>LIAO PONCE ALBERTO</td> <td>1988年</td> <td>電子科卒</td> </tr> </table>	SOCRATES ANDREWS LUQUE	1985年	電気科卒	RIGOBELT BERNAL MENDOZA	1985年	電気科卒	JAVIEL ACOSTA	1986年	電気科卒	ROLANDO HURTADO	1986年	冷凍空調科卒	EDWARS VINCE	1987年	冷凍空調科卒	PEDRO H. DE GRACIA	1988年	冷凍空調科卒	EDUARDO ANTONIO LALASTRA	1986年	電子科卒	RONALDO ENRIQUE GOZALEZ	1986年	電子科卒	GUILLERMO RODOLFO RILEY	1986年	電子科卒	ANTONIO ARIEL SANDVAL	1986年	電子科卒	JUAN DIEGO LUQUE	1986年	電子科卒	PERALTA SEVASTIAN	1987年	電子科卒	LIAO PONCE ALBERTO	1988年	電子科卒
SOCRATES ANDREWS LUQUE	1985年	電気科卒																																						
RIGOBELT BERNAL MENDOZA	1985年	電気科卒																																						
JAVIEL ACOSTA	1986年	電気科卒																																						
ROLANDO HURTADO	1986年	冷凍空調科卒																																						
EDWARS VINCE	1987年	冷凍空調科卒																																						
PEDRO H. DE GRACIA	1988年	冷凍空調科卒																																						
EDUARDO ANTONIO LALASTRA	1986年	電子科卒																																						
RONALDO ENRIQUE GOZALEZ	1986年	電子科卒																																						
GUILLERMO RODOLFO RILEY	1986年	電子科卒																																						
ANTONIO ARIEL SANDVAL	1986年	電子科卒																																						
JUAN DIEGO LUQUE	1986年	電子科卒																																						
PERALTA SEVASTIAN	1987年	電子科卒																																						
LIAO PONCE ALBERTO	1988年	電子科卒																																						
卒業生の様子、話	<p>電子科卒</p> <p>電子に関する基本については、日・パセセンターで学習しているので、復習をしているようなものである。</p> <p>PCM 通信, IBM のコンピューターについては、日・パセセンターでは学習しなかったので、興味がある。</p> <p>日・パセセンターにおいてコンピューターのプログラマーに関する実習を充実してほしい</p>																																							

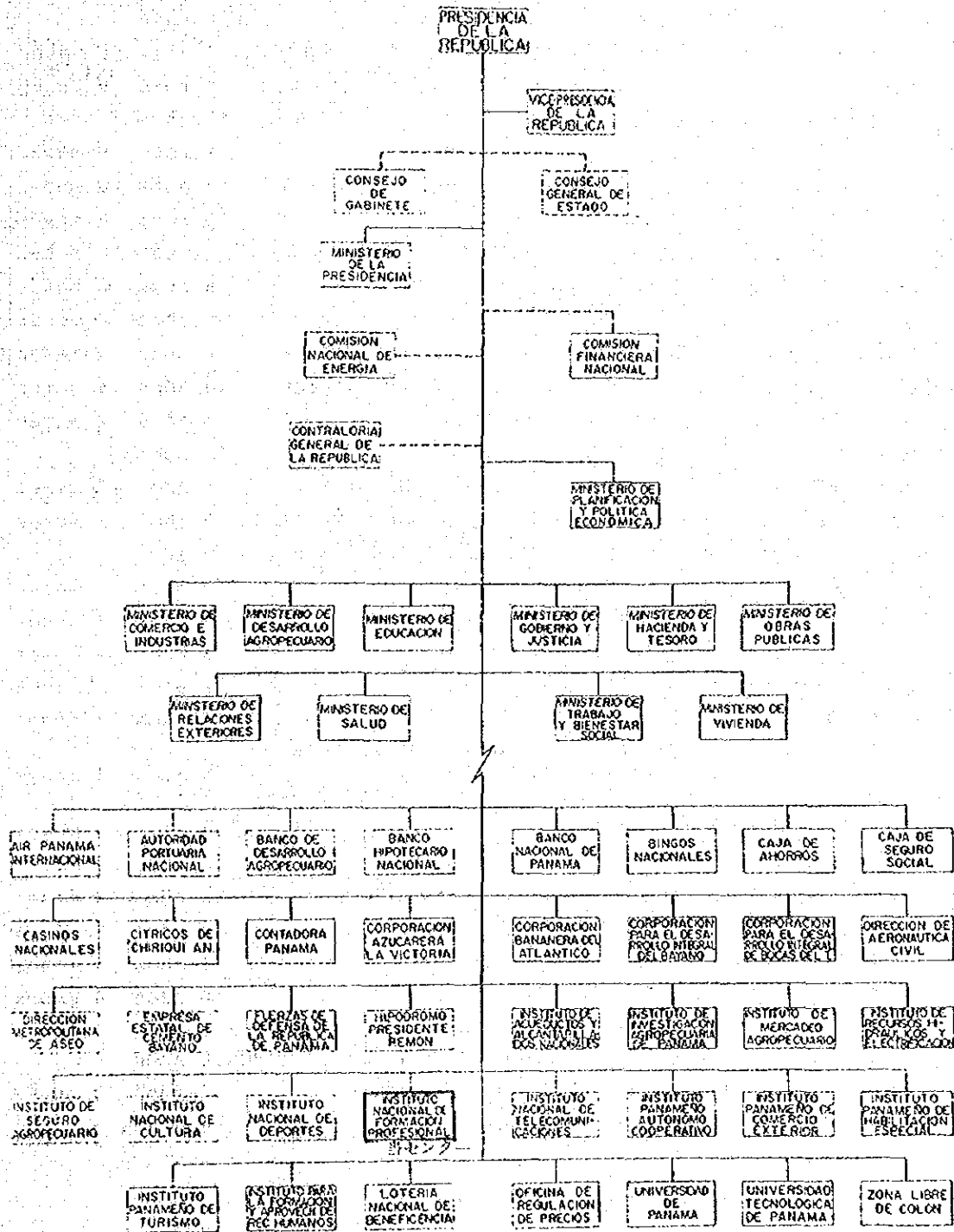
付 属 資 料



1. 組織図および職員数

組織図

ORGANO EJECUTIVO



MIPPE - Dirección de Planificación y Desarrollo Institucional, Panamá, 1987

PERSONAL QUE LABORA EN EL C. P. J.

<u>NOMBRE</u>	<u>ESCOLARIDAD</u>	<u>AÑOS DE SERVICIO</u>
LUIS B. SCOTT	INGENIERO ELECTRONICO	4 años
MARCIAL GORDON	TECNICO EN TOPOGRAFIA Y EDIFICACION	9 años 11 meses
MAGDA DE ALVARADO	VI AÑO ADMINISTRACION DE EMPRESAS	3 años 9 meses
PRIMITIVO ALVARADO	PERITO COMERCIAL	13 años
LINETTE B. AGUILAR	BACHILLER EN COMERCIO	1 año 8 meses
VILMA BROKAMP	BACHILLER EN COMERCIO	3 años 10 meses
GLORIA DE CALVO	VI SEXTO PRIMARIA	5 años 6 meses
RUBIELA MARTINES	BACHILLER EN CIENCIAS	1 año 10 meses
MARCOS GONZALEZ	TECNICO ELECTRICISTA	8 años 8 meses
FELIPE MORGAN	TEC. EN INGENIERIA ELECTRICA	5 años 8 meses
CESAR VARGAS B.	TEC. EN ELECTRICIDAD INDUSTRIAL	4 años 3 meses
ENRIQUE CORREA	TEC. EN ELECTRICIDAD INDUSTRIAL	3 años 4 meses
ROLANDO ESCALANTE	MECANICO INDUSTRIAL	4 años 2 meses
RENE BARNEZ	BACHILLER INDUSTRIAL	14 años
MARCOS VARGAS	TECNICO EN MECANICO INDUSTRIAL	1 año 10 meses
ARNULFO SANCHEZ	TEC. EN MECANICA AUTOMOTRIZ DIESEL	3 años 2 meses
CARLOS A. MOLINARES	BACHILLER EN MECANICA AUTOMOTRIZ	9 años
DAGOBERTO BARBA	MECANICO	9 años 3 meses
PRIMO A. ESCLOPIS	BACHILLER INDUSTRIAL	4 años 2 meses
LUIS A. DE SEDAS	MECANICO INDUSTRIAL	3 años 9 meses
SILVESTRE RUFFERMAN	BACHILLER INDUSTRIAL	2 años 6 meses
ALVARO LOPEZ	MECANICO EN REFRIGERACION Y A/A	9 años 5 meses
LUIS A. POVEDA	MECANICO MONTADOR Y OPERADOR DE SISTEMAS INDUSTRIALES	5 años 4 meses
HERNAN REFCE	BACHILLER EN REFRIGERACION Y A/A	5 años
AQUILINO RODRIGUEZ	TECNICO EN REFRIGERACION Y A/A	2 años 4 meses
RAMON ESPINOSA	TECNICO EN ELECTRONICA	2 años 1 mes
BORIS A. SANCHEZ	INGENIERO EN ELECTRONICA	2 años 4 meses
SAUL A. CABALLERO	LICENCIADO EN ELECTRONICA	2 años 9 meses
JAVIER RODRIGUEZ	TECNICO EN ELECTRONICA	2 años 3 meses
DANIEL RODRIGUEZ	ELECTRICISTA	16 años 10 meses
IGNACIO JIMENEZ	BACHILLER INDUSTRIAL EN ELECTRONICA	5 años 8 meses
MAXIMO MORGAN	LIC. EN TECNOLOGIA ESP. EN ELECTRON.	6 años
EZEQUIEL DE LA ESPRIELLA	TECNICO EN ELECTRONICA	2 años 2 meses
GLADIS SANCHEZ	BACHILLER INDUSTRIAL	9 meses

2. カウンターパート研修状況

日本でのカウンターパート研修状況

カウンターパート氏名 (担当分野)	研修科目	研修場所および期間	現在の状況
セサル・バルガス (電気科)	電気	1987.5~1988.3 中央技能開発センター	インストラクター
ルイス・スコット (電子科)	電子	1987.5~1988.3 中央技能開発センター 浜松短期大学	インストラクター 1988年9月日・パセンターコー ディネーター 所長代行として現在に至る
アルベルト・デ・セイダ (板金塗装科)	板金塗装	1987.5~1988.3 中央技能開発センター	インストラクター
ボリス・サンチェス (電子科)	電子	1988.5~1989.5 中央技能開発センター	日本研修中
アキリーノ・ロドリゲス (溶接科)	溶接	1988.5~1989.4	日本研修より4月21日帰パ
シルベストレ・ルッフマン (板金塗装科)	板金塗装	1988.5~1989.5	日本研修中
エスチュエル・エスピリエー ジア	日本語研修	1987.3~1988.2 沖縄国際センター	日本語研修(沖縄センター) TV技術研修 現在視覚部門でTVの編集、撮 影技術を担当
グラディス・サンチェス	日本語研修	1989.4~1990.4 沖縄国際センター	1989年4月17日日本語研修(於: 沖縄国際センター)のため出発
ヒルベルト・トゥニョン	視察		
カルロス・H・G	視察		

日本でのカウンターパートの研修状況

板金塗装科

カウンターパート 氏名	研修科目	研修場所および期間	研修結果	現在の状況
アルハディス・ ペレス	語学研修 板金基本作業 車体整備作業 塗装作業	1985.9～1986.7 JICA 君津技能開発センター 企業実習（関西ペイント）	右記	帰国後健康・家庭問題 等で勤務状況が不安定 で、1987.9に日・パセ ンターより外れて1988. 3からはINAFORPに も出勤しなくなる
プリモ・エスク ロピス	語学研修 板金基本作業 車体整備作業 塗装作業	1986.7～1987.3 JICA 千葉中央技能開発センター 君津技能開発センター 企業実習（関西ペイント）	良 好	料のコーディネーター をペレスの後引き受け 日・パセーターのカウ ンターパートとして勤 務中
デ・セイダー	語学研修 板金基本作業 車体整備作業 塗装作業	1987.7～1988.3 JICA 千葉中央技能開発センター 埼玉技能開発センター 企業実習（関西ペイント）	良 好	板金塗装科のカウンタ パートとして勤務中
シルヴェストレ ・ルフェルマン	語学研修 板金基本作業 車体整備作業 塗装作業	1988.7～1989.3 JICA 千葉中央技能開発センター 小野田技能開発センター 企業実習（関西ペイント）	5月5日現在、 日・パセーター にまだ出勤せず	

日本でのカウンターパートの研修状況

自動車整備科

カウンターパート 氏名	研修科目	研修場所および期間	研修結果	現在の状況
C.モリナレス	日本語 ガソリンエンジン ディーゼルエンジン トランスミッション 電子燃料噴射装置 電気装置、シャシ 装置 建設、重機車両、他	1985. 9. 23~1988. 7. 4 JICA 研修センター 3カ月 千葉技能開発センター 3カ月 同 上 トヨタ自動車名古屋 2週間 横浜イイズ 2週間 君津技術開発センター 2週間 神奈川技術開発センター2週間	期間が短い 良 好 同 上 同 上 期間が短い 良 好 同 上	全体として良好で訓練 指導上によくその技術、 技能を活用している。 しかしながら、日本語、 および電子燃料噴射装 置については、研修期 間が短すぎて十分活用 できていない
D.バルバ	日本語 ガソリンエンジン ディーゼルエンジン ロータリーエンジン シャシ装置全般 電気装置	1981. 4~1981. 11 JICA研修センター 君津技能開発センター 同 上 同 上 同 上 同 上	良 良 好 同 上 良 好 良	研修実施時期が1981年 と8年経過しており、 若干の理論知識の停滞 が懸念されるが、現在 でもなお研修内容は訓 練指導に生かされてい る。しかしながら、ロー タリーエンジンについ ては今日まで機会にめ ぐまれていない
A.サンチェス	日本語 電気、電子基礎理 論 ガソリンエンジン シャシ装置全般 指導法その他	1986. 6. 9~1987. 3. 21 JICA 研修センター 3カ月 君津技能開発センター 6カ月 同 上 同 上 同 上	良 良 好 同 上 同 上 同 上	INAFORP 採用後、2 カ月たらずで日本研修 に出発したため、本人 の能力がわからないま ま研修計画書を本人の 意向にそって作成した が、ディーゼルエンジ ンの技能技術しかなか ったため、ガソリンエン ジン、電気装置に重点 を置いた結果、格段の 進歩をとげ、訓練指導 上非常に有効である

3. 日・パセリター卒業生数

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
CRONOGRAMA DE PARTICIPANTES EGRESADOS
CENTRO PANAMERO JAPONES

AREA TECNOLÓGICA	1983-1985			1985-1986			1986-1987			1987-1988			1988-1989			1989-1990							
	AS	AP	Re	Eg	AS	AP	Re	Eg	AS	AP	Re	Eg	AS	AP	Re	Eg	AS	AP	Re	Eg			
GRAN TOTAL 総計	AS= 1844	AP= 594	RF= 79	EC= 350																			
TOTAL POR AÑO 年合計	70	32	4	29	83	66	18	54	92	88	11	77	297	198	17	91	370	115	29	86	942	95	
基礎電気																							
Electronica Basica	40	16	2	14	32	18	12	12	25	18	4	14	116	108	3	15	105	18	7	11	401	18	
応用電気																							
Electronica Avanzada					14			14	14	12	12	12	14	4	10		15	6	9		11		
工業電気																							
Electricidad Industrial	10	16	2	15	35	18	4	14	15	18	-	19	48	15	1	14	68	18	5	13	202	10	
冷凍空調																							
Refrigeración y A/A					16	16	2	14	17	14	3	11	23	16	3	13	31	16	-	16	103	16	
特殊溶接																							
Soldadura Especializada									25	16	4	12	30	16	3	13	60	16	4	12			
自動車整備																							
Mecánica Automotriz									65	16	1	15	86	16	3	13	215	16					
板金塗装																							
Chapistería y Pintura													15	13	2	11	20	16	4	12	21	16	
写真編集																							
Filmación y Edición									10	10	10	10											

AS: Aspirante 予備生
 Ap: Aprobados 合格者
 Re: Retirados 退学者
 Eg: Egresados 卒業生

Observación: - En el año 1983 del mes de diciembre se iniciaron solamente 2 cursos: Electricidad Industrial y Electronica Basica, por la misma razón terminaron en el año 1985

- En 1985 se inicia el 1er. curso de Refrigeración y A/A

- En 1986 se inicia el 1er. curso de Soldadura Especializada

- En 1987 se inicia el 1er. curso de Mecánica y el de Chapistería

- En 1987 se dictó un Seminario en el Area de Filmación y Edición con la participación de 10 personas

4. ドイツ・パナマセンター実施コース・入校者数および職員名簿

PARTICIPANTE EGRESADOS DEL CENTRO PMEÑO-ALEMAN 348

PROGRAMAS EN EJECUCION EN 1989 Y TOTAL DE PARTICIPANTES

CURSOS	CANT. PART.	MODOS
Mecanica General VIII D A Y B	48	H
Mecanica Mant. y Rep. 2 do. año	14	H
Mecanica Mant. Herramienta 2do.año	9	H
Mecanica Maquina Herramienta 2do.año	9	H
Formación en Etapa F.E.I/ 6	28	H
Maquinas herramientas	12	C
Hojalateria	11	C
Soldadura A + Elect.	14	C
Mantenimiento y Reparación	14	C
Mantenimiento y Rep. 2 do. año	8	H
Formación en Etapa FE II/1	28	H
TOTAL DE PARTICIPANTES	195	

H:Habilitacion (養成基礎コース)

C:Complementacion (向上コース)

PERSONAL DEL CENTRO PANAMENO-ALEMAN (SIMON BOLIVAR)

ADMINISTRATIVOS:

Sra. Ida Jaspe
Sra. Lelia Mc Donald
Sra. Beatriz Abrego.-

TECNICO-DOCENTE:

Inst. Benjamín Gómez, Coordinador Técnico del Centro Alemán
Inst. Carlos Vargas
Inst. Eladio Torres
Inst. Abilio Agrazal
Inst. Marcos Miguez
Inst. Ulpiano Ceballos
Inst. Augusto Dolande
Inst. Omar Macías
Inst. Ariel Torres
Inst. Ricaurter Garibaldi
Inst. Byron Alvarado
Inst. José Gálvez
Inst. Richard Tello
Inst. Luciano Sánchez
Inst. Luis A. Reina
Inst. Alan López
Inst. Carlos Garrido.-

5. 作成済み教材

5-1 テキスト

LIBROS DE ELECTRICIDAD INDUSTRIAL

MAQUINAS ELECTRICAS

MEDICIONES ELECTRICAS

PRACTICAS DE MEDICIONES

MAQUINA PROGRAMABLE

INSTALACIONES ELECTRICAS

USO DE HERRAMIENTAS

PRACTICA DE MONTAJE DE TABLERO DE CONTROL

ELECTRICIDAD BASICA

MATERIALES

ELECTRONICA INDUSTRIAL

LIBROS DE REFRIGERACION Y AIRE ACONDICIONADO

AJUSTE

MAQUINA Y APARATOS

DATOS FUNDAMENTALES

TECNICO DE REFRIGERACION Y AIRE ACONDICIONADO

ELECTROTECNIA RELACIONADA I

ELECTROTECNIA RELACIONADA II

LIBROS DE MECANICA AUTOMOTRIZ Y CHAPISTERIA Y PINTURA

La elaboración de estos libros está en proceso, más no contamos con los medios económicos suficientes.

LIBROS DE ELECTRONICA AVANZADA

EQUIPOS DE AUDIO

TEORIA DE ANTENA PARA T.V.

TEORIA Y PRACTICA DE MICROCOMPUTADORA I

LIBROS DE ELECTRONICA BASICA

CIRCUITOS DE PULSOS

MONTAJE Y USO DE HERRAMIENTA

CIRCUITO DIGITAL COMPLEJO I

PRACTICA DE MEDICION

LIBROS DE SOLDADURA ESPECIALIZADA

TEORIA DE SOLDADURA T.I.G.

PRACTICAS DE INSPECCION ULTRASONICA

METALURGIA

TEORIA Y PRACTICA DE SOLDADURA SEMI-AUTOMATICA CON CO₂

PRACTICAS DE SOLDADURA T.I.G. Y CO₂

PRACTICAS DE INSPECCION RADIOGRAFICA

PRACTICAS DE SOLDADURA AUTOGENA.

PRACTICAS DE SOLDADURA POR ARCO CON ELECTRODOS REVESTIDOS

5-2 ビデオ

NOMBRES DE VIDEOS EXISTENTES EN LA UNIDAD DE FILMACION Y

EDICION DEL CENTRO PANAMEÑO JAPONES

**	Colocación de Piezas sobre Placas Impresas	Electrónica
-	Qué es el INAFORP ?	Informativo
-	El CPJ dentro del INAFORP	Informativo
-	Desarme del Motor Trifásico	Electricidad
-	Manejo y Uso del Osciloscopio	Electrónica
-	Cambio de Cuchillas, (Cizalla mod. S-1320)	Soldadura
-	Manejo y Uso de la Máquina de Soldar tipo Plasma	Soldadura
-*	Principios del VTR (I parte)	Electrónica
-*	Abertura de la Cabeza de Video, Velocidad de Recorrido de la Cinta, Conversión a señal de FM, Diagrama de Bloques del VTR (II parte)	Electrónica
-*	Descripción de las dos Cabezas Giratorias (III parte) a- Rastreo en la cinta de video b- Grabación y reproducción con sistemas de dos cabezas c- Sistemas de control de re-trotensión	Electrónica
-*	Nueva Tecnología en los VHS. (IV parte) a- Ancho de la pista de video b- Tambor de la cabeza de video	Electrónica
*	Sistema con grabado de desplazamiento de 90 Diagrama en bloque del circuito de control automático de frecuencia de color (V parte)	Electrónica
-	Manejo y Uso del rayador, escuadra y centro Punto	Electrónica
-	Convenio de Cooperación Técnica	Informativo
-	Generador de Barras de color	Electrónica
-	Como desarmar la pistola pulverizadora	Chap. y Pintura
-	Calibración de la Bujía	Mecánica
-	Gira Nacional	Informativo

* Condiciones de la Punta del Cautín
Condiciones esenciales para realizar la
soldadura


Tipos de Soldadura

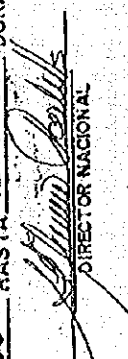
Electrónica

* Traducidos del Inglés al Español

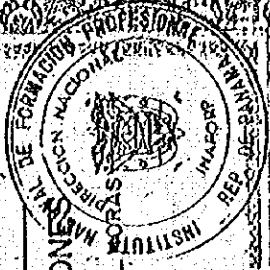
** Traducidos del Japonés al Español

6. 日・パセーター修了証および成績証明書


REPUBLICA DE PANAMA
INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
OTORGA EL PRESENTE
CERTIFICADO
A DOMINGUEZ LUIS
POR HABER APROBADO SATISFACTORIAMENTE EL CURSO
MECANICA AUTOMOTRIZ
DESARROLLADO EN CENTRO PANAMENO JAPONES
DESDE 16-5-88 HASTA 12-5-89 DURACION 1500 HORAS


DIRECTOR NACIONAL

CODIGO DEL CURSO : 24336
Nº DE CERTIFICADO: 7127



CC 24336



CP 1127

REPUBLICA DE PANAMA

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL CERTIFICA

1. Que el Señor (a) DOMINGUEZ LUIS cédula 8-336-168
 Aprobó el CURSO DE MECANICA AUTOMOTRIZ
 Desarrollado en CENTRO PANAMEÑO JAPONES
 Nota Final 84

2. **Objetivos del Curso:** Al finalizar el curso, el participante será capaz de aplicar los conocimientos teóricos y prácticos en la reparación, mantenimiento e inspección del automóvil.

3. En consecuencia, según la presente certificación, el portador está habilitado para desempeñar las siguientes tareas:

3.1 Conocimiento y manejo de las herramientas, equipos y máquinas necesarias para la comprobación y reparación de las diferentes partes que conforman el automóvil.

3.2 Funcionamiento y reparación de los motores
 3.2.1. Motores de gasolina
 3.2.2. Motores diesel
 3.2.3. Motores rotativos
 3.2.4. Dispositivos eléctricos para el motor

3.3. Funcionamiento y reparación de los sistemas de transmisión
 3.3.1. Sistema de embragues
 3.3.2. Transmisiones manuales
 3.3.3. Transmisiones automáticas
 3.3.4. Diferenciales

3.4 Funcionamiento y reparación de los sistemas de chasis
 3.4.1. Sistema de frenos
 3.4.2. Sistema de dirección
 3.4.3. Sistema de suspensión
 3.4.4. Sistema eléctricos del chasis

4. En fe de lo cual se firma la presente certificación en la Ciudad de Panamá a los _____ días del mes de _____ de 19____



[Firma]
 Coordinador Técnico
 C.P.J.

Nota: La Nota Final de desempeño corresponde a la escala utilizada en el Instituto, que comprende:

- 92 - 100 puntos = Excelente
- 81 - 91.9 puntos = Bueno
- 67 - 80.9 puntos = Regular
- 55 - 66.9 puntos = Suficiente
- 0 - 54.9 puntos = Reprobado



REPÚBLICA DE PANAMA

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL

OTORGA EL PRESENTE.

CERTIFICADO

A PEREZ PACHA

POR HABER APROBADO SATISFACTORIAMENTE EL CURSO.

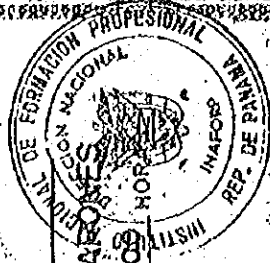
ELECTRONICA BASICA

DESARROLLADO EN CENTRO PANAMENO JARONES

DESDE 16-5-88 HASTA 28-6-89 DURACION 1500 HORAS

CODIGO DEL CURSO : 24302
Nº DE CERTIFICADO: 7152

[Signature]
DIRECTOR NACIONAL



CC 24302



CP 1152

REPUBLICA DE PANAMA
INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
CERTIFICA

1. Que el Señor (a) PEREZ PACHA Cédula P.E.5-458
Aprobó el CURSO DE ELECTRONICA BASICA
Desarrollado en CENTRO PANAMEÑO JAPONES
Nota Final 88

2. Objetivos del Curso: Al finalizar el curso el participante estará capacitado con los conocimientos y habilidades relacionados con la teoría y práctica de los Circuitos Electrónicos Elementales.

3. En consecuencia, según la presente certificación, el portador está habilitado

para desempeñar las siguientes tareas:

- 3.1 Manejo o uso y cuidado de equipos electrónicos de medición de tipos Analógicos y Digitales:
 - 3.1.1. Multímetros
 - 3.1.2. Generadores de señales de baja frecuencia de funciones y de radio frecuencia.
 - 3.1.3. Fuentes de energía regulada y no regulada
 - 3.1.4. Osciloscopio de doble trazo

- 3.2 Medición, comprobación y aplicación de dispositivos de estado sólido, tales como:
 - 3.2.1. Diodos y transistores
 - 3.2.2. FET y MOSFET
 - 3.2.3. Tiristores (DIAC, TRIAC, y SCR)

- 3.3 Uso de equipos de laboratorio y de entrenamiento, diseñados para:
 - 3.3.1. Mediciones básicas de corrientes, voltaje, resistencia y potencia.
 - 3.3.2. Circuitos de pulsos
 - 3.3.3. Circuitos digitales

- 3.4 Diseño de circuitos impresos y montaje de componentes electrónicos.
 - 3.4.1. Técnicas de soldadura, cableado, diseño y elaboración de circuitos sobre placa impresa y construcción de cajas para chasis.

4. En fé de lo cual se firma la presente certificación en la Ciudad de Panamá a los _____ días del mes de _____ de 19____.



[Handwritten Signature]
Coordinador Técnico
C.P.J.



La Nota Final de desempeño corresponde a la escala utilizada en el Instituto, que comprende:

- 92 - 100 puntos = Excelente
- 81 - 91.9 puntos = Bueno
- 67 - 80.9 puntos = Regular
- 55 - 66.9 puntos = Suficiente
- 0 - 54.9 puntos = Reprobado



REPÚBLICA DE PANAMÁ

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL

OTORGA EL PRESENTE

CERTIFICADO

A PEREA RAUL

POR HABER APROBADO SATISFACTORIAMENTE EL CURSO

ELECTRONICA AVANZADA (209)

DESARROLLADO EN CENTRO PANAMEÑO JAPONÉS

DESDE 23-5-1988 HASTA 12-5-1989 DURACION 1500 HORAS

CODIGO DEL CURSO : 24320
Nº DE CERTIFICADO: 7168

[Signature]
DIRECTOR NACIONAL



CC 24320



CP 1168

REPUBLICA DE PANAMA
INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
CERTIFICA

1. Que el Señor (a) PEREA RAUL Cédula 8-529-7701
Aprobó el CURSO DE ELECTRONICA AVANZADA
Desarrollado en CENTRO PANAMEÑO JAPONES
Nota Final 8.6 (86)

2. Objetivos del Curso: Al finalizar el curso el Participante estará capacitado con los conocimientos y habilidades relacionados con la teoría y práctica de Sistemas de Control por medio de Microcomputadoras y Sistemas de Audio y Video tanto Analógicas como Digital.

3. En consecuencia, según la presente certificación, el portador está habilitado para desempeñar las siguientes tareas:

- A) Construcción de placas para equipos electrónicos.
- B) Reparación y mantenimiento de radio AM y FM, y grabadoras.
- C) Reparación y mantenimiento de TV Blanco y Negro y a Color.
- D) Mantenimiento y reparación de video grabadoras.
- E) Montaje, ajuste, mantenimiento y control de sistemas digitales.
- F) Programación en lenguaje de máquina para control de sistemas industriales y comerciales.

4. En fé de lo cual se firma la presente certificación en la Ciudad de Panamá a los _____ días del mes de _____ de 19____



[Signature]
Oficina de Registro y Control



[Signature]
COORDINADOR TECNICO
C.P.J.

La Nota Final de desempeño corresponde a la escala utilizada en el Instituto, que comprende:

- 92 - 100 puntos = Excelente
- 81 - 91.9 puntos = Bueno
- 67 - 80.9 puntos = Regular
- 55 - 66.9 puntos = Suficiente
- 0 - 54.9 puntos = Reprobado



REPÚBLICA DE PANAMA

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL

OTORGA EL PRESENTE

CERTIFICADO

A ARAUZ PABLO

POR HABER APROBADO SATISFACTORIAMENTE EL CURSO
REFRIGERACION Y AIRE ACONDICIONADO

DESARROLLADO EN CENTRO PANAMENO JAPONES
DESDE 16-5-1988 HASTA 14-6-1989 DURACION 1500 HORAS

CODIGO DEL CURSO : 24322
Nº DE CERTIFICADO: 7713


DIRECTOR NACIONAL



CC 24322



CP 1113

REPUBLICA DE PANAMA
INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
CERTIFICA

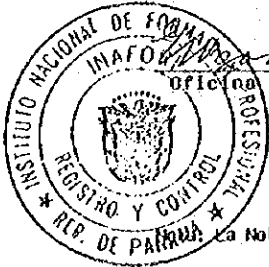
1. Que el Señor (a) ARAUZ PABLO cédula A-142-184
Aprobó el CURSO DE REFRIGERACION Y AIRE ACONDICIONADO
Desarrollado en CENTRO PANAMEÑO JAPONES
Nota Final 90,5

2. Objetivos del Curso: *Capacitar al participante en el dominio de los conocimientos técnicos, habilidades y destrezas referentes al cálculo, instalación, reparación y mantenimiento de sistemas de refrigeración y aire acondicionado domésticos, comerciales e industriales.*

3. En consecuencia, según la presente certificación, el portador está habilitado para desempeñar las siguientes tareas:

- 3.1 Cálculo de carga de sistemas frigoríficos y de aire acondicionado.
- 3.2 Instalación, reparación y mantenimiento de sistemas y equipos de refrigeración doméstica y comercial (cuarto frío prefabricado).
- 3.3 Cálculo para instalación, reparación y mantenimiento de sistemas de aire acondicionado doméstico y comercial: centrales y split (piso, pared y cielo raso).
- 3.4 Instalaciones eléctricas: tubería y alambrado y controles eléctricos.
- 3.5 Reparación y mantenimiento de compresores abiertos y semi-abiertos.
- 3.6 Ejecución de trabajos afines a la especialidad: hojalatería, soldadura (eléctrica y autógena), plomería (P.V.C. y galvanizada), ajuste mecánico.

4. En fé de lo cual se firma la presente certificación en la Ciudad de Panamá a los _____ días del mes de _____ de 19____.



[Firma]
COORDINADOR TECNICO
P. J.
DIRECTOR NACIONAL
INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL

La Nota Final de desempeño corresponde a la escala utilizada en el Instituto, que comprende:

- 92 - 100 puntos = Excelente
- 81 - 91.9 puntos = Bueno
- 67 - 80.9 puntos = Regular
- 55 - 66.9 puntos = Suficiente
- 0 - 54.9 puntos = Reprobado



REPÚBLICA DE PANAMÁ

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACIÓN PROFESIONAL

OTORGA EL PRESENTE

CERTIFICADO

A REAL BORIS

POR HABER APROBADO SATISFACTORIAMENTE EL CURSO

ELECTRICIDAD INDUSTRIAL

DESARROLLADO EN CENTRO PANAMEÑO JAPONÉS

DESDE 16-5-88 HASTA 12-5-89 DURACION 1500 HORAS



[Signature]
DIRECTOR NACIONAL

CODIGO DEL CURSO : 24294
Nº DE CERTIFICADO: 1104

CC 24294



CP 1104

REPUBLICA DE PANAMA
INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
CERTIFICA

1. Que el Señor (a) REAL BORIS Cédula 2-107-147
Aprobó el CURSO DE ELECTRICIDAD INDUSTRIAL
Desarrollado en CENTRO PANAMEÑO JAPONES
Nota Final 85

2. Objetivos del Curso: Capacitar al participante en el dominio de los conocimientos técnicos, destrezas y habilidades referentes a la electricidad residencial e industrial.

3. En consecuencia, según la presente certificación, el portador está habilitado para desempeñar las siguientes tareas:

- 3.1 Montaje, ajuste, control y reparación de diversos tipos de máquinas y aparatos eléctricos industriales como motores, transformadores, instrumentos eléctricos, o la parte eléctrica de ascensores y demás equipo auxiliar industrial.
- 3.2 Ajuste y reparación de la parte eléctrica de aparatos de uso doméstico y máquinas de oficina.
- 3.3 Montaje, mantenimiento y reparación de instalaciones eléctricas y equipos auxiliares en viviendas residenciales, edificios comerciales e industriales.
- 3.4 Embobinado a mano o a máquina de motores trifásicos y monofásicos.
- 3.5 Montaje, ajuste, control y mantenimiento de sistemas electromagnéticos.
- 3.6 Diseño de sistemas básicos de control digital.
- 3.7 Control de sistemas de proceso por máquinas de control programable.

4. En fé de lo cual se firma la presente certificación en la Ciudad de Panamá a los _____ días del mes de _____ de 19____



El nivel de desempeño correspondiente a la escala utilizada en el Instituto, que comprende:

- 92 - 100 puntos = Excelente
- 81 - 91.9 puntos = Bueno
- 67 - 80.9 puntos = Regular
- 55 - 66.9 puntos = Suficiente
- 0 - 54.9 puntos = Reprobado



REPÚBLICA DE PANAMA

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL

OTORGA EL PRESENTE

CERTIFICADO

A CARDENAS ALBERTO

POR HABER APROBADO SATISFACTORIAMENTE EL CURSO
CHAPISTERIA Y PINTURA

DESARROLLADO EN CENTRO PANAMEÑO JAPONES
DESDE 16-5-88 HASTA 12-5-89 DURACION 1500 HORAS

CODIGO DEL CURSO : 24353
Nº DE CERTIFICADO: 7144

DIRECTOR NACIONAL



CC 24353



CP 1144

REPUBLICA DE PANAMA
INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
CERTIFICA

1. Que el Señor (a) CARDENAS ALBERTO Cédula 8-330-110
Aprobó el CURSO DE CHAPISTERIA Y PINTURA
Desarrollado en CENTRO PANAMERO JAPONES
Nota Final 78

2. Objetivos del Curso:

Capacitar al Participante con los conocimientos técnicos referentes al proceso de la Chapistería y Pintura.

3. En consecuencia, según la presente certificación, el portador está habilitado para desempeñar las siguientes tareas:

- 3.1 Conocimiento de Seguridad Industrial.
- 3.2 Dominio en el uso de soldadura autógena, contacto, CO2 y nociones de soldadura eléctrica.
- 3.3 Enderezamiento de carrocería por medios manuales, equipos y maquinarias. Instalación de vidrio, molduras, diseño y confección de partes oxidadas o deterioradas.
- 3.4 Dominio en la aplicación y lijado de plastobond (soldadura flexible), masilla, fondo universal primario (base) y preparación de la superficie.
- 3.5 Ejecución de trabajos afines a la especialidad, ajuste mecánico y dispositivos eléctricos.
- 3.6 Conocimientos y preparación de pintura básica y automotriz.



En la ciudad de Panamá, a los _____ días del mes de _____ de 19____



[Signature]
Coordinador Técnico
C.P.J.

Nota: La Nota Final de desempeño corresponde a la escala utilizada en el Instituto, que comprende:

- 92 - 100 puntos = Excelente
- 81 - 91,9 puntos = Bueno
- 67 - 80,9 puntos = Regular
- 55 - 66,9 puntos = Suficiente
- 0 - 54,9 puntos = Reprobado

7. パナマ側評価報告書

EVALUACION OPERATIVA FINAL

DEL

CENTRO PANAMEÑO JAPONES

INDICE

1. *Presentación*
序文
2. *Antecedentes*
背景
3. *Objetivos*
目的
4. *Organigrama del Centro Panameño-Japonés*
日・パセンター組織図
5. *Personal del Centro Panameño-Japonés*
センター人員配置
6. *Infraestructura*
インフラ
7. *Cobertura*
8. *Cursos y Participantes*
コースおよび参加者
9. *Inversión: Maquinaria y Equipo*
投入計画：機材
10. *Asistencia Técnica Japonesa-Contraparte*
日本人専門家の技術移転
11. *Adiestramiento a Personal Contraparte*
カウンターパートへの訓練
12. *Extensión del Proyecto*
プロジェクト延長
13. *Período de Cooperación*
協力期間
14. *Conclusión*
まとめ

P R E S E N T A C I O N

Esta Coordinación Técnica, contraparte de la Misión Técnica del Japón, ha elaborado el presente documento con el sano propósito de brindar una visión panorámica e información de primera mano de lo que ha sido hasta el momento la evaluación del "CENTRO TECNICO PANAMEÑO-JAPONES", dentro del marco del Proyecto de Cooperación Técnica suscrito entre los gobiernos del Japón y Panamá a través de la Agencia de Cooperación Internacional (J.I.C.A.) y del Instituto Nacional de Formación Profesional.

ANTECEDENTES:

La relación que existe entre la cantidad y la calidad es un aspecto que ha preocupado a nuestro gobierno y más específicamente a nuestra institución desde hace bastante tiempo, llegándose a la conclusión de que no debería sacrificarse la una por la otra. La búsqueda de metodología y modalidades de trabajo que permitan ampliar la cobertura de los programas con normas adecuadas de calidad, es un permanente desafío para nuestro sistema de Formación Profesional.

De manera consecuente con el concepto de la calidad de la formación, el producto del proceso formativo debe poseer las condiciones cognoscitiva, tecnológicas, culturales, sociales y éticas que la sociedad así demanda.

Pero la realidad existente de nuestro país nos daba claros indicios de no apegar-se a los lineamientos arriba mencionados muestra de ello es: La baja calidad de la mano de obra del egresado de los centros vocacionales, lo cual le impide lograr un puesto de trabajo debido a su formación (Bachillerato).

La vertiginosa velocidad de cambio tecnológica, trae como consecuencia el incremento de los artículos de consumo y bienes de importación japoneses hacia nuestro país. Siendo Panamá un país carente de tecnología propia y sumándose a esto el párrafo enunciado anteriormente nos imponía serias limitaciones en cuanto al mantenimiento preventivo e industrial de este avance tecnológico. Pero sobre todo ante los desafíos y exigencias que el año 2,000 nos depara, cuando sea entregado el Canal de

Panamá a los panameños, el personal requerido debe poseer las condiciones necesarias mínimas para poder dar respuestas adecuadas ante tan magno compromiso; por estas razones entre otras, nuestro gobierno no escatimó esfuerzos para tratar de lograr un verdadero sistema de Formación Profesional y aprovechó las buenas relaciones existentes con el gobierno del Japón y a través de su unidad ejecutora de Cooperación Internacional J.I.C.A., (JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY) se sometió a un estudio preliminar las posibilidades de llevar a cabo la realización de un proyecto de Formación Profesional llamado Centro Panameño-Japonés, el cual culminó con la firma del convenio por NORIOMI SOYA, Jefe del Equipo Japonés de Estudio sobre Ejecución (JICA), y HEIRODENES E. MOSCOSO G., Director Nacional de Formación Profesional (Ministerio de Trabajo y Bienestar Social), el día 26 de agosto de 1982. A partir de ese momento, la ejecución de lo establecido en éste acuerdo se ha llevado a cabo de una manera cabal, coherente y sistemática, hasta la elaboración de este documento.

OBJETIVOS:

El Centro Panameño-Japonés, tiene como objetivo fundamental la canalización del sistema de cooperación que brinda el gobierno del Japón de manera tal que pueda contribuir al mejoramiento técnico de los recursos humanos acorde a las necesidades prioritarias del país y como consecuencia, a la elevación de su nivel de vida en nuestra sociedad.

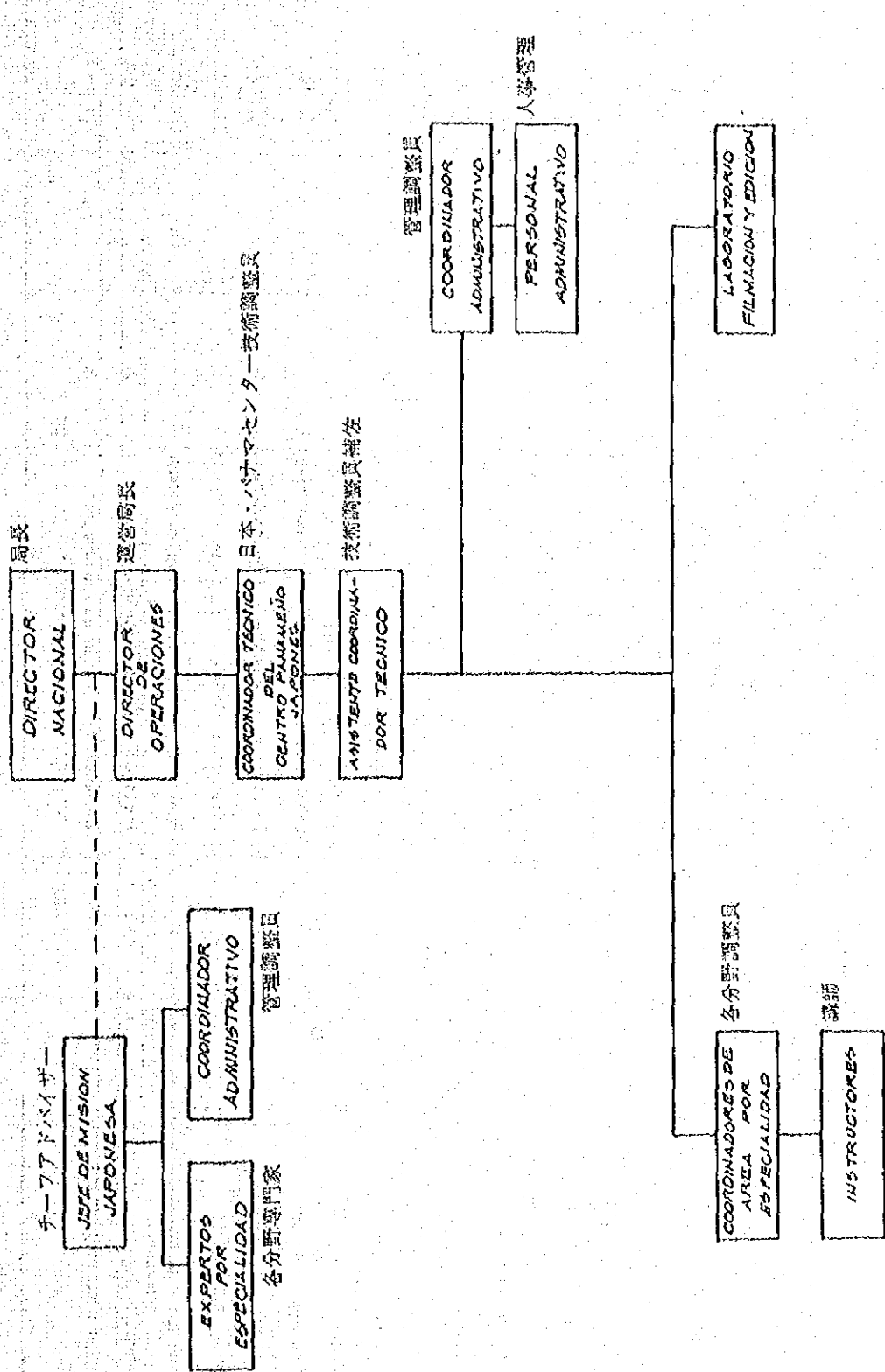
Capacitar en forma sistemática y científica a los usuarios de la Formación Profesional para que mediante los programas y contenidos se pueda lograr a corto plazo, el conocimiento necesario para dar respuesta a las demandas impuestas por nuestra sociedad mediante un plan de carreras técnicas de habilitación, que se imparten en el Centro.

Transferir a los participantes, hábitos y actitudes simultáneamente a su preparación técnica, que le permitan discernir la responsabilidad de ellos sobre la sociedad y viceversa.

Trabajar insertos dentro de la infraestructura del INAFORP, de acuerdo a su política de servicio a la comunidad de manera que la Formación Profesional sea un medio efectivo para la promoción económica, social y profesional de los trabajadores panameños.

Reconocer mediante la certificación ocupacional, los conocimientos y habilidades alcanzados por el participante, durante su período de capacitación.

Mantener y desarrollar las siempre excelentes relaciones



日本・パナマセンター組織図
 ORGANIGRAMA
 CENTRO PANAMEÑO - JAPONES

CUADRO DEL PERSONAL QUE LABORA EN EL C. P. J.
日本・パナマセンター従業員

Nombre	P. E. R. S. O. N. A. L.		Cargo Que Desempeña	Permanente	Eventual	Fecha de Inicio
	Admivo.	Docente				
Luis B. Scott	X		Coordinador Técnico del C.P.J.	X		16/6/85
Marcial Gordán	X		Asistente del Coordinador Téc.	X		26/7/79
Megda H. de Alvarado	X		Coordinadora Admtva. del C.P.J.	X		16/9/85
Primitivo Alvarado U.	X		Asistente de Coordinación Admtva.	X		5/4/79
Línette B. Aguilar	X		Secretaría Coordinación Técnica	X		16/10/87
Ulma Stobamp	X		Secretaría Area de Instrucciones	X		16/8/85
Gloria de Calvo	X		Trabajadora Manual	X		1/12/83
Rubiela Martínez	X		Operaria de Reproducción	X		16/8/87
Marcos González R.		X	Instructor - Electricidad Industrial	X		1/10/80
Felipe Morigar		X	Instructor - Electricidad Industrial	X		4/10/83
César Vargas B.		X	Instructor - Electricidad Industrial		X	1/1/86
Enrique Correa		X	Instructor - Electricidad Industrial		X	2/6/86
Rolando Escalante		X	Instructor - Soldadura Especializada	X		16/4/85
Rene Barnes		X	Instructor - Soldadura Especializada	X		23/6/75
Marcos Vargas		X	Instructor - Soldadura Especializada		X	24/3/87
Amulfo Sánchez		X	Instructor - Mecánica Automotriz	X		1/4/86
Carlón A. Melineros		X	Instructor - Mecánica Automotriz	X		25/6/80

CUADRO DEL PERSONAL QUE LABORA EN EL C. P. J.

NOMBRE	P. E. R. S. O. N. A. L		CARGO QUE DESEMPEÑA	PERMANENTE	EVENTUAL	FECHA DE INICIO
	ACTIVO	DOCENTE				
Dagoberto Barba	X		Instructor - Mecánica	X		26/3/55
Primo A. Esclopis	X		Instructor - Carpistería y Pintura	X		21/2/55
Luis A. De Sedas	X		Instructor - Carpistería y Pintura	X		2/9/55
Silvestre Rubienman	X		Instructor - Carpistería y Pintura	X		7/12/56
Alvaro López B.	X		Instructor - Refrigeración A/A	X		5/1/50
Luis A. Poveda	X		Instructor - Refrigeración A/A	X		1/2/54
Hernán Reece	X		Instructor - Refrigeración A/A	X		11/6/54
Aquilino Rodríguez	X		Instructor - Refrigeración A/A		X	16/2/57
Ramón Espinosa	X		Instructor - Electrónica Básica		X	25/5/57
Boris A. Sánchez	X		Instructor - Electrónica Básica		X	19/2/57
Saúl A. Caballero	X		Instructor - Electrónica Básica	X		4/9/56
Javier Rodríguez	X		Instructor - Electrónica Básica		X	23/3/57
Daniel Rodríguez	X		Instructor - Electrónica Avanzada	X		1/8/72
Ignacio Jiménez	X		Instructor - Electrónica Avanzada	X		4/10/53
Gladys M. Sánchez	X		Instructora - Dibujo	X		1/6/54
Ezequiel De La Espinosa	X		Instructor - Filmación y Edición		X	1/4/57
Moisés De Castro	X		Instructor - Filmación y Edición	X		16/2/57

INFRAESTRUCTURA

Según el anexo VI Acta de discusiones para la ejecución del convenio en sus aspectos vinculados con la estructura el Gobierno de la República de Panamá consideró la asignación de la siguiente infraestructura física, para el cumplimiento relativo a la operación en los siguientes aspectos:

1. Area para Oficinas Administrativas
2. Area para Estudios de los Instructores
3. Centro de Laboratorio y Experimentos
4. Aulas para Instrucción Teórica
5. Area para Filmación y Edición

Las facilidades asignadas han respondido a las especificaciones técnicas tanto para la ubicación del equipo como para la instrucción de sus usuarios. El cuadro siguiente nos muestra el área cerrada de 4968 m² que ha sido aportado por el Gobierno de Panamá a través de la entidad ejecutora, INAFORP, con lo cual se ha garantizado la dotación efectiva de las facilidades por completo de edificios y terrenos para el óptimo desarrollo del convenio.

AREA 分野	EXTENSION (m ²) 面積
Electrónica Básica	360
Electrónica Avanzada	400
Electricidad Industrial	320
Almacén	250
Automecánica	940
Chapistería y Pintura	670

Caseta	48
Soldadura	710
Administración	480
Refrigeración y A/A	580
Filmación y Edición	210
<hr/>	
TOTAL	4968 (m2)

Igualmente, el Gobierno de Panamá tomó las providencias necesarias con respecto al rubro de equipo, mobiliario, repuestos, energía y otros, con el fin de garantizar ininterrumpidamente el desarrollo de todas las actividades administrativas y de construcción para el personal Técnico y Docente. Los aspectos vinculados con el transporte, impuestos aduaneros, materiales y otros gastos de operación, también han recibido atención preferente a fin de que la ayuda externa estuviera garantizada oportunamente.

CURSOS Y PARTICIPANTES:

La selección de los participantes se ha llevado a fiel cumplimiento según lo establecido en el acta de discusiones del plan maestro Anexo 1 y Tabla 3.1

POBLACION ENFOCADA:

El programa ha sido elaborado y dirigido para todo estudiante de ambos sexos, egresados de sexto año de educación secundaria, con certificado de Bachiller en Ciencias, Industrial o Ciclo Industrial.

PROCESO DE SELECCION:

Para ser aspirante a participante del Centro de Formación Profesional Panameño Japonés, en primera instancia debe apersonarse a la oficina de Registro y Control en el área metropolitana o directamente en los centros u oficinas regionales de todo el país. Además es necesario cumplir con los requisitos establecidos en el acta de discusiones del plan maestro entre estos requiere: Ser graduado de escuela secundaria (bachiller en ciencias o industrial), y poseer entre 18 y 25 años. Presentar las pruebas de admisión consistentes en: Matemáticas, Física y Comprensión Técnica.

Luego de haber aprobado las pruebas correspondientes se efectúan una entrevista final la cual nos da una apreciación más objetiva del participante por seleccionar y de manera consecuente minimizar la deserción de éstos a través del proceso formativo.

La siguiente tabla nos muestra el total de participantes atendidos y egresados del Centro, desde la iniciación del proyecto hasta la elaboración de este documento.

日本・パナマ職業訓練センター
卒業年代表

INSTITUTO NACIONAL DE FORMACION PROFESIONAL
CENTRO PANAMEÑO JAPONES
CRONOGRAMA DE PARTICIPANTES EGRESADOS

AREA TECNOLÓGICA 技術分野	1983-1985		1986-1987		1988-1989		1990-1991		1992-1993		1994-1995		1996-1999			
	PI	PE	PI	PE	PI	PE	PI	PE	PI	PE	PI	PE	PI	PE		
GRAN TOTAL 総合計	PI= 520 PE= 447 PR= 73															
TOTAL POR AÑO 年合計	32	28	4	66	54	12	38	77	11	108	91	17	105	85	29	111
ELECTRÓNICA BÁSICA 基礎電気	16	14	2	18	12	6	18	14	4	18	15	3	18	11	7	18
ELECTRÓNICA AVANZADA 上級電気	--	--	--	14	14	--	12	12	--	14	10	4	15	9	6	11
ELECTRICIDAD INDUSTRIAL 工業電気	16	14	2	18	14	4	18	18	--	15	14	1	18	13	5	18
REFRIGERACION Y A / A 冷凍空調	--	--	--	16	14	2	14	11	3	16	13	3	16	16	--	16
SOLDADURA ESPECIALIZADA 特殊溶接	--	--	--	--	--	--	16	12	4	16	13	3	16	12	4	16
MECÁNICA AUTOMOTRIZ 自動車整備	--	--	--	--	--	--	--	--	--	16	15	1	16	13	3	16
CHAPISTERIA Y PINTURA 板金塗装	--	--	--	--	--	--	--	--	--	13	11	2	16	12	4	16
FILMACION Y EDICION 写真編集	--	--	--	--	--	--	10	10	--	--	--	--	--	--	--	--

Observación:

- En el año de 1983 del mes de diciembre se iniciaron solamente 2 cursos: Electricidad Industrial y Electrónica Básica, por la misma razón terminaron en el año 1985.
- En 1985 se inicia el 1er. curso de Refrigeración y A/A
- En 1986 se inicia el 1er. curso de Soldadura Especializada
- En 1987 se inicia el 1er. curso de Mecánica y el de Carpintería
- En 1987 se dió un Seminario en el Área de Filmación y Edición con la participación de 10 personas.

PE= Participantes Egresados PI= Participantes Iniciados PR= Participantes Retirados

ELECTRONICA AVANZADA
PRIMERA GENERACION

- 1- ARTHUR ALONSO
- 2- FRANK ANTONIO BAKER C.
- 3- RAMON CORRALES BARRIA
- 4- EDUARDO ANTONIO DE LA LASTRA M.
- 5- RONALDO ENRIQUE GONZALEZ UREÑA
- 6- EUCLIDES GONZALEZ GONZALEZ
- 7- BALBINO OMAR HERNANDEZ
- 8- JULIO A. HERRERA R.
- 9- JUAN DIEGO LUQUE F.
- 10- ENTIDIA MARTINEZ VALDEZ
- 11- OMAIRA BLANCA PERIGAULT C.
- 12- GUILLERMO RODOLFO RILEY DE LEON
- 13- LUIS ALBERTO RUDAS CASTELLANOS
- 14- ANTONIO ARIEL SANDOVAL B.

SEGUNDA GENERACION

- 1- ABREGO TEMISTOCLES
- 2- ALVARADO IVAN
- 3- ARJONA RAFAEL
- 4- ESPINOSA RAMON
- 5- GUERINI ALCIBIADES
- 6- PERALTA SEBASTIAN
- 7- REYES AXELL
- 8- RIQUELME DOMINGO
- 9- RODRIGUEZ JAVIER
- 10- SANCHEZ ENRIQUE
- 11- TEJADA PASCUAL
- 12- DE LA ESPRIELLA EZEQUIEL

TERCERA GENERACION

- 1- VILLARREAL EDUARDO
- 2- MORAN H. MORAN
- 3- HO CARLOS
- 4- LIAO PONCE ALBERTO
- 5- NARVAEZ G. OMAR
- 6- ORTEGA MIGUEL
- 7- EGEA B. JAVIER

ELECTRICIDAD INDUSTRIAL
PRIMERA GENERACION

- 1- SOCRATES ANDREWS LUQUE
- 2- JUAN ANTONIO ARIZA ARABA
- 3- CARLOS BENNETT WAITH
- 4- RIGOBERTO BERNAL MENDOZA
- 5- GUSTAVO ULISES DAWKINS TORRES
- 6- RODRIGO DE OBALDIA
- 7- OMAR ENRIQUE ESCARTIN VISUETI
- 8- ANDRES FLORES A. SANCHEZ
- 9- RICARDO ALBERTO MEDINA BARAHONA
- 10- JOSE MARIA MADRID ALVARADO
- 11- ROLDAN ENRIQUE RIVERA APARICIO
- 12- JOSE INES RODRIGUEZ MORGAN
- 13- CESA AUGUSTO VARGAS BERNAL
- 14- RAUL ERNESTO YUNSAN MARQUEZ

SEGUNDA GENERACION

- 1- CARLOS MANUEL FADUL
- 2- JULIO VARGAS
- 3- JOSE A. SERRANO
- 4- EVARISTO RAMOS
- 5- OMAR O. QUIROZ G.
- 6- EDILBERTO PINZON BONILLA
- 7- ANGEL PEREZ
- 8- DAMIAN MARTEZ MONTENEGRO
- 9- CRISTOBAL MARTINEZ MENDOZA
- 10- ALBIN ENRIQUE LEZCANO
- 11- FROILAN FIGUEROA
- 12- ELIAS FAMANIAS
- 13- ENRIQUE ANTONIO CORREA
- 14- JAVIER ACOSTA
- 15- MARCELINO ESCALANTE A.

TERCERA GENERACION

- 1- AVILA PLUTARCO ELIAS
- 2- CASTILLO KARIN KAYSER
- 3- DE LOS RIOS EDWIN
- 4- DE LOS RIOS ALCIBIADES
- 5- FLORES AURELIO
- 6- GONZALEZ ARTEMIO
- 7- GONZALEZ ERNESTO
- 8- HO LUIS
- 9- MONTENEGRO BALBINO
- 10- MORGAN ALEXANDER

- 11- MUÑOZ ELOY
- 12- PEÑA BLAS
- 13- RIOS ROGELIO
- 14- RIVERA ROBERTO
- 15- RODRIGUEZ ABDIEL
- 16- SAMANIEGO RUBIEL
- 17- SMITH VALENCIO
- 18- TORRERO AZAEL

CUARTA GENERACION

- 1- MOISES A. BATISTA
- 2- TOMAS DANIEL BERGUIDO CAMRGO
- 3- ANTOLIN CEDEÑO
- 4- DAMAIRA CUMBRERA
- 5- JORGE LUIS DE LEON CRUZ
- 6- ALCIBIADES ENDARA GONZALEZ
- 7- JESUS GAITAN
- 8- ELMER GUTIERREZ BUSTAMANTE
- 9- MIGUEL ANGEL HERNANDEZ
- 10- MAURO E. MARTINEZ
- 11- FERMIN MIRANDA C.
- 12- EYNAR MONTENEGRO
- 13- MARCOS J. SANCHEZ
- 14- MANUEL O. SOLANO SIMITI

REFRIGERACION Y AIRE ACONDICIONADO

PRIMERA GENERACION

- 1- MARIO SAMUELS BENNETT
- 2- AQUILES CASTROVERDE
- 3- CARLOS CHAVARRIA
- 4- TEODORO GONZALEZ
- 5- GUILLERMO GOODE
- 6- JOSE MANUEL GUERRA
- 7- ROLANDO HURTADO
- 8- ELIZARDO JAEN A.
- 9- ANGEL LEMO MENDOZA
- 10- ARMANDO J. PALACIOS G.
- 11- CARMEN ROXANA PAREDES
- 12- AUGUSTO REYES M.
- 13- AQUILINO RODRIGUEZ G.
- 14- ROGER I. VALDEZ R.

SEGUNDA GENERACION

- 1- CAÑATE FELIZ
- 2- CASTREJO INOCENTE
- 3- LOZANO JOSE
- 4- ESPINOSA LUIS
- 5- GONZALEZ CESAR
- 6- GUDIÑO ENRIQUE
- 7- HERRERA EFIGENIO
- 8- SAMANIEGO TEMISTOCLES
- 9- SANTAMARIA ANGEL
- 10- EDWARDS VINCE
- 11- NARVAEZ JOSE
- 12- VILORIA NICOLAS

TERCERA GENERACION

- 1- HIDALGO SEBASTIAN
- 2- PEDRO H. DE GRACIA
- 3- CARLOS G. RICHARD T.
- 4- XIOMARA HARROW
- 5- GABRIEL GOMEZ
- 6- RENATO PINEDA
- 7- IVAN A. VALDERRAMA R.
- 8- JOSE ANTONIO CAMARENA
- 9- CESARIA, GONZALEZ
- 10- JOSE MANUEL VELIZ
- 11- JOSE F. SANCHEZ J.
- 12- CARLOS NODHIER QUINONES

MECANICA AUTOMOTRIZ
PRIMERA GENERACION

- 1- SCOTT ARIEL
- 2- RODRIGUEZ RUBEN D.
- 3- PANG ALEX
- 4- MC. CLEAN JUAN
- 5- MARTINEZ LUIS CARLOS
- 6- JORDAN FLORENTINO
- 7- HERNANDEZ OSCAR
- 8- GOMEZ GABRIEL
- 9- GONZALEZ ROLANDO
- 10- ESPINO JAVIER
- 11- COUSINS REINALDO
- 12- CORNEJO GRISELDA
- 13- CEDEÑO LARRY
- 14- BARRERA DANIEL

CHAPISTERIA Y PINTURA
PRIMERA GENERACION

- 1- SANDIFORD RENE
- 2- MELENDEZ JORGE
- 3- CLARENCE OMAR
- 4- ANDERSON LUNA SAMUEL
- 5- AIZPRUA MEDICA LUIS CARLOS
- 6- BUTCHER MARTIN ALBERTO
- 7- AGUILAR CASTILLO LUIS ALBERTO
- 8- AMARIS R. JOSE IGNACIO
- 9- ESCOBAR JAVIER
- 10- HENRIQUEZ ANGEL S.
- 11- CAÑATE ESTEBAN

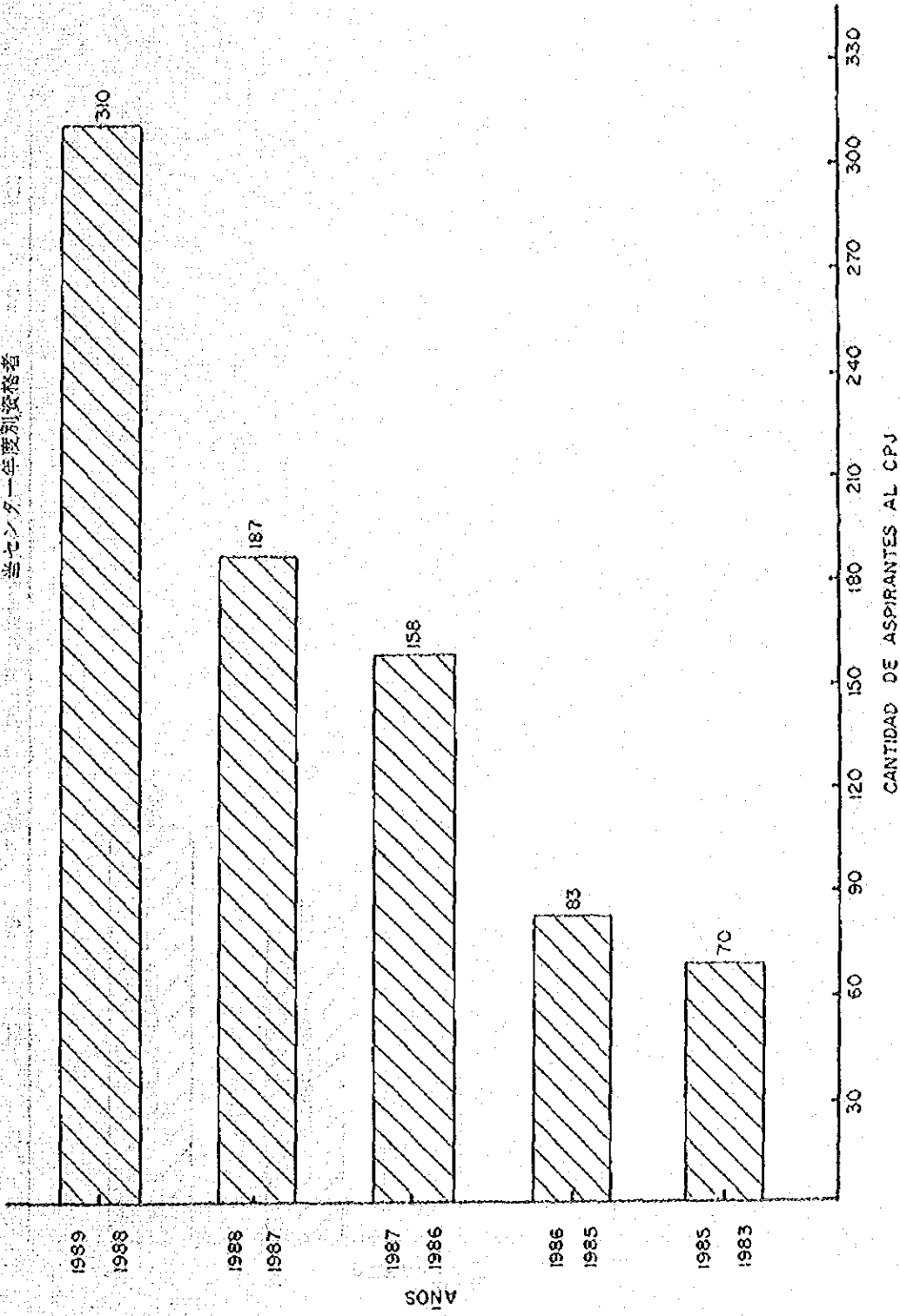
SOLDADURA ESPECIALIZADA
PRIMERA GENERACION

- 1- BETHANCOURT LUIS A.
- 2- BONICHE GRISELDO
- 3- ESPINOSA ISMAEL
- 4- GONZALEZ UBALDO
- 5- IGLESIAS JOSE
- 6- MUÑOZ MARCELINO
- 7- NUÑEZ VICTOR
- 8- PETRO ELVIS
- 9- ROMERO FERNANDO
- 10- SANCHEZ HECTOR
- 11- SOJO JHONY
- 12- VARGAS MARCOS

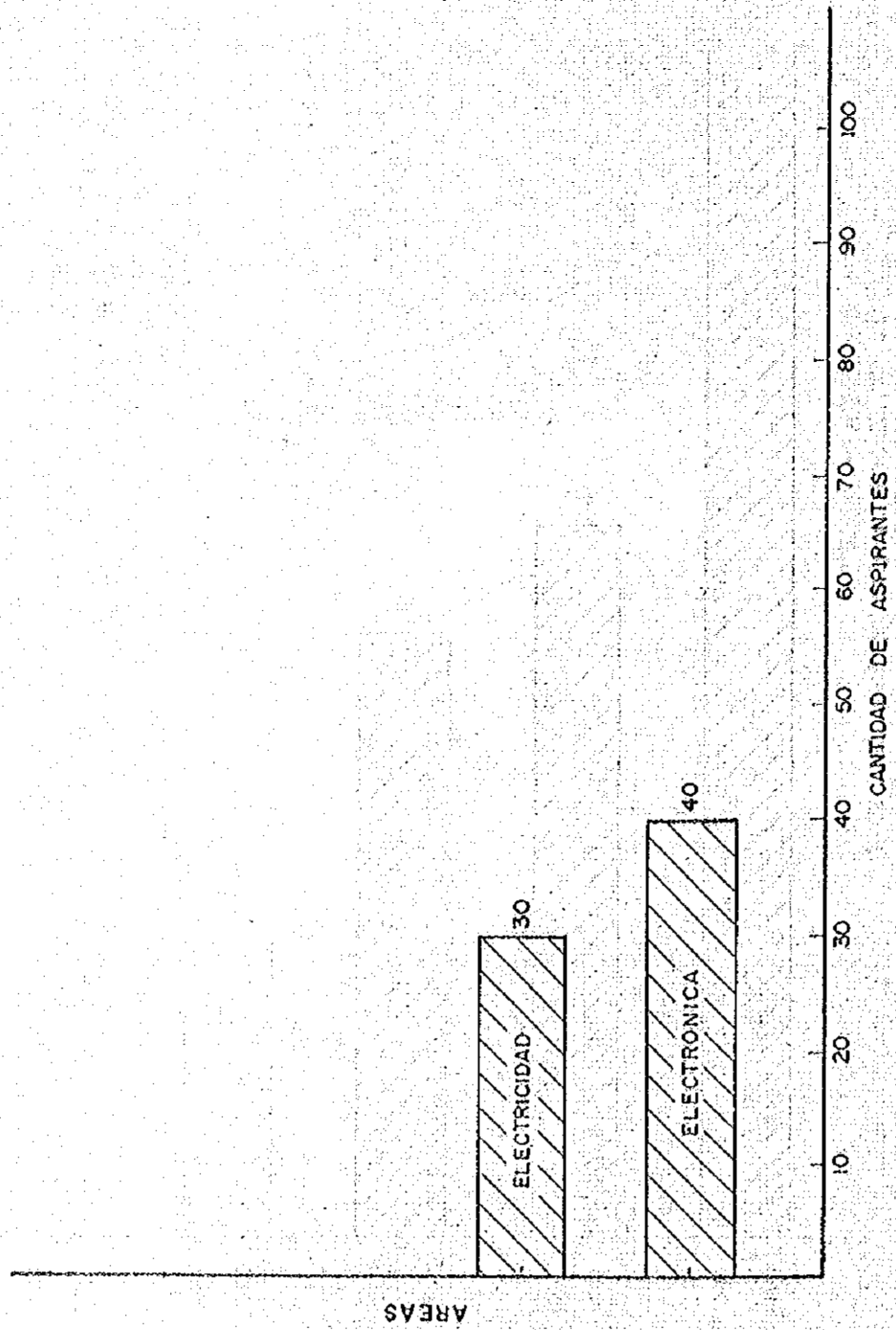
SEGUNDA GENERACION

- 1- APARICIO LUIS
- 2- CENTENO ORIEL
- 3- DEVILLE JAIME
- 4- ECHEVERRIA ERICK
- 5- GOMEZ SAMUEL
- 6- GOMEZ JUAN DE DIOS
- 7- MASTROLINARDO ITALO
- 8- MOLINO DAVID
- 9- ORTIZ ORTEGA ANSELMO
- 10- SALGADO LUIS
- 11- SANTOS SAMUEL
- 12- VALDERRAMA UBALDO

AÑOS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES AL CPJ
 当ヒンター一年度別資格者

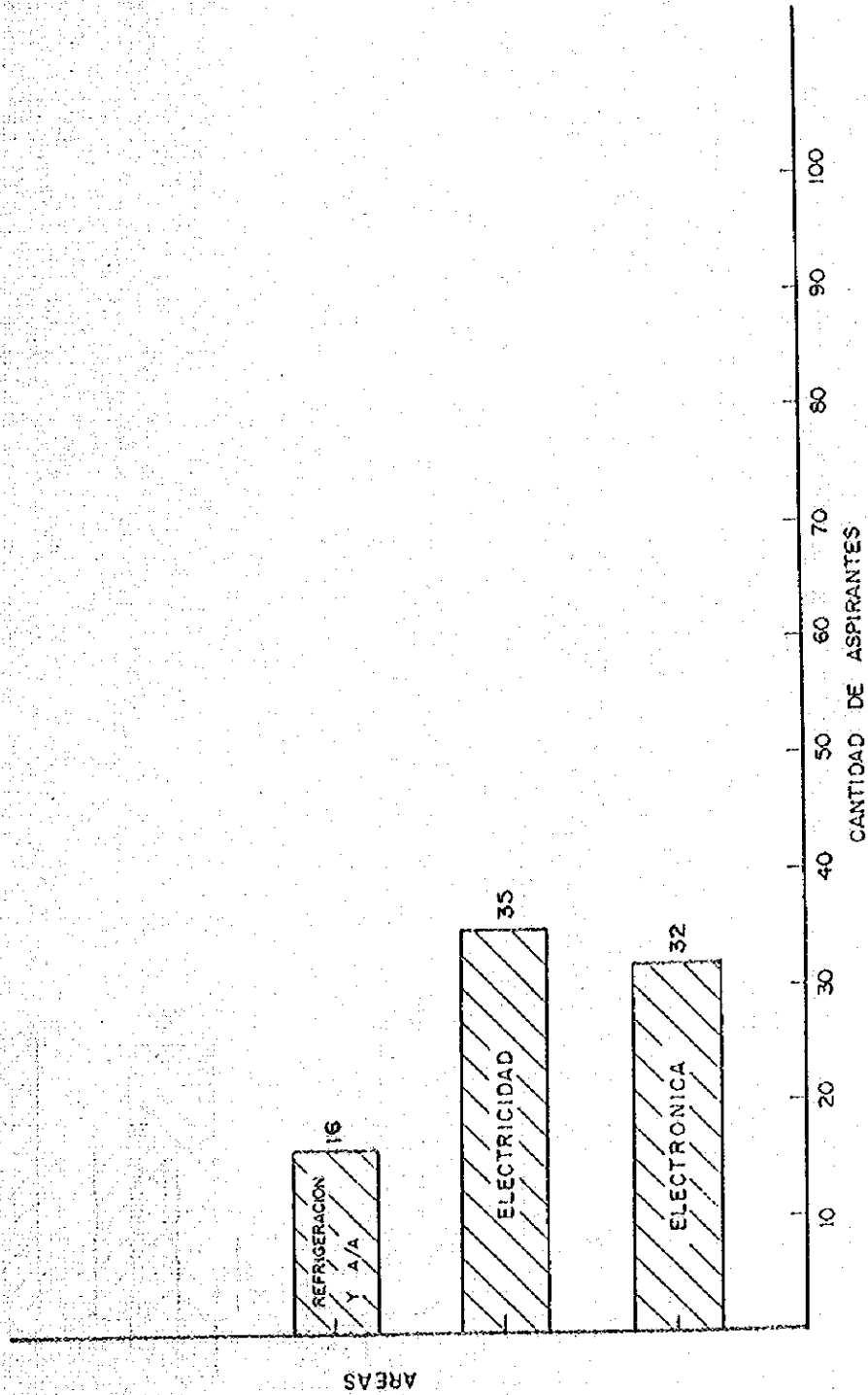


1983 - 1985
AREAS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES

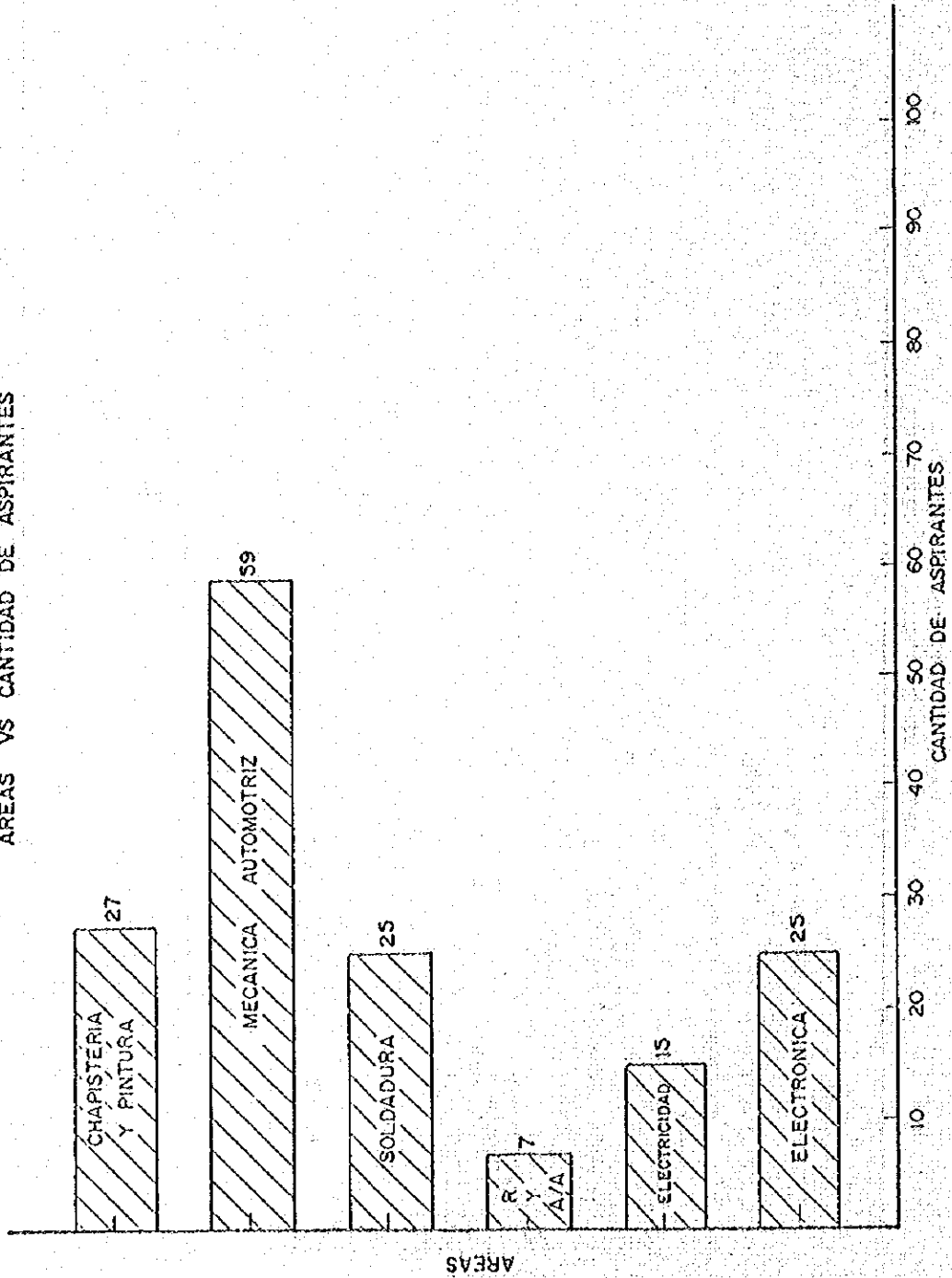


1985-1986

AREAS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES

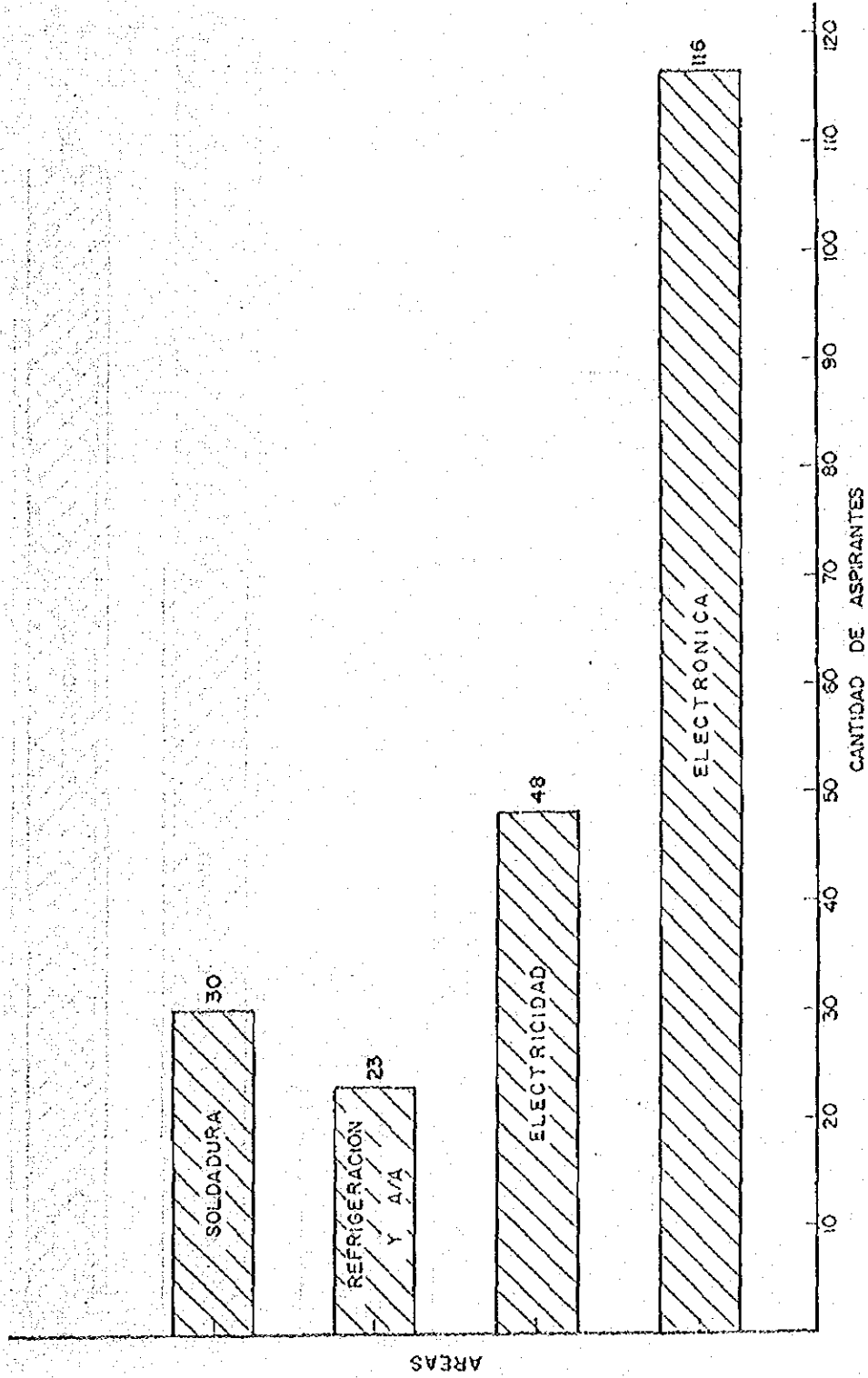


1986 - 1987
AREAS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES

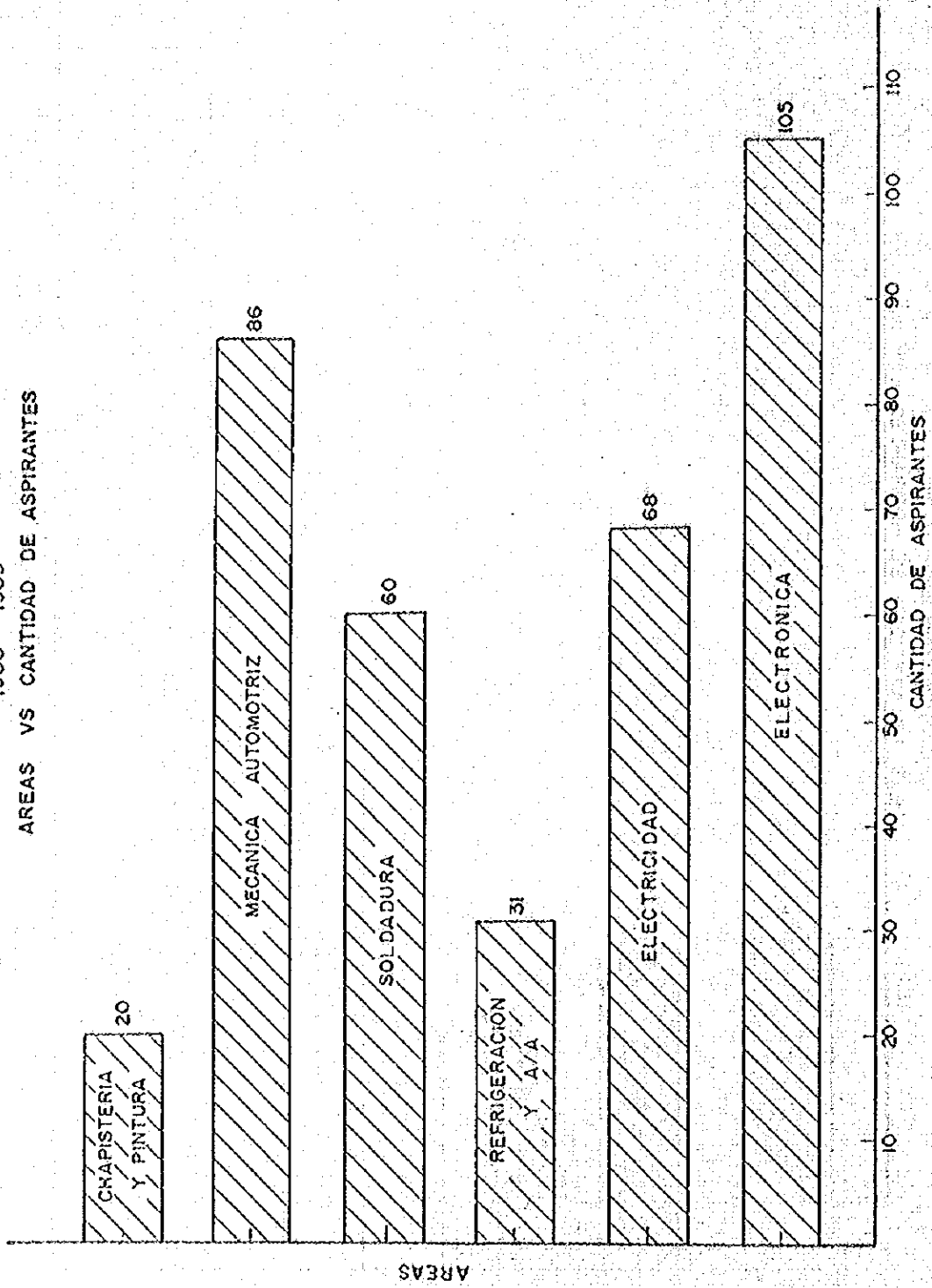


1987 - 1988

AREAS VS. CANTIDAD DE ASPIRANTES

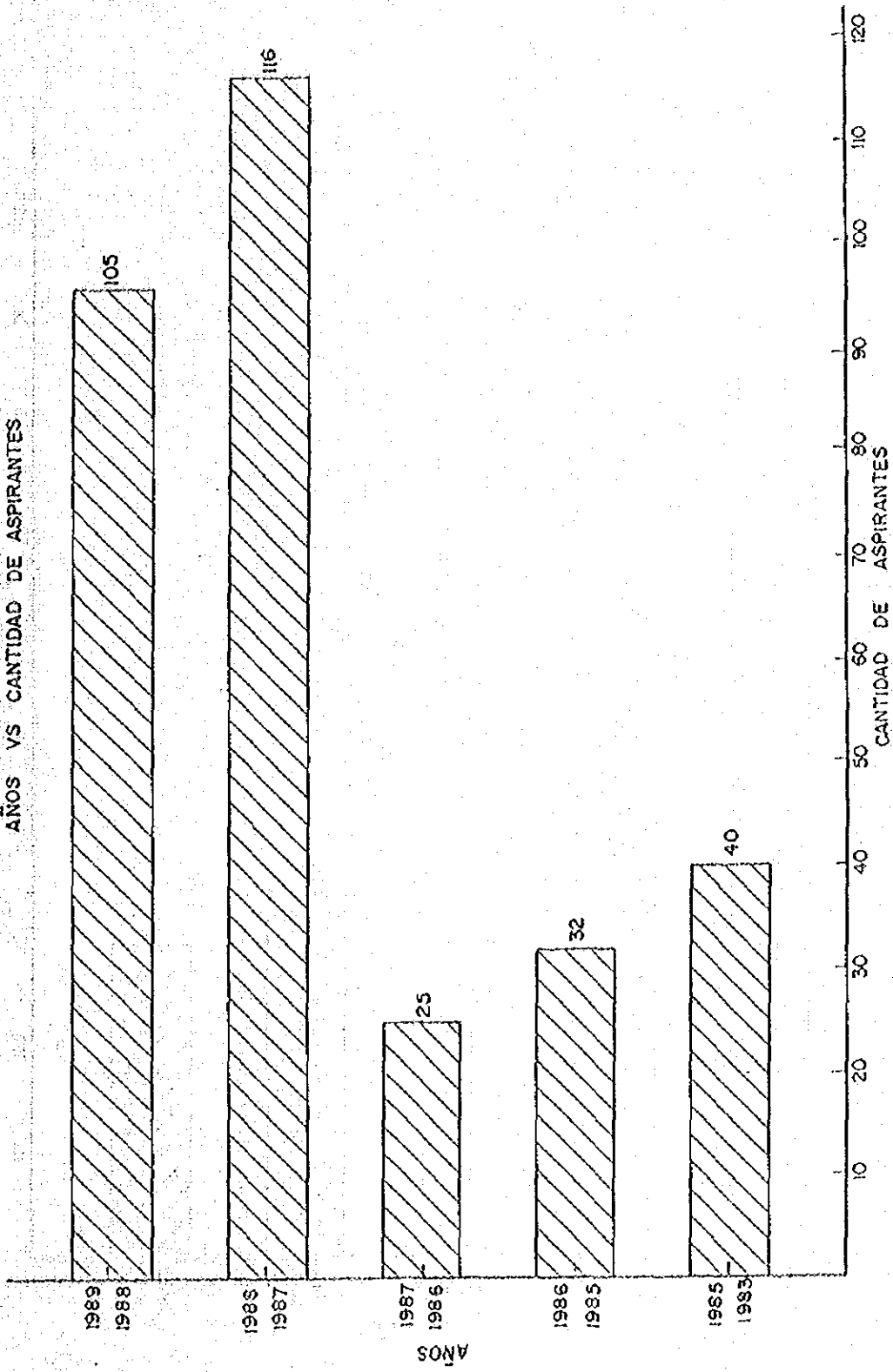


1988 - 1989
AREAS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES

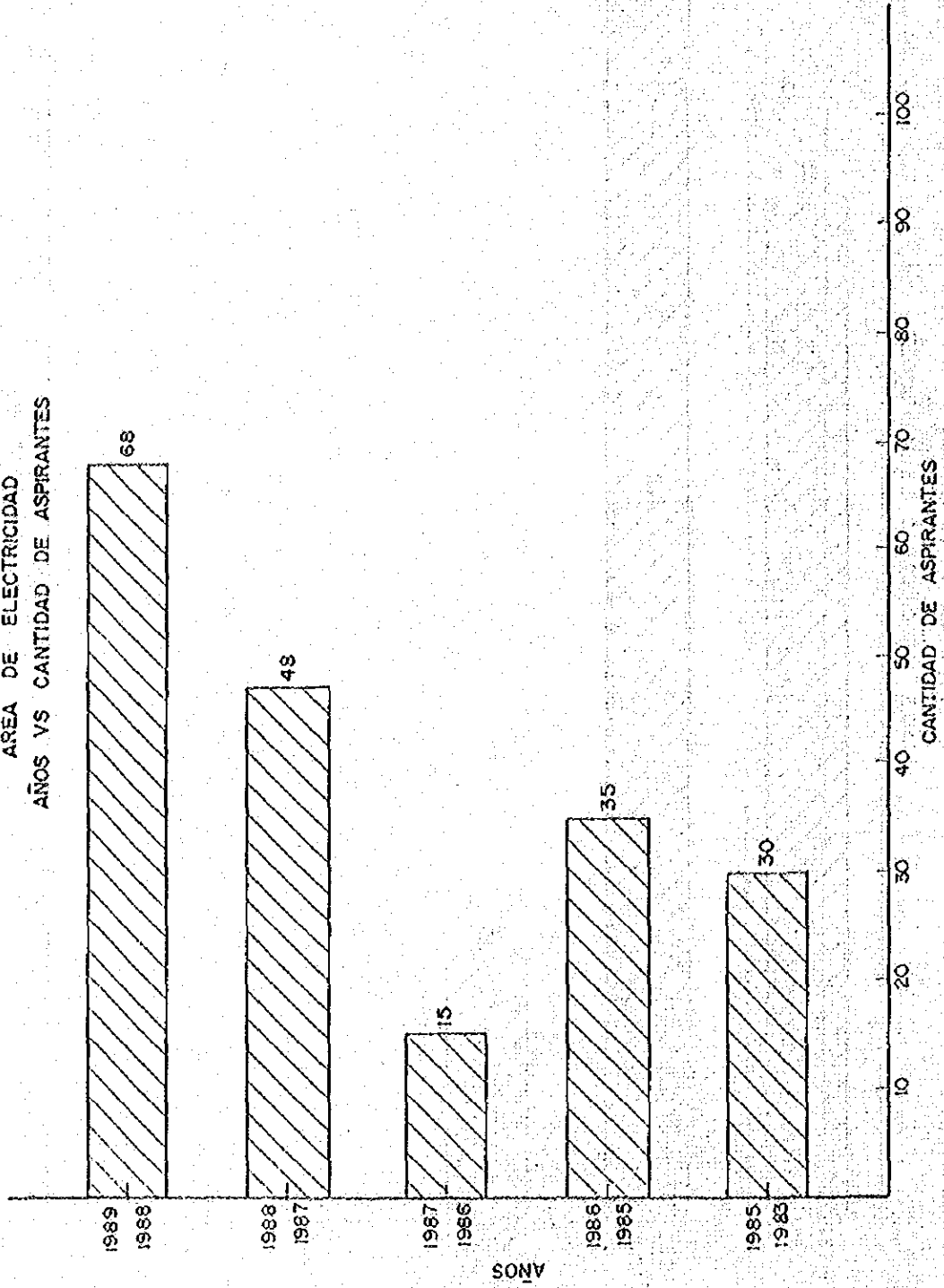


AREAS

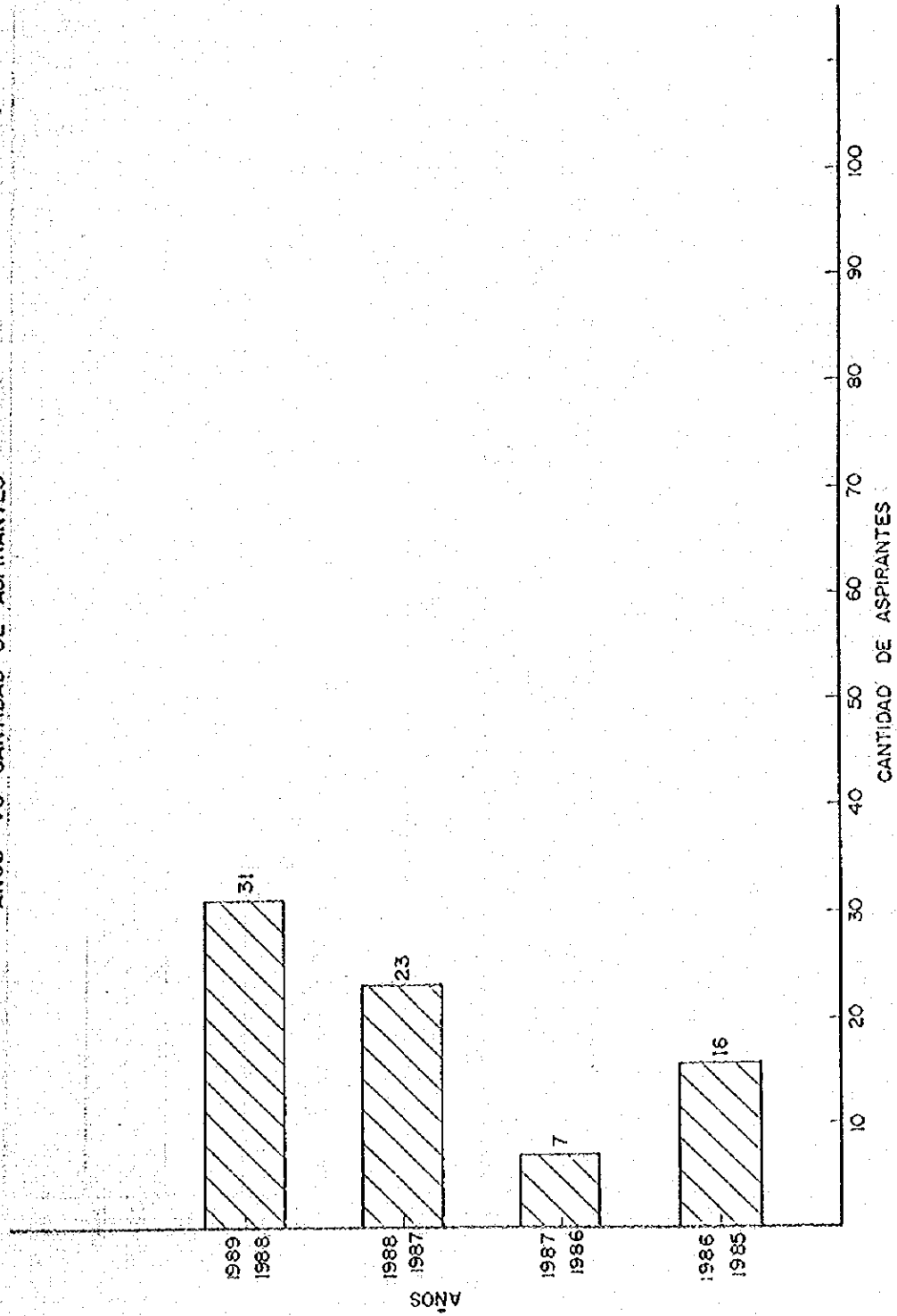
AREA DE ELECTRONICA
AÑOS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES



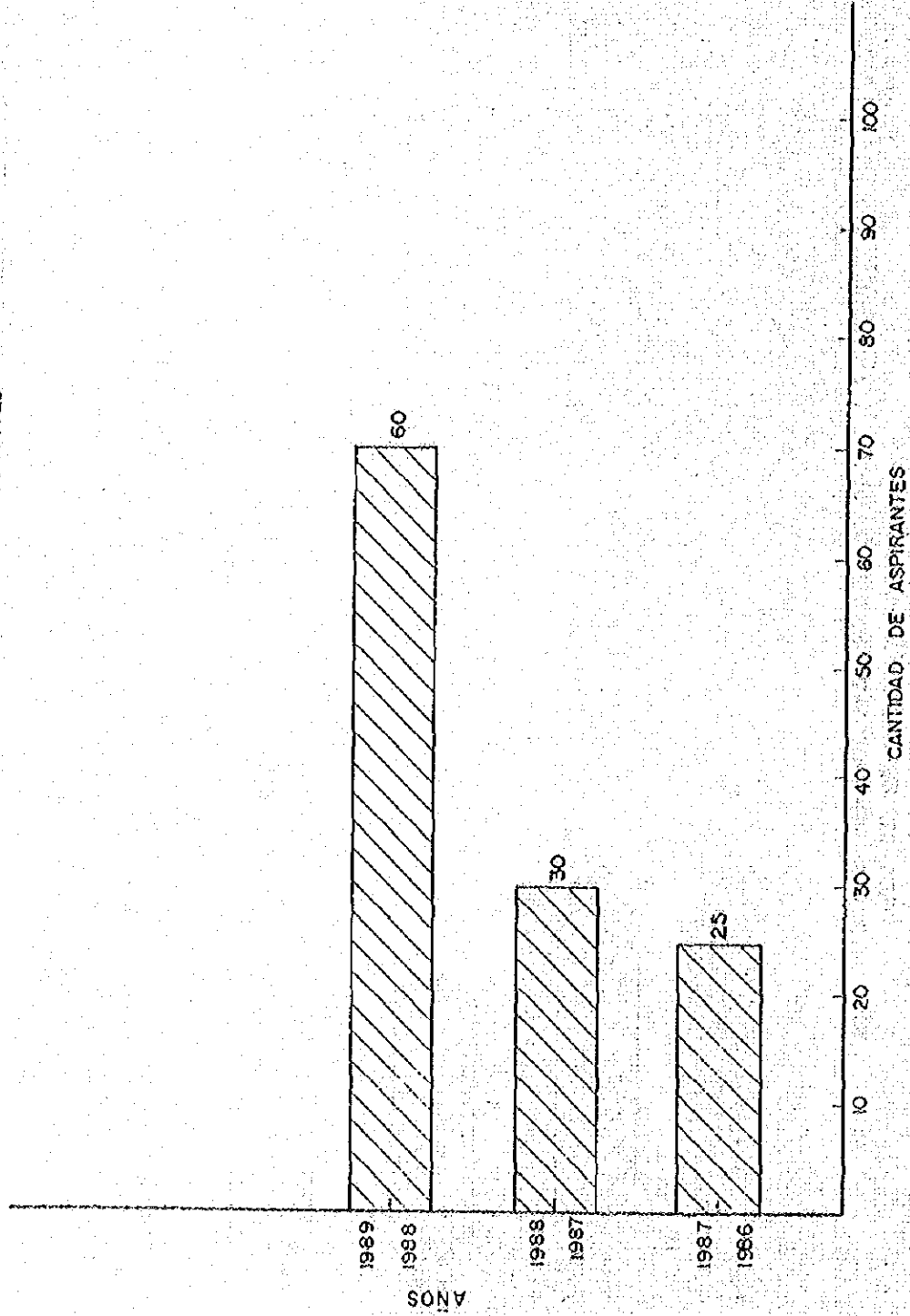
AREA DE ELECTRICIDAD
AÑOS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES



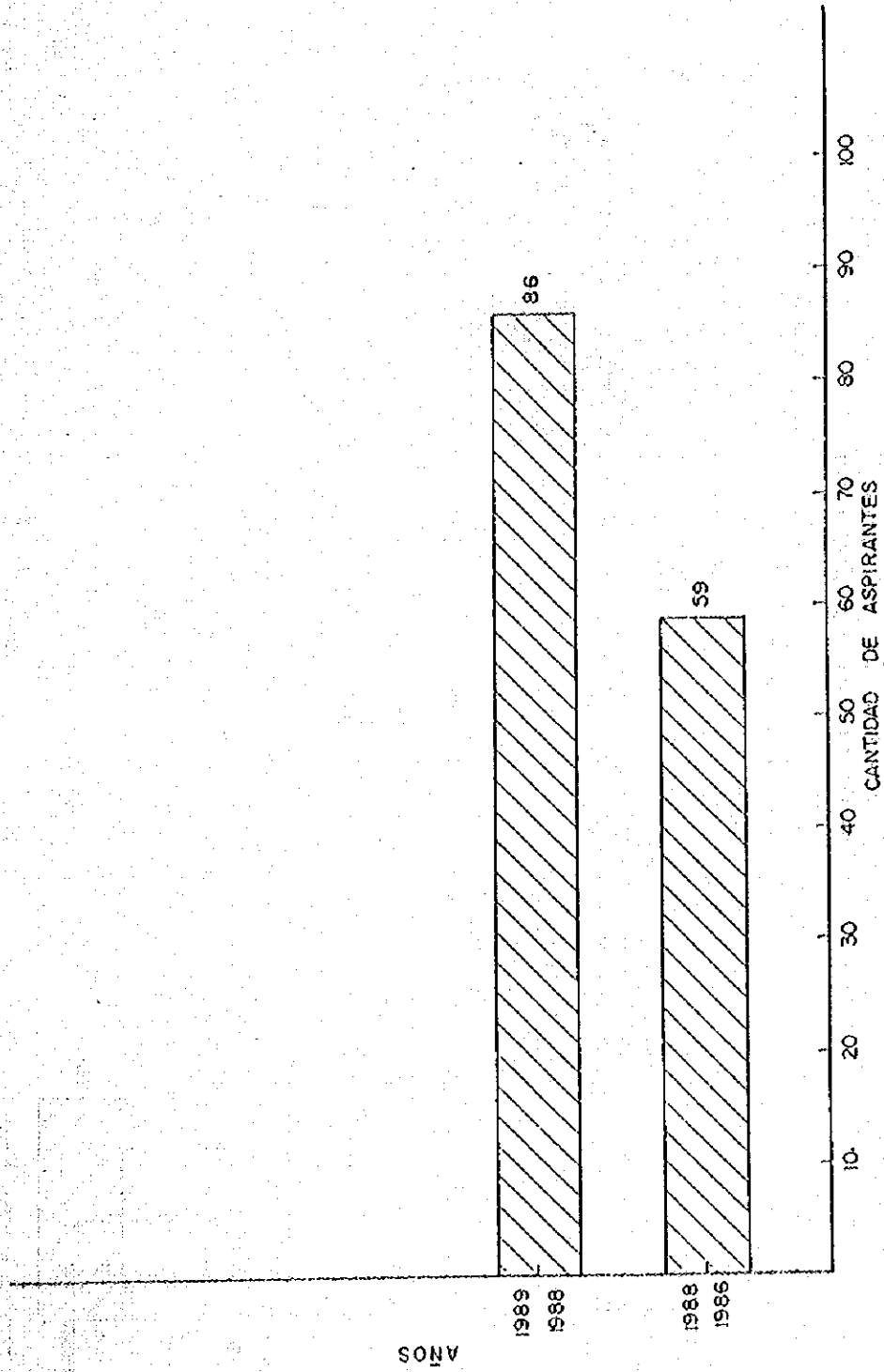
AREA DE REFRIGERACION Y A/A
 AÑOS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES



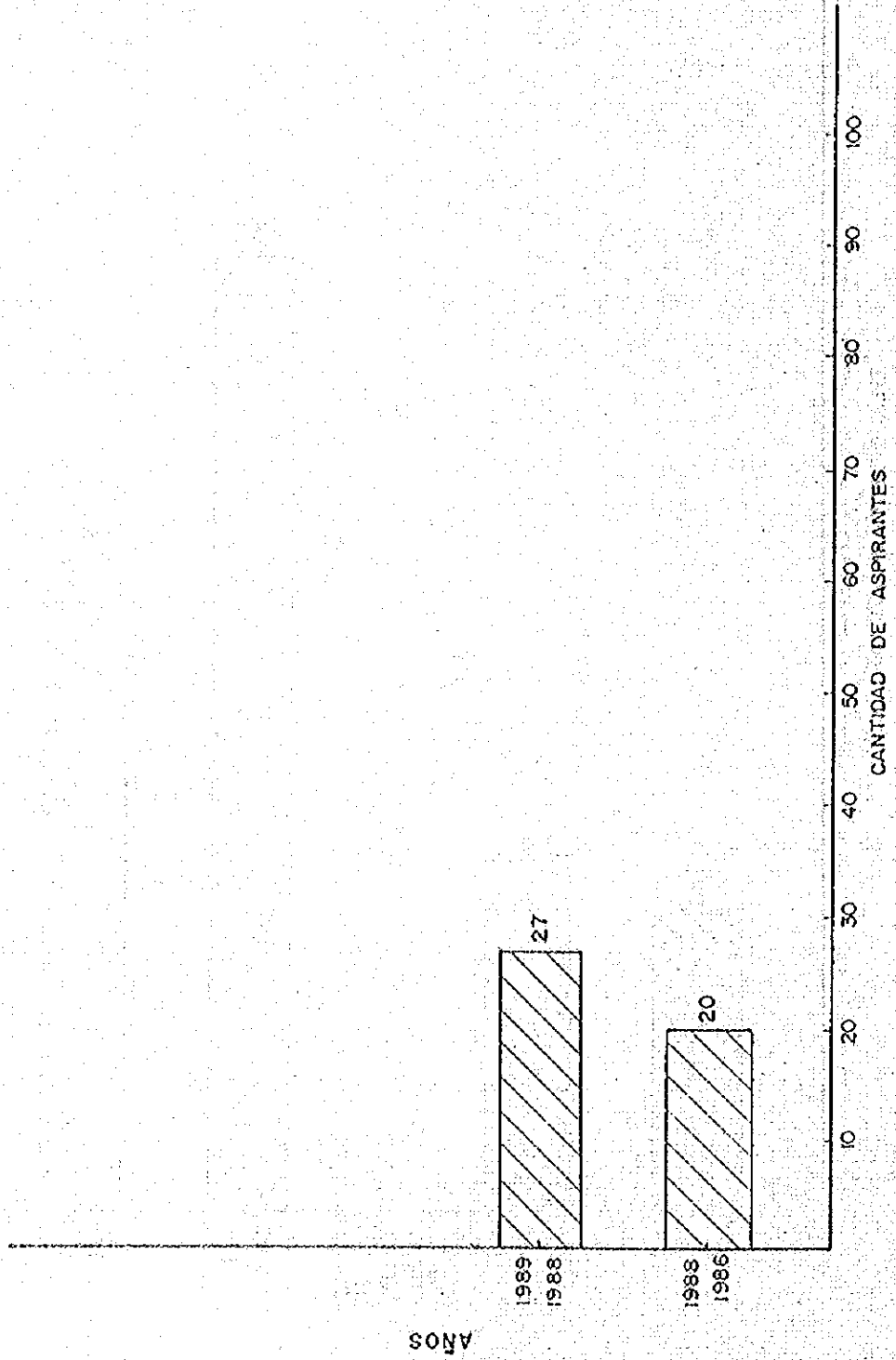
AREA DE SOLDADURA
AÑOS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES



AREA DE MECANICA AUTOMOTRIZ
AÑOS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES

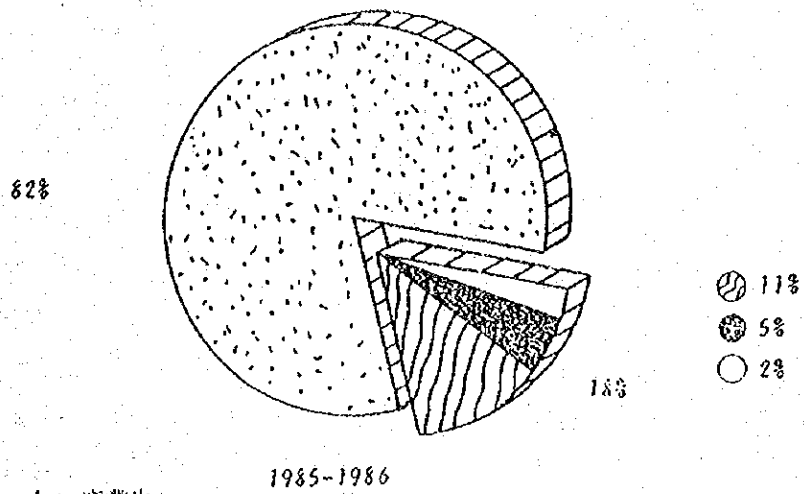
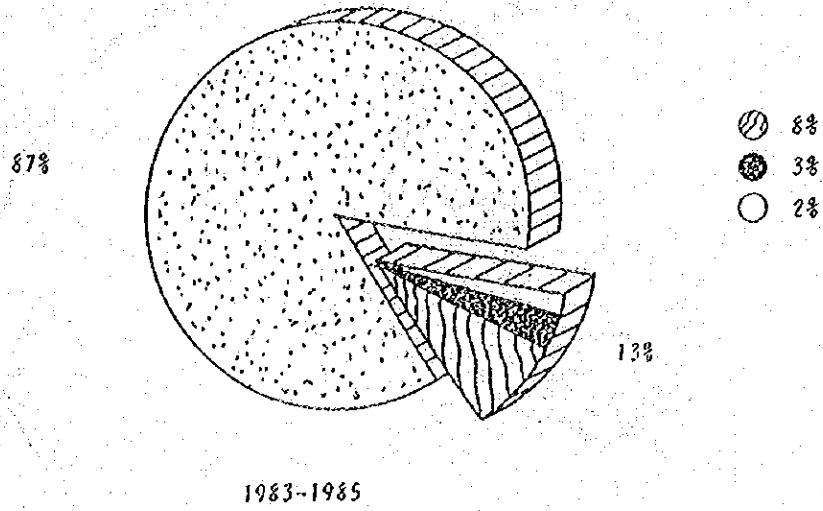



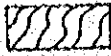


AREA DE CHAPISTERIA Y PINTURA
AÑOS VS CANTIDAD DE ASPIRANTES



PORCENTAJE DE INICIADOS Y EGRESADOS DE PARTICIPANTES DEL
CENTRO PANAMEÑO JAPONES

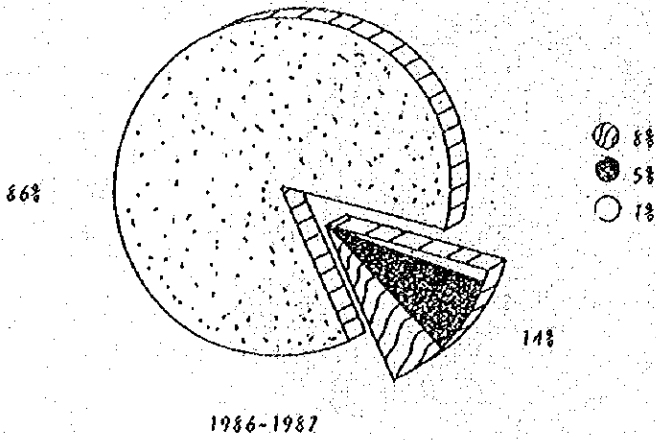
日本・パナマセンター入学・卒業生率



-  Egresados 卒業生
-  Bajo Rendimiento 不到達レベル者
-  Problemas Económicos 経済困難
-  Varios その他

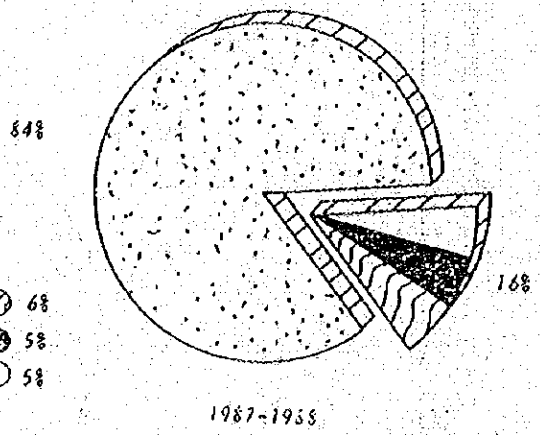
PORCENTAJE DE INICIADOS Y EGRESADOS DE PARTICIPANTES DEL
CENTRO PANAMEÑO JAPONES

- 2 -



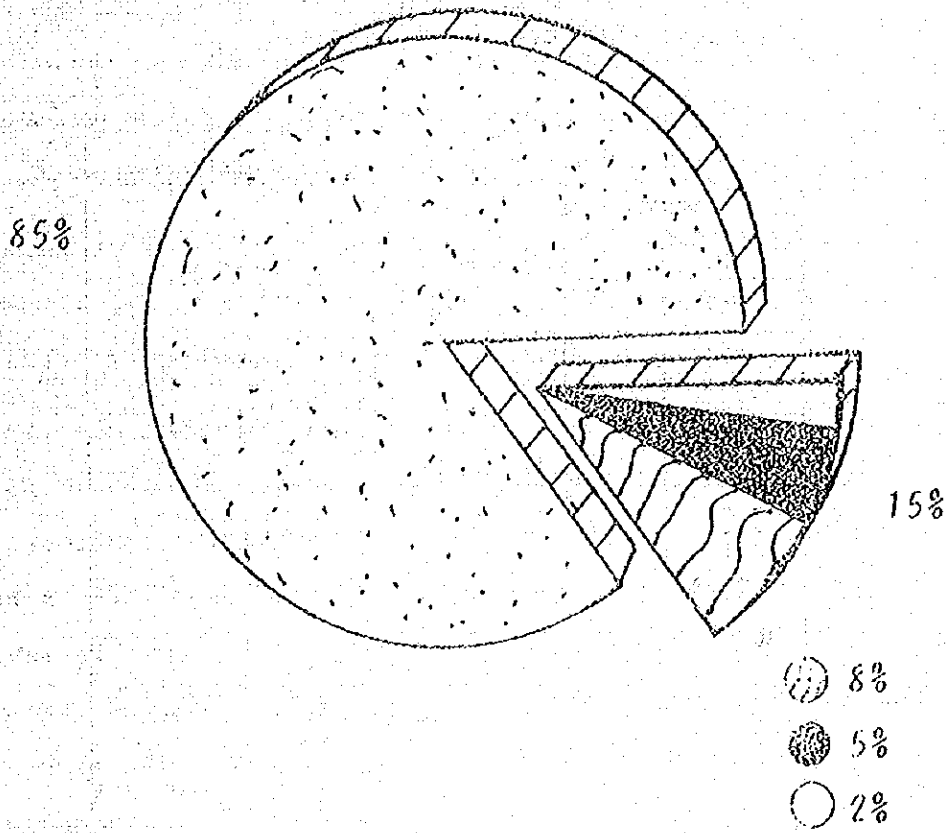
- 8%
- 5%
- 1%




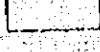
- Egresados
- Bajo Rendimiento
- Problemas Económicos
- Varios



- 6%
- 5%
- 5%

GRAN TOTAL



-  Egresados
-  Bajo Rendimiento
-  Problemas Económicos
-  Otros

INVERSIONES: MAQUINARIA Y EQUIPOS

El cuadro siguiente refleja el comportamiento del suministro y su valor, de la maquinaria y equipo entregado por especialidades de acuerdo a los términos del convenio.

日本側投資機材, 種類

INVERSION JAPONESA EN EQUIPOS, PARTES Y ESPECIES			
1- DONACION DE EQUIPOS 供与機材			
AÑO		ASIGNACION EN YENES	OBSERVACION
1982		60,000,000	
1983		110,000,000	Refrigeración A/A
1984		65,000,000	Land Crusier, Coaster, Filmación y Edic., Ref. A/A
1985		173,000,000	
1986		95,000,000	Mecánica Automotriz
1987		57,000,000	
1988	(1)	560,000,000	
			Por: BARCO
2- DONACION DE EQUIPOS SOLICITADOS POR EXPERTOS			
1983		3,125,000	Por: AVION
1984		2,213,000	
1985		9,626,000	
1986		749,000	
1987		500,000	
1988		4,500,000	Mecánica Automotriz, Chapisteria y Soldad.
	(2)	20,713,000	
	(1) + (2)	580,713,000	
TOTAL Y		Y 580,713,000	

De acuerdo al comportamiento de las asignaciones de maquinarias y equipo entregados por cada especialidad, se ha podido comprobar que el número y especificaciones de las mismas han estado acorde con los requerimientos técnicos para la formación de egresados que mediante los diversos modos de formación logran incorporarse a los diversos puestos de trabajos según su especialidad de la mejor forma posible.

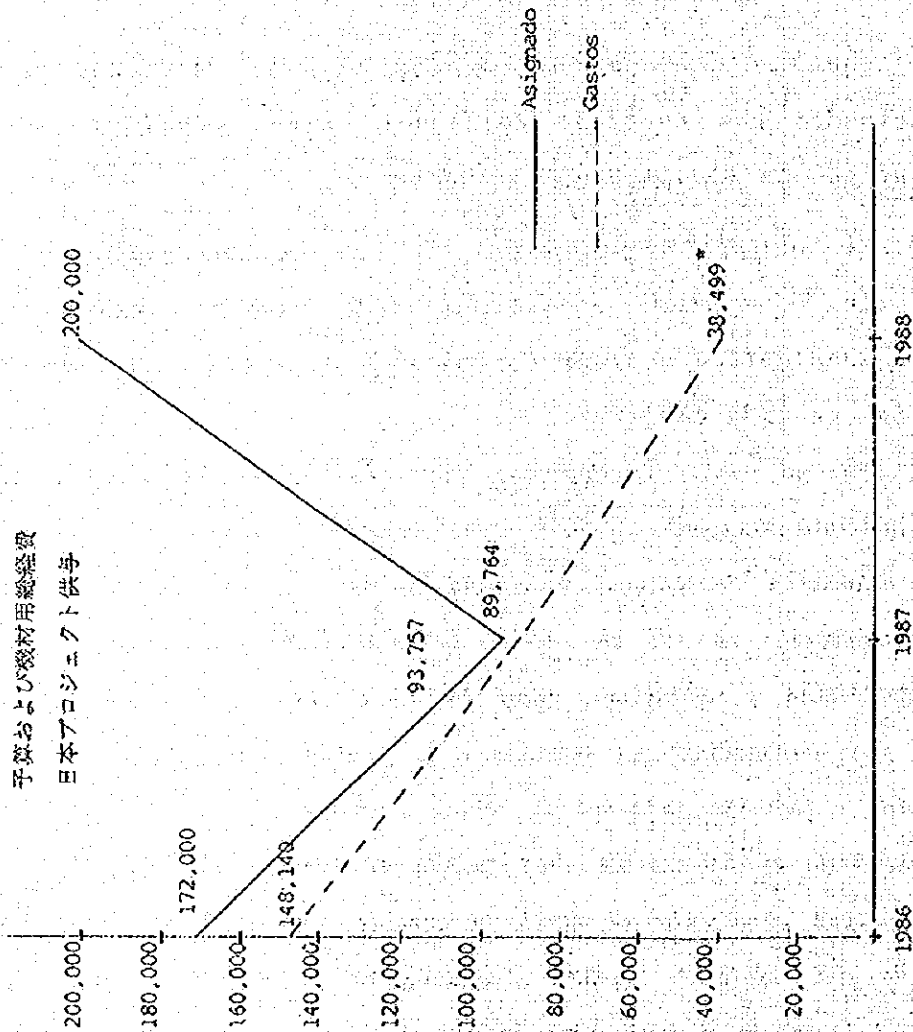
Según la demanda observada y el buen desempeño de labores efectuadas por nuestros egresados, hemos podido evidenciar lo enunciado en el párrafo precedente.

El suministro y empleo de las herramientas y materiales también han estado acorde con las características del equipo y su adaptabilidad según los módulos de instrucción que se desarrollan en cada especialidad.

Por su parte, el Gobierno Nacional hizo su asignación presupuestaria al Instituto Nacional de Formación Profesional a su vez lo hizo al Centro de Formación Profesional Panameño-Japonés. La gráfica que se muestra a continuación nos da una visión del presupuesto asignado y total gastado en materiales y suministros entre los años 1986 hasta 1988. Podemos notar que las asignaciones en relación a lo gastado han estado en discrepancia, debido a factores exógenos al Centro e incluso el INAFORP, esto se acentúa sobre todo en el año de 1988 cuando el MIPPE nos asignó la cantidad de B/.200,000 pero solo se gastó la cantidad de B/18,499 pero gracias a la ayuda del Gobierno Japonés a través de J.I.C.A. se hizo una donación de B/.20,000 para materiales de cursos distribuidos en las diferentes áreas tecnológicas del proyecto Panameño-Japonés lo cual garantizó la culminación exitosa de las acciones formativas del proyecto. A continuación mostramos dicha gráfica.

PRESUPUESTO ASIGNADO Y TOTAL GASTADO EN MATERIALES
Y SUMINISTRO DEL PROYECTO JAPONES

AÑOS 1986 - 1988



* NOTA: El Presupuesto realmente gastado por el C.P.J., fue de B/18,499, pero la cifra graficada de B/38,499 se debe a la donación de B/20,000 del Gobierno Japonés.

ASISTENCIA TÉCNICA JAPONESA-CONTRAPARTE:

La Asistencia Técnica Japonesa al Personal se llevó a cabo de la manera establecida bajo fuertes lazos de amistad y cooperación. La tabla abajo mostrada nos dá una imagen de la signación de expertos según especialidad.

ESPECIALIDAD 専門分野	NOMBRE 名前	TIEMPO	
		ENTRADA	SALIDA
		到着日	帰国
Jefe de Misión	Shigeo Ichikura	11/1/83	8/87
	Tsugio Shono	11/8/87	26/8/89
Coordinador Admto.	Makoto Otzuka	9/10/83	3/88
Electrónica Básica	Kohei Miyoshi**	27/3/83	8/87
Electrónica Avanzada	Tomio Ushimaru	30/6/84	3/87
Electricidad Industrial	Kazunari Ikeda	29/7/83	8/87
Refrigeración y A/A	Yoshinori Suzuki	31/8/84	8/87
	Tatsuo Yamaguishi	30/1/89	28/3/89
Automecánica	Ikuo Onitzuka	5/4/85	26/8/89
Chapistería y Pintura	Yasuhiko Kodera	28/10/85	26/8/89
	Masao Takihara*	4/87	7/87
	Kubota Junji*	7/87	9/87
	Yutaka Abe*	30/1/89	28/3/89
Medios Audio Visuales	Setsuo Yasue*	1/8/86	29/8/86
Cerámica	Nobuyuki Abe***	20/5/89	20/5/91

NOTA:

- * Estos expertos han estado en misión de corta duración.
- ** Llegó a ser Jefe de Misión entre el periodo de salida de Shigeo Ichikura, y la llegada del señor Tsugio Shono.
- *** Este experto ha sido asignado al Centro Regional de SENAPI en Chitré,

La asistencia técnica de expertos japoneses, así como su incorporación a las tareas del proyecto estuvieron ejecutadas y llevadas a cabalidad de acuerdo al avance del proyecto.

De igual manera se han hecho solicitudes de expertos de corta duración en áreas como Refrigeración y Aire Acondicionado y Chapistería y Pintura que arribaron al país a finales del mes de enero de 1989.

También algunos contrapartes panameños, fueron aceptados para recibir adiestramiento en Japón durante los años fiscales Japoneses de 1987, 1988, y 1989.

Tanto el equipo de adiestramiento, así como sus partes de respuestos necesarios en las áreas de Chapistería y Pintura, Soldadura Especializada y Mecánica Automotriz fueron recibidos a principios del año 1989.

Por su parte, el Gobierno Nacional asignó al proyecto específicamente en el área de Chapistería y Pintura la cantidad mínima de recursos humanos (3), necesarios para poder cumplir con las disposiciones establecidas, al igual que brindó el apoyo presupuestario necesario para abarcar los rubros de materiales y salarios, así como el mantenimiento en buenas condiciones del equipo donado.

ADIESTRAMIENTO A PERSONAL PANAMEÑO EN JAPON:

El adiestramiento recibido por el personal panameño asignado a las actividades del convenio, específicamente para tareas de formación y cuyo perfeccionamiento fue recibido en Japón, estuvo de acuerdo con lo establecido.

El Gobierno del Japón tomó las medidas necesarias a través de "JICA" para recibir a su propia costa al personal panameño relacionado con el Proyecto, para adiestramiento técnico en Japón, mediante los procedimientos usuales bajo el Programa de Cooperación Técnica del Gobierno del Japón. Por su parte, a su vez, el Gobierno de la República de Panamá tomó las medidas necesarias para asegurar que los conocimientos y las experiencias que adquirió el personal panameño mediante el adiestramiento técnico en el Japón fuesen utilizados exclusivamente y en forma efectiva para la ejecución del proyecto.

Un reflejo de la aceptación de los egresados por parte de la empresa privada, es su desenvolvimiento en el puesto de trabajo que ha demostrado que en efecto, el adiestramiento recibido por el personal panameño en cada especialidad ha llenado a cabalidad los requerimientos y condiciones para un desempeño positivo en todas las tareas de instrucción a los usuarios de la formación profesional.

Se anota lo relativo a las consideraciones futuras en cuanto a la necesidad de mantener un programa de actualización técnico-docente para los respectivos instructores.

GASTOS DE UN BECARIO EN JAPON (9 meses)
日本での研修経費

- 1.- Gastos de vuelo: \$3,000 Dls.
Se paga el tiquete de vuelo del Aeropuerto Internacional de nuestra capital, al Aeropuerto Internacional del Japon en ruta directa. (En caso de que la persona desee cambiar su ruta la diferencia deberá ser pagada a su propia cuenta).
- 2.- Gastos de Estancia (¥4,400x31d.x9m.) \$9,829 Dls.
El gusto de estadia se pagará en Yenes al igual que todos los otros rubros. En caso de T.I.C. se pagará ¥ como costo de vida y si su hospedaje es en un hotel, se pagará el costo del hotel más ¥ 4,400 de costo de vida.
- 3.- Costo de Hotel (¥5,500x31d.x6m.) \$8,184 Dls.
Con un máximo de ¥ 5,500 por día
- 4.- Gastos varios (Preparación, libros, cartas) 800 Dls.
a) Gastos de Preparación (¥40,000) Este pago no se aumenta ni se reduce si se prolonga o acorta el periodo de estudio y se paga al llegar al japon.
b) Gastos para comprar libros (¥17,000) Igual que el inicio (a)
c) Gastos por enviar datos, doc., cartas etc.: nuestro caso Centro América (¥25,000)
- 5.- Gastos del Centro de Entrenamiento: \$7,200 Dls.
Puede cambiar un poco dependiendo del centro de estudios; si es gubernamental o privado.

Gastos de viaje de estudio (¥150,000x6m)

\$1,200 Dls.

En caso de hospedaje en la ciudad de Kyoto tendrá un recargo de ¥11,400/día

a) El estudiante pagará los gastos de comida, hospedaje, otros.

b) Se paga en otra cuenta el costo del SHINKANSEN.

7.- Gastos de movilidad del Aeropuerto de Narita a la Capital: Se paga el costo el omnibus limunisa del Narita al Tokyo City Air Terminal (HAKOZAKI), pero JICA entrega el tiquete a los estudiantes.

8.- Gastos médicos y medicamentos:

En caso de tener enfermedad o herirse durante el estudio, el costo del tratamiento y medicamentos necesarios, JICA, asume todos los costos según las normas o reglas establecidas en el convenio.

GRAN TOTAL APROXIMADO:

¥ 3,776,000

U.S.\$ 30,204

EXTENSION DEL PROYECTO:

LA Misión Evaluadora Japonesa

Como una consecuencia de la visita de la Misión Evaluadora Japonesa, organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (J.I.C.A.) y presidida por el Señor Koichi Igarashi entre el 17 y el 27 de noviembre de 1986, y por la contraparte nacional el Profesor Enrique Riley Puga Director Nacional del Instituto Nacional de Formación Profesional, evaluaron los logros de la Cooperación Técnica del Centro de Formación Profesional Panameño-Japonés y como resultado de ésta, la Misión Japonesa observó que la transferencia de tecnología al personal de la contraparte panameña tuvo buen progreso en las áreas de Electricidad Industrial, Electrónica, Refrigeración y Aire Acondicionado, y que la Cooperación Técnica alcanzó los objetivos anticipados al expirar el periodo de cooperación, según el Acta de Discusión firmada el 26 de agosto de 1987.

Por otra parte, se observó una demora en la transferencia de tecnología al personal de la contraparte panameña en el área de Soldadura Especializada, Mecánica Automotriz, Chapistería y Pintura debido a dificultades inesperadas como la construcción de los talleres.

特殊溶接 自動車整備 板金塗装
実習場の建設のような突然困難さによる

Como consecuencia, se ha llevado a cabo un seguimiento continuo de las áreas arriba mencionadas y además una prolongación del periodo de Cooperación Técnica de la siguiente manera:

Soldadura Especializada hasta 2 de abril 1989.
特殊溶接 1989年4月2日まで
Mecánica Automotriz hasta 25 de agosto 1989.
自動車整備 1989年8月25日まで
Chapistería y Pintura hasta 25 de agosto 1989.
板金塗装 1989年8月25日まで

PERIODO DE COOPERACION

Según lo observado y su función de todas las actividades de coordinación entre ambos gobiernos el convenio se ha desarrollado según lo programado lo cual ha estado demostrado a través del programa de su objetivo con lo cual se le dió inicio a todas aquellas actividades y tareas vinculadas con su prueba en ejecución, desarrollo y seguimiento del curso.

CONCLUSION

Conforme a lo establecido en el Acta de Discusiones firmado el día 26 de agosto de 1982, entre el equipo japonés de estudio sobre ejecución y las autoridades concernientes del Gobierno de la República de Panamá podemos afirmar que los objetivos y lineamientos establecidos en dicho documento han sido desarrollados y ejecutados de acuerdo a lo convenido asegurando con ello el éxito del Proyecto Panameño-Japonés.

Una prueba palpable del éxito del proyecto es la aceptación en el mercado de trabajo de los egresados del Centro por parte de la empresa privada.

Uno de los problemas críticos que agobia a nuestro país es el alto grado de desocupación en parte por la falta de capacitación adecuada, necesaria para ocupar puestos de trabajo. La alta capacitación técnica que está ofreciendo el Centro Panameño-Japonés está ayudando a solucionar de una manera rápida y efectiva con miras a solucionar el problema del desempleo por falta de mano de obra calificada, brindando profesionales capaces de dar respuesta al país en forma objetiva incluyendo el área del Canal de Panamá.

ELECTRONICA AVANZADA
PRIMERA GENERACION

- 1- ARTHUR ALONSO
- 2- FRANK ANTONIO BAKER C. Centro Plaza
- 3- RAMON CORRALES BARRIA
- 4- EDUARDO ANTONIO DE LA LASTRA M. Comisión del Canal
- 5- RONALDO ENRIQUE GONZALEZ UREÑA
- 6- EUCLIDES GONZALEZ GONZALEZ
- 7- BALBINO OMAR HERNANDEZ
- 8- JULIO A. HERRERA R.
- 9- JUAN DIEGO LUQUE F.
- 10- ENTIDIA MARTINEZ VALDEZ
- 11- OMAIRA BLANCA PERIGAULT C. Hitachi
- 12- GUILLERMO RODOLFO RILEY DE LEON Comisión del Canal
- 13- LUIS ALBERTO RUDAS CASTELLANOS
- 14- ANTONIO ARIEL SANDOVAL B. Comisión del Canal

SEGUNDA GENERACION

- 1- ABREGO TEMISTOCLES Fábrica de Vidrios Panamá
- 2- ALVARADO IVAN
- 3- ARJONA RAFAEL
- 4- ESPINOSA RAMON INAFORP
- 5- GUERINI ALCIBIADES Centro Plaza
- 6- PERALTA SEBASTIAN Comisión del Canal
- 7- REYES AXELL
- 8- RIQUELME DOMINGO
- 9- RODRIGUEZ JAVIER INAFORP
- 10- SANCHEZ ENRIQUE
- 11- TEJADA PASCUAL Electrosistemas
- 12- DE LA ESPRIELLA EZEQUIEL INAFORP

TERCERA GENERACION

- 1- VILLARREAL EDUARDO
- 2- MORAN H. MORAN
- 3- HO CARLOS
- 4- LIAO PONCE ALBERTO
- 5- NARVAEZ G. OMAR
- 6- ORTEGA MIGUEL
- 7- EGEA B. JAVIER

ELECTRICIDAD INDUSTRIAL
PRIMERA GENERACION

1- SOCRATES ANDREWS LUQUE	Comisión del Canal
2- JUAN ANTONIO ARIZA ARABA	Pepsi Cola
3- CARLOS BENNETT WAITH	
4- RIGOBERTO BERNAL MENDOZA	Cemento Panamá
5- GUSTAVO ULISES DAWKINS TORRES	
6- RODRIGO DE OBALOIA	Envases Panameños, S. A.
7- OMAR ENRIQUE ESCARTIN VISUETI	
8- ANDRES FLORES A. SANCHEZ	
9- RICARDO ALBERTO MEDINA BARAHONA	RODELAG
10- JOSE MARIA MADRID ALVARADO	REPASA
11- ROLDAN ENRIQUE RIVERA APARICIO	Compañía Panameña de Aceite, S. A.
12- JOSE INES RODRIGUEZ MORGAN	
13- CESA AUGUSTO VARGAS BERNAL	INAFORP
14- RAUL ERNESTO YUNSAN MARQUEZ	SUCASA

SEGUNDA GENERACION

1- CARLOS MANUEL FAOUL	Canadá
2- JULIO VARGAS	Contratista Industrial
3- JOSE A. SERRANO	Armada Norteamericana
4- EVARISTO RAMOS	
5- OMAR O. QUIROZ G.	Pepsi Cola
6- EDILBERTO PINZON BONILLA	Estudia Universidad Panamá
7- ANGEL PEREZ	
8- DAMIAN MARTEZ MONTENEGRO	Seguridad
9- CRISTOBAL MARTINEZ MENDOZA	Tribunal Electoral
10- ALBIN ENRIQUE LEZCANO	INAFORP-Chiriquí
11- FROILAN FIGUEROA	
12- ELIAS FAMANIAS	Ron-Bacardi
13- ENRIQUE ANTONIO CORREA	INAFORP
14- JAVIER ACOSTA	Comisión del Canal
15- MARCELINO ESCALANTE A.	

TERCERA GENERACION

1- AVILA PLUTARCO ELIAS	Cervecería Nacional
2- CASTILLO KARIN KAYSER	
3- DE LOS RIOS EDWIN	
4- DE LOS RIOS ALCIBIADES	
5- FLORES AURELIO	
6- GONZALEZ ARTEMIO	Ingenio Santa Rosa
7- GONZALEZ ERNESTO	
8- HO LUIS	
9- MONTENEGRO BALBINO	
10- MORGAN ALEXANDER	Vidrios Panamá, S. A.

- 11- MUÑOZ ELOY Cemento Atlántico
12- PEÑA BLAS
13- RIOS ROGELIO
14- RIVERA ROBERTO
15- RODRIGUEZ ABDIEL
16- SAMANIEGO RUBIEL
17- SMITH VALENCIO
18- TORRERO AZAEL Cemento Panamá

CUARTA GENERACION

- 1- MOISES A. BATISTA
2- TOMAS DANIEL BERGUIDO CAMARGO
3- ANTOLIN CEDEÑO
4- DAMAIRA CÚMBRERA
5- JORGE LUIS DE LEON CRUZ
6- ALCIBIADES ENDARA GONZALEZ
7- JESUS GAITAN
8- ELMER GUTIERREZ BUSTAMANTE
9- MIGUEL ANGEL HERNANDEZ
10- MAURO E. MARTINEZ
11- FERMIN MIRANDA C.
12- EYNAR MONTENEGRO
13- MARCOS J. SANCHEZ
14- MANUEL O. SOLANO SIMITI

REFRIGERACION Y AIRE ACONDICIONADO

PRIMERA GENERACION

1-	MARIO SAMUELS BENNETT	
2-	AQUILES CASTROVERDE	Nestle de Mata
3-	CARLOS CHAVARRIA	Coparmec. S.A.
4-	TEODORO GONZALEZ	Coparmec. S.A.
5-	GUILLERMO GOODE	Clima control
6-	JOSE MANUEL GUERRA	Refrigerando Leon (Chiriqui)
7-	ROLANDO HURTADO	Comision del Canal
8-	ELIZARDO JAEN A.	Clima control
9-	ANGEL LEMO MENDOZA	Coparmec S.A.
10-	ARMANDO J. PALACIOS G.	Compania Independiente
11-	CARMEN ROXANA PAREDES	El Triangulo
12-	AUGUSTO REYES M.	Taller independiente
13-	AQUILINO RODRIGUEZ G.	TIPFOPI
14-	ROGER L. VALDEZ R.	Refrigerando Leon Chiriqui

SEGUNDA GENERACION

1-	CANATE FELIZ	Compania independiente
2-	CASTREJO INOCENTE	Coparmec. S.A.
3-	LOZANO JOSE	
4-	ESPINOSA LUIS	Clima control
5-	GONZALEZ CESAR	Compania independiente
6-	GUDIÑO ENRIQUE	Adair Parker
7-	HERRERA EFIGENIO	Compania independiente
8-	SAMANIEGO TEMISTOCLES	
9-	SANTAMARIA ANGEL	Refrigerando Leon Chiriqui
10-	EDWARS VINCE	Comision del Canal
11-	NARVAEZ JOSE	Acceite Nacional
12-	VILORIA NICOLAS	Aire Tecnica

TERCERA GENERACION

1-	HIDALGO SEBASTIAN	Taller independiente
2-	PEDRO H. DE GRACIA	Comision del Canal
3-	CARLOS G. RICHARD T.	Coparmec
4-	XIOMARA HARROW	Vacamonte
5-	GABRIEL GOMEZ	
6-	RENATO PINEDA	Taller independiente
7-	IVAN A. VALDERRAMA R.	Nestle de Mata
8-	JOSE ANTONIO CAMARENA	
9-	CESARIA, GONZALEZ	Compania independiente
10-	JOSE MANUEL VELIZ	Compania independiente
11-	JOSE F. SANCHEZ J.	
12-	CARLOS NODHIER QUIÑONES	Aire Frío
13-	IVAN SEPULVEDA CARREÑO	Compañías Nacionales

MECANICA AUTOMOTRIZ
PRIMERA GENERACION

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1- SCOTT ARIEL | Estudiando |
| 2- RODRIGUEZ RUBEN D. | |
| 3- PANG ALEX | |
| 4- Mc. CLEAN JUAN | |
| 5- MARTINEZ LUIS CARLOS | Taller en Panamá-Viejo |
| 6- JORDAN FLORENTINO | |
| 7- HERNANDEZ OSCAR | |
| 8- GOMEZ GABRIEL | |
| 9- GONZALEZ ROLANDO | |
| 10- ESPINO JAVIER | Maneja Bus Colegial |
| 11- COUSINS REINALDO | Estudia en EE UU |
| 12- CORNEJO GRISELDA | Escuela de Aprendiz |
| 13- CEDEÑO LARRY | |
| 14- BARRERA DANIEL | |

CHAPISTERIA Y PINTURA

PRIMERA GENERACION

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1- SANDIFORD RENE | Universidad de Panamá |
| 2- MELENDEZ JORGE | Ministerio de Educación |
| 3- CLARENCE OMAR | Taller Propio |
| 4- ANDERSON LUNA SAMUEL | Canadá |
| 5- AIZPURA MEDICA LUIS CARLOS | |
| 6- BUTCHER MARTIN ALBERTO | Auto Body Shop |
| 7- AGUILAR CASTILLO LUIS ALBERTO | IQUEL |
| 8- AMARIS R. JOSE IGNACIO | Taller de Mecánica |
| 9- ESCOBAR JAVIER | FORSA |
| 10- HENRIQUEZ ANGEL S. | FORSA |
| 11- CAÑATE ESTEBAN | PROCAR |

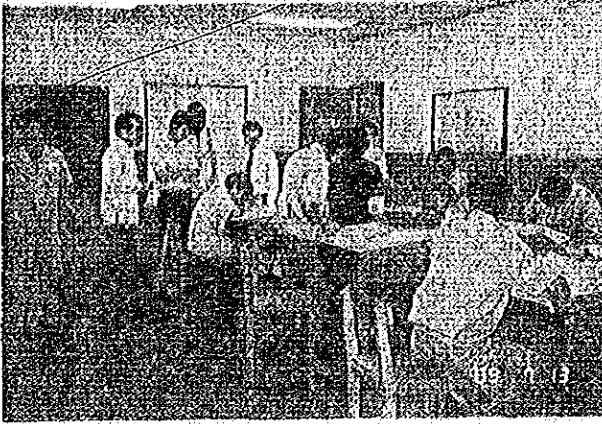
SOLDADURA ESPECIALIZADA
PRIMERA GENERACION

- 1- BETHANCOURT LUIS A.
- 2- BONICHE GRISELOO
- 3- ESPINOSA ISMAEL
- 4- GONZALEZ UBALDO
- 5- IGLESIAS JOSE
- 6- MUÑOZ MARCELINO
- 7- NUÑEZ VICTOR
- 8- PETRO ELVIS
- 9- ROMERO FERNANDO
- 10- SANCHEZ HECTOR
- 11- SOJO JHONY
- 12- VARGAS MARCÓS

SEGUNDA GENERACION

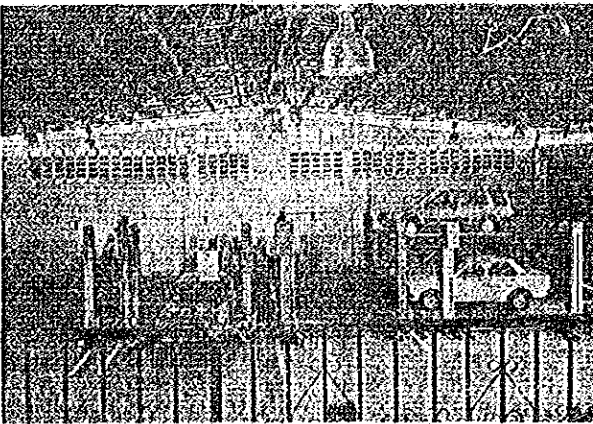
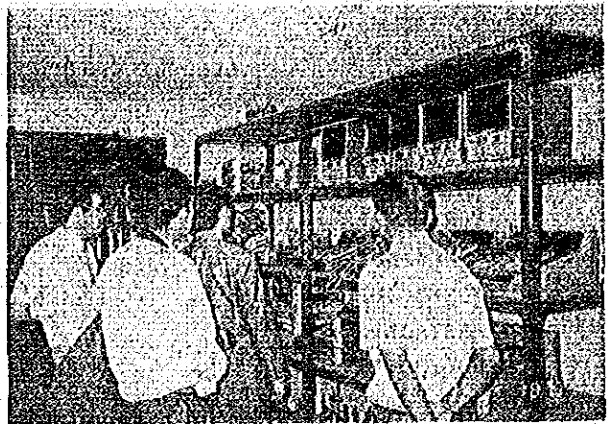
- 1- APARICIO LUIS
- 2- CENTENO ORIEL
- 3- DEVILLE JAIME
- 4- ECHEVERRIA ERICK
- 5- GOMEZ SAMUEL
- 6- GOMEZ JUAN DE DIOS
- 7- MASTROLINARDO ITALO
- 8- MOLINO DAVID
- 9- ORTIZ ORTEGA ANSELMO
- 10- SALGADO LUIS
- 11- SANTOS SAMUEL
- 12- VALDERRAMA UBALDO

8. 写真



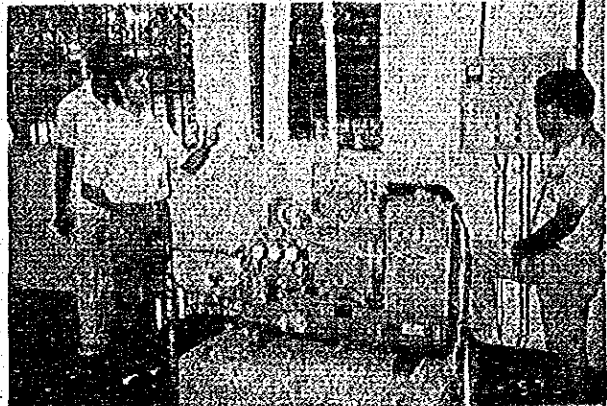
電気科実習室

電気科機材倉庫



自動車整備科

冷凍空調科



JICA